

地質情報研究部門 2025 年度年報

Annual Report of Research Institute of Geology and Geoinformation 2025

地質情報研究部門
2026.09



地質情報研究部門 2025 年度年報

年報刊行にあたって

日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的島弧に位置します。このような地質条件のなか、エネルギー・環境・資源制約への対応やレジリエントな社会の実現といった社会課題を解決し、国土の持続的発展を支える地質情報が求められています。地質情報研究部門は、我が国における地質調査の責任機関である地質調査総合センター（GSJ）の研究ユニットとして、日本の国土および周辺海域の地質学的な実態を明らかにし、国の知的基盤としての地質情報を整備することで、この要請に応えています。具体的には、我が国の第3期知的基盤整備計画（2021年度～2030年度）に基づき、陸域・海域ならびに沿岸域における系統的な地質調査を推進し、地質図幅や地球科学基本図等の基盤的地質情報を整備するとともに、その利活用促進に取り組んでいます。また、陸域資源の持続的利用に向けた地球環境変化の定量的把握を目的として、衛星画像情報の整備とその利活用促進に関する研究、さらには海域に賦存するエネルギー・資源の開発を見据えた海洋環境影響評価手法の高度化に関する研究にも取り組んでいます。そして、最新の地質情報と科学的根拠に基づいた自然現象に関する科学的理解をもとに、産業技術総合研究所の第6期中長期目標期間におけるミッションである「社会課題の解決と産業競争力の強化に貢献するイノベーションの連続創出」の実現に向け、地質情報の社会実装を積極的に進めていきます。

本年報は地質情報研究部門の2025年度の研究活動を記録し、紹介するものです。近年の自然災害の増加に伴い、知的基盤としての地質情報に対する社会の関心が高まり、防災・資源・エネルギー・環境などの社会課題の解決に資する科学的情報への期待も一層大きくなっています。このような社会環境のもとで、職員一同、地質の調査研究のさらなる推進と発展に向けて取り組んでおります。ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚の無いご意見を賜りますようお願いいたします。

今後も長期的な国家的事業の支柱となる基盤的地質情報整備を継続してまいります。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2026年9月

地質情報研究部門長 野田 篤

地質情報研究部門 2025 年度年報

目 次

1. 概要	1 -
2. 研究グループ	2 -
3. 研究テーマ概要	5 -
4. 外部資金による研究	17 -
5.業績	25 -
5.1 地質図類	25 -
5.2 データベース・ソフトウェア	28 -
5.3 誌上発表	29 -
5.4 口頭発表	44 -
5.5 イベント	69 -
5.6 プレス発表	72 -
5.7 受賞	73 -
資料編	74 -
付 1 構成及び所在	74 -
付 2 職員等	75 -

1. 概要

1.1 研究目的

地質調査に関する我が国における責任機関として、国の知的基盤整備計画に沿って地質情報の整備と高度化を進め、我が国の産業基盤を引き続き強化する。

当研究部門のミッションは、日本の国土および周辺海域の地質情報を国の知的基盤として整備・高度化し、その成果の社会実装を通じて、国民生活と経済社会活動を支えることである。日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的島弧に位置する。このような地質条件の中、防災・資源・エネルギー・環境に関わる社会課題の解決に貢献するために、科学的根拠に基づく信頼性の高い地質情報を整備・提供することが求められている。そこで、高い研究力と確かな技術力を基盤に最新の地質情報を整備し、我が国の地質情報インフラの中核的存在として、国民生活と社会経済を支える科学的情報基盤を継続的に提供する。

1.2 中期目標・計画達成のための方針

地質調査のナショナルセンターとして、わが国の知的基盤整備計画に基づき、地質情報を整備する。具体的には、陸域地質図幅・海洋地質図、3次元地質地盤図をはじめとする各種地質情報の整備拡充を通じて、防災・資源・エネルギー・環境に関する様々な社会課題解決、特に地質災害による被害の軽減、資源とエネルギーの安定確保、地球環境の持続可能な利用と保全に必要な地球科学的根拠を提示する。その上で、地質情報のデジタル対応を進め、社会への発信力を強化するとともに、整備した地質情報の利活用を促進する。

また、産総研の第6期中長期目標に沿って、レジリエントな社会の実現に向けた地質情報の整備と技術開発、ならびに陸域・海域に賦存するエネルギー・鉱物資源等の調査と評価及びそれに関わる技術開発を推進する。これにより、社会課題の解決と我が国の産業競争力強化に貢献する。加えて、地質情報 DX 等に資する先端的技術シーズを創出し、将来の社会実装につなげる。

1.3 グループ体制と重点課題

上記の目標を達成するため、研究グループをベースにした基礎・萌芽研究と、ユニット・グループを横断するプロジェクト研究によるマトリックス方式を継続して採用する。研究グループは専門家集団としての特徴を生かし、プロジェクト研究の基礎を支え、将来のプロジェクト創出の基となる研究を実施する。当研究部門の組織体制は12研究グループから構成される。当研究部門では研究グループを横断する重点プロジェクトを9テーマ設定し、連携・協力して研究を進める。

1.4 内外との連携

社会課題の解決に向けた技術開発や成果の社会実装を

促進するため、他ユニットや他領域との連携を強め、産総研における地質調査総合センター（GSJ）としての機能を十分に果たす中核を担うとともに、他機関との連携も強化する。

研究によって創出される地質情報はもちろんのこと、地球を理解するための科学技術は、地質学的にも関連の深いアジアをはじめ、世界にとって共通の財産である。当研究部門は CCOP（東・東南アジア地球科学計画調整委員会）などの国際組織や IODP（国際深海科学掘削計画）、ICDP（国際陸上科学掘削計画）などの国際プロジェクトを通じて世界に貢献する。

2. 研究グループ

2.1 平野地質研究グループ

(Quaternary Basin Research Group)

研究グループ長：納谷 友規

概要：

堆積平野とその周辺丘陵地を主な研究対象とし、それらの地質学的実態把握と形成プロセスの総合的な理解に努め、自然災害の軽減・産業立地・環境保全などに貢献する地質情報を提供する。この目的のため、沿岸域の地震防災・減災に資する高精度地質情報の整備事業、沿岸域の沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトや陸域地質図プロジェクトにも積極的に参加し、また関連する所内外の研究グループや研究機関とも連携して研究を進める。関東地方、中部地方、近畿地方、四国地方における沿岸平野を重点的に調査・研究している。平野を構成する地層の詳細な層序・地質特性・地質構造や地形特性を把握し、またそれらの形成プロセスを明らかにするとともに、地質情報のマップ化、データベース化を進めている。さらに平野域に関連した自然災害が発生した場合は関係諸グループと連携を取り、被害調査などを実施する。年代層序や堆積環境復元などに資する古生物学、堆積学、古地磁気学、火山灰層序など、地層の年代や堆積環境復元に資する基礎研究も進めている。

研究テーマ：テーマ題目 1、19

2.2 層序構造地質研究グループ

(Stratigraphy and Tectonics Research Group)

研究グループ長：原 英俊

概要：

日本列島と大陸縁辺域であるアジア周辺地域を主な研究対象とし、それらの地質学的実態を把握するため層序構造地質の研究を行う。主に、過去の造山帯（沈み込み型および衝突型）における付加－大陸成長過程の解明、前弧域－背弧域の堆積盆における堆積環境の復元、火山活動の時空間変遷に基づく島弧内堆積盆の形成過程の解明、遠洋域での堆積環境の復元と古海洋地理区の解明、高精度微化石層序の構築を主要な課題と位置づける。さらに国土の基本地質情報整備のために部門重点課題として実行される陸域地質図プロジェクトに中核研究グループとして参画する。得られた研究成果とともに、最新の地質学的知見を融合し、5 万分の 1 および 20 万分の 1 地質図幅、20 万分の 1 日本シームレス地質図の整備を行う。

研究テーマ：テーマ題目 1、17、20

2.3 地殻岩石研究グループ

(Orogenic Processes Research Group)

研究グループ長：工藤 崇

概要：

地殻岩石の研究と陸域地質図プロジェクトの 2 つを主要な研究活動の柱とする。地殻岩石の研究は、変成岩・深成岩・火山岩・堆積岩を対象とし、活動的島弧の長期的挙

動及び進化の解明を目標とする。特に、沈み込み帯のプレート境界における付加・変形・変成作用、島弧地殻の中～深部における変形・変成・深成作用、島弧地殻の浅部～表層における火成・堆積・変形作用の系統的な調査・研究及び分析技術の開発を行う。陸域地質図プロジェクトについては、その運営・実施に中核グループとして参画し、5 万分の 1 地質図幅の作成や出版年度の古い 20 万分の 1 地質図幅の改訂を行う。特に、陸域地質図プロジェクトにおいては、地殻岩石の研究成果および既存の地質体形成過程に関する知見を融合・適合することにより高精度の地質図の作成を行う。また、20 万分の 1 日本シームレス地質図の改訂にも携わる。研究成果は論文・地質図・データベースなどを通じて公表する。

研究テーマ：テーマ題目 1、11、21

2.4 シームレス地質情報研究グループ

(Integrated Geo-information Research Group)

研究グループ長：内野 隆之

概要：

陸域地質図プロジェクトの中核グループとして、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 の更新・機能強化を行う。また、5 万分の 1 および 20 万分の 1 地質図幅の作成を行い、日本列島形成過程などの学術的研究も進める。加えて、シームレス地質図に関連する地質情報のオープンデータ化、表示機能向上など地質情報を社会により利活用してもらうための技術開発、衛星・地形・農林情報とのデータ連携による新たな価値の創出、シームレス化に伴って開発された技術の国際標準化、JIS A0204・0205 の作成・普及などを、地質領域の他グループ・室や他領域の関係部署、大学・外部機関と連携して実施する。また、「防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業」の一つである「斜面災害リスク評価のための地質情報整備事業」の中核グループとして、災害履歴データの収集や各種地質情報の整備・統合・解析を行い、斜面災害リスク評価図を作成する。

研究テーマ：テーマ題目 1、4、22

2.5 情報地質研究グループ

(Geoinformatics Research Group)

研究グループ長：長 郁夫

概要：

当研究グループは、地層や地質試料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化・統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行う。野外地質調査やボーリング調査、常時微動観測、各種室内分析により、基礎的な地質情報を抽出し高精度化するとともに、それら地質情報の処理技術の開発研究を実施する。またシームレス化・デジタル化された地質情報を統合することにより、地質災害軽減などに資する研究を行う。さらに地質情報を公開するための仕様の検討やシステム構築についても取り組む。それらの研究をベースに、都市域の 3 次元地質地盤

図、陸域地質図など、部門が推進する地質情報整備に積極的に取り組む。特に都市域の 3 次元地質地盤図については、研究課題推進の中核研究グループとして、関係外部機関と協力し、層序の研究から、3 次元地質モデリング、公開システムの構築まで幅広く担当する。また各地で実施されているスマートシティなど、都市 DX の取り組みを通じて、3 次元地質地盤情報の社会実装に努める。

研究テーマ：テーマ題目 9、23

2.6 リモートセンシング研究グループ

(Remote Sensing Research Group)

研究グループ長：山本 聡

概要：

当研究グループでは、国の知的基盤整備計画に沿ってリモートセンシング技術に関わる開発研究を推進し、社会の安全・安心および持続可能な発展を支える産業基盤の構築に貢献する。NASA と共同で運用している光学センサー ASTER の校正および検証を実施し、品質管理された衛星データを GSJ 地質情報データベースサービスとして一般に無償提供するとともに、NASA/USGS にも提供する。また、衛星情報と地質情報の活用により、資源・エネルギー、環境、防災、宇宙探査分野における研究開発を通じて社会的課題の解決に貢献する。資源・エネルギー分野では、リモートセンシング技術の活用により、新エネルギーおよび地下資源開発に関する探査・分析・評価の技術開発を行う。環境分野では、衛星情報やリモートセンシング技術を活用した環境評価技術の開発を進める。防災分野では、斜面災害リスク評価に向けた地質情報の整備および活用に関する研究を推進する。また将来探査衛星に搭載される新型センサーの開発研究や、ドローンを活用したリモートセンシング技術の開発研究にも取り組む。

研究テーマ：テーマ題目 5、24

2.7 海洋地質研究グループ

(Marine Geology Research Group)

研究グループ長：井上 卓彦

概要：

海域地質図プロジェクトの中核を担いつつ、海洋地質研究を遂行する。日本周辺海域の海洋地質情報を整備・公開するとともに、それらのデータを基に日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、および海底火山や熱水活動に伴う地質現象の解明を行うことを目的とする。民間船、大学の実習船などの調査船を用いて音波探査、堆積物および岩石採取を行い、それらの解析によって海洋地質図(海底地質図および表層堆積図)を作成、出版する。これらの調査で得られたデータを整備し、インターネット経由で一部データの公開を進めるとともに、既存のデータについて、利活用しやすいようにデジタル化・データベース化を進める。地質情報に乏しい沿岸海域についても、小型船舶を用いて音波探査や海底試料採取を実施し、海域と陸域の統合的な解析を進めることにより、沿岸

域の地質情報の整備を行う。これらの調査に加え、これら以外の内外の調査航海や他機関のデータなども活用し、活動的構造運動や堆積作用、古環境変動などの海域における地質現象の解明を行う。

研究テーマ：テーマ題目 6、8、13、14、25、32

2.8 地球変動史研究グループ

(Paleogeodynamics Research Group)

研究グループ長：板木 拓也

概要：

海陸の地質・古生物学および地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。当研究グループは、このような広域の研究をカバーするため、多様な専門分野からなる研究者集団として構成されている。個々の研究者が高い技術力を維持するとともに、革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として、当部門のミッションである陸域、海域、それらをつなぐ沿岸域の地質情報の整備、および海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、さらに発展的な研究としてこれらを展開する。

研究テーマ：テーマ題目 14、15、18、26

2.9 海洋環境地質研究グループ

(Marine Geo-Environment Research Group)

研究グループ長：井口 亮

概要：

最新の地質情報を整備し、その科学的根拠に基づいて地球の過去・現在を知り、地球環境の健全性の評価及び自然災害発生リスクに関する科学的理解と将来予測を社会に発信する。具体的には、将来の深刻化が懸念されている地球環境問題、すなわち温暖化(海域・内水域)、海水準上昇、海洋酸性化、海洋貧酸素化などに関係する地質学的諸問題の解明に当たるとともに、それらの過去の変遷を復元する研究や海洋ネガティブエミッション技術の開発を推進する。海洋エネルギー・鉱物資源の探査・開発については、地質学、海洋物理学、生物地球化学及び海洋生態学的手法を用いた環境ベースライン調査を企画し、特に環境影響評価の観点からの貢献を図る。これら目標実現に向けて、安定同位体比分析を始め各種地球化学的分析法、分子遺伝学的手法などの高度化について重点的に取り組むとともに、生態学、堆積学、海岸工学、古生物学など多様な手法の連携により、研究課題に対して総合的なアプローチを取る。第 6 期に新設されたネイチャーポジティブ技術実装研究センターでは、中心的な役割を担うべく、他領域と積極的な研究交流を持ち、社会課題の解決に向けた研究開発を推進する。また、部門の重点プロジェクト海域地質図プロジェクトに参画する。

研究テーマ：テーマ題目 16、27

2.10 資源テクトニクス研究グループ

(Tectonics and Resources Research Group)

研究グループ長：山下 幹也

概 要：

我が国の排他的経済水域には、海底鉱物資源の賦存が期待できる島弧火山列が複数存在する。グループでは、島弧火山列に関連したテクトニックな時空変遷を解明することにより、海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行う。海域における調査は、地質試料を採取し、それに対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行う。異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みる。すなわち、島弧の形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施する。岩石学的・地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。従って、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを目標に研究を行う。固体地球物理学的な研究として、海上磁気探査の効率化を目指し環境整備を行う。

研究テーマ：テーマ題目 7、10、28

促進し、社会課題の解決に貢献することを目指す。地球物理学・測地学・地震学などの専門性を活かして、地下の物理的な構造・動態を可視化・把握する技術の開発・改良を行う。それらの技術を活用して、斜面災害・地震災害の評価などレジリエントな社会の実現に資する地球物理情報の整備および発信を行う。これらの研究成果は論文、地球科学図、データベース、プレス発表及び各種外部向けイベント等を通じて社会に発信する。グループの有する地球物理学的観測・研究手法により各種プロジェクトの基礎を支えとともに、将来の新規プロジェクトの創出を目指した萌芽研究の推進と次世代研究人材の育成を行う。また、民間企業との共同研究、技術コンサルティングを通じた各種探査技術の利活用および社会実装に取り組む。

研究テーマ：テーマ題目 2、30

2.11 地球化学研究グループ

(Geochemistry Group)

研究グループ長：天野 敦子

概 要：

地殻における元素の地球化学的挙動の解明を中心とした地球化学情報の集積・活用と高度な分析技術の開発を目的とし、元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成、あらゆる地質試料の分析の基礎となる地球化学標準物質の作製、地質関連試料の高度な分析技術の開発と維持・普及を行う。地球化学図の研究では、大都市市街地における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成するとともに、既に公開している地球化学図データベースの充実を図る。標準物質の研究では、岩石標準試料の国内唯一の発行機関として、ISO に対応した各種地質試料の認証標準物質の作製を行うとともに、岩石標準試料の各種情報をデータベースとして公開する。また、地球化学の基礎技術として、さまざまな地質試料中の元素の高度な分析技術の開発と、それらを用いた元素の挙動解明の研究を行う。

研究テーマ：テーマ題目 3、12、29、31

2.12 地球物理研究グループ

(Geophysics Group)

研究グループ長：宮川 歩夢

概 要：

本研究グループは、地球物理情報の整備およびそのための技術開発を推進するとともに、これらの成果の利活用を

3. 研究テーマ概要

テーマ題目一覧

- [テーマ題目 1] 陸域地質図プロジェクト（運営交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 2] 地球物理情報プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 3] 地球化学図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 4] 次世代シームレス地質図の研究（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 5] 衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 6] 海域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 7] 海底鉱物資源プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 8] 大陸棚調査プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 9] 都市域の地質地盤図（運営費交付金：重点プロジェクト）
- ．．．．．
- [テーマ題目 10] 漁船等の小型船にも対応した小型三分磁力計の開発（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 11] 多波長顕微ラマン分光装置の移設とセキュリティ向上のための改修（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 12] 高感度かつ高精度な水銀定量分析を可能とする加熱気化水銀測定装置の更新（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 13] 効率的な海底岩石試料採取システムの開発（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 14] GSJ が開発した新型バイプロコアラの実運用試験（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 15] 常温稼働可能な磁気顕微鏡開発と資源科学・地球惑星科学への応用（運営費交付金：産総研-東北大マッチング研究支援事業）
- [テーマ題目 16] 先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発（運営費交付金理事長裁量予算）
- [テーマ題目 17] 全岩化学組成分析におけるルーチン確立に向けた研究環境整備（運営費交付金：部門戦略予算）
- [テーマ題目 18] 相対海面上昇 DB の構築（運営費交付金：部門戦略予算）
- ．．．．．
- [テーマ題目 19] 平野地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 20] 層序構造地質の研究（運営交付金）
- [テーマ題目 21] 地殻岩石の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 22] シームレス地質情報の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 23] 情報地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 24] リモートセンシングの研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 25] 海洋地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 26] 地球変動史の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 27] 海洋環境地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 28] 資源テクトニクスの研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 29] 地球化学の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 30] 地球物理の研究（運営費交付金）
- ．．．．．
- [テーマ題目 31] 標準試料自己財源（成果普及品自己財源）
- [テーマ題目 32] 海洋地質データ頒布（成果普及品自己財源）

〔テーマ題目 1〕陸域地質図プロジェクト（運営交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕原 英俊（層序構造地質研究グループ）

〔研究担当者〕原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤 剛、武藤 俊、志村 侑亮、鈴木 敬介、山田 来樹、工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、中村 佳博、羽地 俊樹、山岡 健、牛丸 健太郎、納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、中谷 是崇、内野 隆之、吉川 敏之、西岡 芳晴、板野 靖行、長森 英明、村岡 やよい、野田 篤、小松原 純子、中江 訓、宮地 良典、中島 礼、宮川 歩夢、山元 孝広（活断層・火山研究部門）、石塚 吉浩（活断層・火山研究部門）、古川 竜太（活断層・火山研究部門）、松本 弾（活断層・火山研究部門）、丸山 正（活断層・火山研究部門）、伊藤 順一（地質調査総合センター）、小松原 琢（地質情報基盤センター）、宮崎 一博（連携推進室）、高木 哲一（企画本部）、細井 淳（茨城大学）、植木 岳雪（帝京科学大学）、竹内 誠（名古屋大学）、常盤 哲也（信州大学）、森 宏（信州大学）、植田 勇人（新潟大学）、長谷川 健（茨城大学）、遠藤 俊祐（島根大学）、西山 賢一（徳島大学）、中尾 賢一（徳島県立博物館）、加瀬 善洋（道総研）、林 圭一（道総研）、廣瀬 亘（道総研）、藤内 智士（高知大学）、辻 智大（山口大学）、川村 寿郎（宮城教育大）、吉田 孝紀（信州大学）、土谷 信高（蒜山地質年代学研究所／元岩手大学）、木村 皐史（電力中央研究所）（常勤職員 31 名、他 28 名）

〔研究内容〕

「陸域地質図プロジェクト」の実施にあたっては、本部門・他研究ユニット及び外部研究機関の研究者との協力体制のもと、「層序構造地質」・「平野地質」・「地殻岩石」・「シームレス地質情報」・「火山活動」（活断層・火山研究部門）からなる 5 つの中核グループが推進している。20 万分の 1 地質図幅では、2 区画（知床岬・姫路）の調査を行った。5 万分の 1 地質図幅に関しては、22 区画（盛岡・大川・陸中大原・鹿沼・勝浦・金峰山・満島・剣地・穴水・丹生・長島・川原河・網野・冠島・香住・福山・鳴門海峡・甲浦・松山北部・梶原・教良木・種子島南部）の調査を行った。また、20 万分の 1 地質図幅を 1 区画（京都及大阪、第 2 版）、5 万分の 1 地質図幅を 3 区画（大子・浜坂・大多喜）出版した。

〔キーワード〕地質図幅、5 万分の 1 地質図、20 万分の 1 地質図

〔テーマ題目 2〕地球物理情報プロジェクト（運営費交付

金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕宮川 歩夢（地球物理研究グループ）

〔研究担当者〕宮川 歩夢、大谷 竜、住田 達哉、伊藤 忍、大熊 茂雄（常勤職員 3 名、他 2 名）

〔研究内容〕

地球物理図プロジェクト等を通じて蓄積された重力・磁気データや探査技術を発展させ、それらの効果的な利活用を推進するため、地球物理情報の統合データベース整備および情報発信システムの構築を行う。また、地球物理情報の取得・解析・評価に関する技術の社会実装および産学官における利活用促進に取り組む。さらに、利用者ニーズの調査・把握を通じて、所内プロジェクトへの貢献や所外への技術支援等、多様な社会的ニーズへの対応を行う。2025 年度は、反射法地震探査データについて、これまでグループ内で保管・管理されてきたデータの所内外での利活用に向けて、まず所内関係者が閲覧可能なシステムの試作を行った。また、地球物理情報・技術の利活用促進の一環として、民間企業への重力探査技術支援、20 万分の 1 地質図幅「京都及び大阪」への重力図掲載、ならびに地球科学情報に対する社会的需要を把握するための外部ヒアリングを実施した。

〔キーワード〕地球物理図、重力図、空中磁気図、反射法地震探査、地球物理データベース、研究 DX

〔テーマ題目 3〕地球化学図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕久保田 蘭（地球化学研究グループ）

〔研究担当者〕久保田 蘭、天野 敦子、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音、太田 充恒、立花 好子（常勤職員 6 名、他 1 名）

〔研究内容〕

元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成において、大都市市街地を含む地域における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の日本全国図の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成する。また、日本全国の 53 元素の濃度分布の全データをデータベース化し、インターネットを通じて日本の地球化学図データベースとして公開している。このような地球化学基盤情報の提供は、将来的に有害元素などによる環境汚染を評価する際の基準・指標として重要な役割を果たす。精密地球化学図の作成では、「関東の地球化学図」と「中部地方の地球化学図」の発刊に続き、2019 年度より、新たに大阪市・京都市を中心とする関西精密地球化学図の作成に着手している。

2025 年度は、四国地方まで対象地域を拡充して、徳島県及び香川県の 113 地点から河川堆積物を約 2kg 採取し、実験室で乾燥後、180 μm 以下の分画について化学分析を行った。さらに、これまで採取した試料の分析データの解析をすすめ、再採取が必要な地点の選定を実施した。また、海域の地球化学図の拡充として、九州北西海域及び東シナ

海域等の海底堆積物試料の化学分析を実施し、GB24 航海の海底堆積物試料の化学分析値を地調研報にて報告した。

〔キーワード〕地球化学図、データベース、有害元素、バックグラウンド、環境汚染、元素分布

〔テーマ題目 4〕次世代シームレス地質図の研究（運営費交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕内野 隆之（シームレス地質情報研究グループ）

〔研究担当者〕内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、宝田 晋治、川畑 大作、長津 樹理、井川 敏恵（常勤職員 5 名、他 2 名）

〔研究内容〕

本プロジェクトは、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 のデータ更新と表示機能等の強化を行うものである。2025 年度は、2023 年に刊行された 20 万分の 1 地質図幅「富山」（第 2 版）をベクトルデータ化した後、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 へ埋め込み、更新を行った。同時に、他の 7 図幅地域における個別の修正も行った。また、2024 年に刊行された 20 万分の 1 地質図幅「広尾」（第 2 版、修正版）をベクトルデータ化し、シームレス化を進めた。その他、凡例数を約 60 に絞った「簡略版」シームレス地質図を公開した。

〔キーワード〕20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2、ベクトルデータ化、20 万分の 1 地質図幅「富山」、「簡略版」シームレス地質図

〔テーマ題目 5〕衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究（運営費交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕山本 聡（リモートセンシング研究グループ）

〔研究担当者〕山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ、岩男 弘毅（常勤職員 5 名）

〔研究内容〕

日米共同運用中の ASTER について、全一次データ（生データ）を NASA からインターネットを通じアーカイブし、その一次データに対して GSJ で校正・検証を実施し、品質管理を適応した上で高次プロダクトを生成し、引き続き NASA/USGS に提供した。データの提供にあたって、ASTER のサブシステムである VNIR と TIR それぞれについて 49 日毎の機上校正データ解析を行い、センサ劣化特性の定量評価を実施した。さらに、過去の機上校正結果の長期トレンドに対する品質評価を踏まえ、校正係数の再導出を行い、その成果を茨城大学関係者および宇宙システム開発利用推進機構に提供した。その結果、ASTER データの品質評価基準において誤差を規定範囲と比較して大幅に改善し、品質管理の高度化に貢献した。また ASTER の品質管理で得られた知見は、知的基盤に関連した後継センサである HISUI プロジェクトの校正手法の開発に展開した。さらに、民間商用衛星への展開として、企業に対す

る技術コンサルティングを実施した。

〔キーワード〕ASTER、衛星、品質管理、校正・検証、知的基盤、地質情報

〔テーマ題目 6〕海域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

〔研究担当者〕井上 卓彦、荒井 晃作、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、板木 拓也、天野 敦子、杉崎 彩子、鈴木 克明、清家 弘治、中西 諒、飯塚 睦、見邨 和英、小田 啓邦、佐藤 太一、高下 裕章、山下 幹也、針金 由美子、鈴木 淳、宇都宮 正志、喜瀬 浩輝、久保田 蘭、石塚 治（活断層・火山研究部門）、大上 隆史（活断層・火山研究部門）、岡村 行信（活断層・火山研究部門）、池原 研、片山 肇、兼子 尚知、佐藤 侑里、有元 理紗、西田 尚央（東京学芸大学）、古山 精史朗（東京海洋大学）（常勤職員 23 名、他 6 名）

〔研究内容〕

日本周辺海域の地球科学的調査・研究を通じて、地殻を中心とした海洋地球に関する基盤的情報を系統的に整備し、広く社会へ提供する。特に、海洋地質図の整備、海洋地質データベースの構築とインターネット公開、これらを支え、発展・高度化させる基盤の研究を行い、世界をリードする研究に取り組む。なお、海洋地球に関する基盤の情報及び科学的知見は、国や社会の持続的発展を支える基本的公共財として、産業立地を含む各種海洋開発・災害軽減・環境管理などに対する基礎的資料となる。2025 年度は沖縄島と宮古島の間の海域において地質調査を行った。具体的には、東海大学の望星丸による地質調査航海を、2025 年 10 月 22 日～11 月 30 日に行った。また、2023 年度調査航海に関して 12 編の概報を地質調査研究報告に特集号として取りまとめ、特集：九州北西方沖の海洋地質調査－2023 年度調査航海結果－として、2025 年 10 月に発行した。海域において調査航海を実施するとともに、これまでの調査航海の結果に基づき、海洋地質図の整備を進め、宮古島周辺の海底地質図の web 出版を行い、奥尻島北方の海底地質図の最終版を作成し、出版準備を完了した。

〔キーワード〕海底地質図、重力・地磁気異常図、表層堆積図、データベース、日本周辺海域、琉球弧、沖縄トラフ、望星丸

〔テーマ題目 7〕海底鉱物資源プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）

〔研究代表者〕山下 幹也（資源テクニクス研究グループ）

〔研究担当者〕山下 幹也、下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、高下 裕章、小野 誠太郎、井上 卓彦、三澤 文慶、石塚 治

(活断層・火山研究部門)、田中 弓 (常勤職員 10 名、他 1 名)

【研究内容】

伊豆－小笠原弧や沖縄トラフを含む琉球弧における海底鉱物資源の広域ポテンシャル調査を推進するための基礎研究を行った。伊豆－小笠原海域や琉球弧のテクトニックなデータを文献等から収集することで、有望海域の選定を行った。また、これに基づいた物理探査や試料採取の為の調査航海の準備を行った。熱水鉱床形成が起きている可能性の高い地域、及び過去に鉱床が形成された可能性のある地域を抽出するため、我が国周辺海域における活動的な火成活動域についても検討した。本年度より過去の鉱物資源探査で取得した反射法地震探査データの再解析を開始し、利用しやすいデータベース化を進めていく。

【キーワード】 海底鉱物資源、テクトニクス、伊豆－小笠原弧、琉球弧、フィリピン海プレート、地球化学、地球物理探査

【テーマ題目 8】大陸棚調査プロジェクト(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】 井上 卓彦 (海洋地質研究グループ)

【研究担当者】 井上 卓彦、小田 啓邦、下田 玄、石塚 治 (活断層・火山研究部門)、森田 澄人 (再生可能エネルギー研究センター)、片山 肇、西村 昭、棚橋 学、岸本 清行、湯浅 真人 (常勤職員 5 名、他 5 名)

【研究内容】

当該テーマは本部門の重点プロジェクトの一つであるが、地質調査総合センターを横断する大陸棚チーム員および外部有識者等の協力のもとに取り組んでいる。大陸棚調査プロジェクトには、二つの課題がある。一つは、2012 年 4 月 26 日にわが国が国連の『大陸棚の限界に関する委員会』(以下、大陸棚限界委員会) から「延長大陸棚勧告」を受領した後、2014 年 7 月に決定された「大陸棚の延長に向けた今後の取り組み方針」に基づき、わが国の延長大陸棚に関連する課題の技術的検討を担う『大陸棚延長部会 (2015 年度改定)』(内閣府総合海洋政策推進事務局所掌)を通じたフォローアップ作業への参画・貢献である。もう一つは、国連への大陸棚申請書作成のために用いた資試料のうち産総研が保有するものを研究利用も含め維持管理することである。

1) 2012 年に受領した大陸棚限界委員会の「延長大陸棚勧告」は 4 海域である。政府は、「四国海盆海域」と「沖大東海嶺南方海域」の 2 海域については 2014 年 10 月に政令により、「小笠原海台海域」については 2024 年 7 月に改訂政令により延長大陸棚を設定した。「南硫黄島海域」については、設定はなされていない。一方、勧告において審査未了の「九州パラオ海嶺南部海域」の日本の延長大陸棚は、パラオ共和国が 2017 年 10 月に分離修正申請をした北部海域の延長大陸棚に接続・重複している。パラオ共和国の申請の審査は、2018 年に審査を担当する小委員会

が立ち上がり、2025 年度終了時においても審査継続中である。前年度に引き続き、「大陸棚限界委員会」での審査状況の把握、パラオ共和国の延長大陸棚の審査状況や進捗に関連した情報収集を行った。2025 年度に開催された大陸棚限界委員会では、その 3 会期すべてにおいてパラオの小委員会での審査が行われた。大陸棚限界委員会の HP の議長報告によれば、小委員会では大陸縁辺部の外縁および制限線の適用に関する審査を継続しており、小委員会からパラオ共和国へ追加情報の提出要請や審査進捗状況の報告がなされているとのことである。コロナ・パンデミックでの中断時期があったにしても、小委員会の審査は異常に長期になっている。今後も審査の進捗および決定を見極めることが必須課題である。

2) 「大陸棚延長部会」における地質調査総合センターの役割として、我が国の「審査未了海域」の審査再開促進や審査再開後に向けて、同海域に関連する地球科学データや論文の収集・解析など必要な活動等を機関として維持することがある。大陸棚調査で得られた海底コア・岩石等の試料、および関連する地形・地質・地球物理データは試料庫・資料室等に保管し、日本の周辺海域の詳細な地球科学の基盤情報として適切な利活用に供するよう維持管理している。

【キーワード】 海洋地質調査、大陸棚画定、国連大陸棚限界委員会

【テーマ題目 9】都市域の地質地盤図(運営費交付金：重点プロジェクト)

【研究代表者】 野々垣 進 (情報地質研究グループ)

【研究担当者】 野々垣 進、中澤 努、小松原 純子、長 郁夫、米岡 佳弥、藪田 桜子 (常勤職員 6 名)

【研究内容】

本テーマでは、ボーリングデータ等を利用して首都圏の 3 次元地質地盤図の作成を行っている。2025 年度は、2024 年度に公開した埼玉県南東部の 3 次元地質地盤図についてプレス発表を行った。また、千葉県中央部及び千葉県北部延長域の 3 次元地質地盤図を公開した。千葉県中央部については、約 2,600 地点のボーリングデータの解析結果を基に広域 3 次元地質モデリングを実施し、千葉県市原市の養老川下流域を中心とした地域に分布する沖積層の 3 次元分布形状を詳細に描き出した。千葉県北部延長域については、約 1,400 地点のボーリングデータの解析結果を基に広域 3 次元地質モデリングを実施し、千葉県野田市を中心とした地域に分布する更新統下総層群及び沖積層の 3 次元分布形状を詳細に描き出した。また、神奈川県東部についての 3 次元地質地盤図作成に向けて、自治体から提供を受けた大量の土木建築工事のボーリングデータに対する地層の対比作業を進め、その結果に基づいて地質サーフェスモデルを更新した。埼玉県南東部については、3 次元地質地盤図と同範囲において、常時微動データに基づいて H/V ピーク周波数マップを作成し、公開し

た。さらに、首都圏主要部の 3 次元地質地盤図のシームレス化に向けて、埼玉県川口市において層序の再検討を目的としたボーリング調査を 1 地点で実施した。また、2024 年度に実施した千葉県松戸市のボーリングコア試料の層相観察により、海水準変動に対応した堆積サイクルを認定し、これらの地域の層序の再検討に向けた重要なデータを得た。

〔キーワード〕 都市域の地質地盤図、3 次元地質モデリング、層序ボーリング調査、地盤震動特性

〔テーマ題目 10〕 漁船等の小型船にも対応した小型三成分磁力計の開発（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）

〔研究代表者〕 佐藤 太一（資源テクニクス研究グループ）

〔研究担当者〕 佐藤 太一、高下 裕章、小野 誠太郎、山下 幹也、田上 綾香、石塚 治（活断層・火山研究部門）（常勤職員 6 名）

〔研究内容〕

大型船では進入困難な沿岸域での磁気観測を目的として、漁船等の小型船に適した小型で設置容易な三成分磁力計システム（磁気・姿勢・位置センサ統合型）の開発を進めた。2025 年秋の調査航海では、同型の MI 磁力計を借用し、現行のフラックスゲート型磁力計と同時観測を実施し、海洋観測に十分な品質の地磁気データが取得可能であることを確認した。その成果の一部は学会にて発表した（小野ほか 2026）。2025 年度後半は磁力計システムの組立を行った。2026 年度秋には試験観測を実施する予定である。

〔キーワード〕 地磁気観測、MI 磁気センサ、GNSS、姿勢計

〔テーマ題目 11〕 多波長顕微ラマン分光装置の移設とセキュリティ向上のための改修（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）

〔研究代表者〕 中村 佳博（地殻岩石研究グループ）

〔研究担当者〕 中村 佳博、内野 隆之（地質情報研究部門）、（常勤職員 2 名）

〔研究内容〕

顕微ラマン分光装置は、鉱物相の同定や変成温度の推定などに利用できる非破壊の分析装置であり、知的基盤整備をはじめ様々な研究用途で活用されている。しかし、これまで装置を設置していた 7-1 棟 523 室では、分析装置のスペースが限られており、装置増設や多様な研究用途への対応が難しい状況にあった。そこで本課題では、顕微ラマン分光装置の利用環境を改善し、より多くの研究者が利用しやすい環境を整備することを目的として、装置一式を 7-1 棟 615 室へ移設及び改修を実施した。移設にあたっては、615 室に残されていた電子顕微鏡用冷却装置を撤去・廃棄するとともに、顕微ラマン分光装置、顕微鏡および作業機を移設した。さらに、除振台や顕微鏡パーツを増設と、

解析用ソフトウェアおよび PC モニターを更新した。これらの改修により、多様な研究用途に対応できる利用環境を 615 室に整備することができ、顕微ラマン分光装置を利用する研究者の利便性向上と、分析・解析作業の効率化を図ることができた。

〔キーワード〕 顕微ラマン分光装置、実験室整備、利便性向上

〔テーマ題目 12〕 高感度かつ高精度な水銀定量分析を可能とする加熱気化水銀測定装置の更新（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）

〔研究代表者〕 久保田 蘭（地球化学研究グループ）

〔研究担当者〕 久保田 蘭、天野 敦子、山岡 香子（海洋環境研究グループ）、原 淳子（地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ）（常勤職員 4 名）

〔研究内容〕

地球化学研究グループでは、自然起源の元素のバックグラウンド値を把握することを目的として、日本全土を対象とした地球化学図を整備してきた。地球化学図整備ならびに人為起源汚染の影響評価を進めるうえで、水銀を高精度かつ迅速に定量分析できる体制の構築は不可欠である。2025 年度に導入した加熱気化水銀測定装置は、従来使用してきた装置と比較して測定時間の短縮を実現するとともに、試薬の取扱いを低減できることから、作業者の水銀曝露リスクの低減にも寄与し、分析作業の効率化が期待される。現在、装置導入後の性能評価として、検量線の直線性、定量範囲、検出限界（LOD）および定量限界（LOQ）の確認を進めるとともに、地球化学標準物質を用いて試料量の最適化および回収率の評価を実施している。これらの結果を踏まえてルーチン分析の測定条件を決定し、今後は河川堆積物試料や海底堆積物試料を中心とした水銀分析を実施する予定である。

〔キーワード〕 水銀分析、加熱気化水銀分析装置、分析法の妥当性確認、環境評価、地球化学図

〔テーマ題目 13〕 効率的な海底岩石試料採取システムの開発（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）

〔研究代表者〕 有元 純（海洋地質研究グループ）

〔研究担当者〕 針金 由美子（地質情報研究部門）、石塚 治（活断層・火山研究部門）（常勤職員 2 名）

〔研究内容〕

海底地質図作成や海域地質研究のための調査航海における海底岩石試料採取の効率化を目的とし、角形チェーンバッグドレッジャーを新規に開発した。チェーンバッグ内に内網を取り付けることによって、小型の岩石・生物も含めて試料回収率の向上が期待できる仕様とした。また、ドレッジャーの作成に先立ち、従来型に適合する形状の内網を作成して、調査航海で使用するにより、試料採取に

おける効果を確認した。加えて、試料採取と同時に水温・深度の同時計測を行うためのセンサーを導入した。

【キーワード】 ドレッジ、海底地質調査、海底地質図

【テーマ題目 14】 GSJ が開発した新型バイプロコアラ－の実運用試験（運営費交付金：GSJ 戦略的課題推進費）

【研究代表者】 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

【研究担当者】 板木 拓也、田村 亨、鈴木 克明、中西 諒、荒井 晃作（常勤職員 5 名）

【研究内容】

民間との共同研究として 2024 年度に開発した新型バイプロコアラ－は、砂質の浅海底堆積物でも長尺のコアを採取し、同時に地盤強度の計測が可能な設計となっている。しかし、その運用実績がない少ないため、技術面・運用面でのノウハウが十分に整っていない。本事業は、この新型バイプロコアラ－を運用するための環境と技術を確立することを目的としている。2025 年度は、船舶調査や機械工作に精通した専門家と計 6 回の運用検討会を実施し、課題の洗い出しとその解決手段について議論を行った。また、それに基づいた船上での運用方法の検討と実機の改良が施された。

【キーワード】 採泥、海底コア、大陸棚、沿岸域、地盤調査

【テーマ題目 15】 常温稼働可能な磁気顕微鏡開発と資源科学・地球惑星科学への応用（運営費交付金：産総研-東北大マッチング研究支援事業）

【研究代表者】 小田 啓邦（地球変動史研究グループ）

【研究担当者】 小田 啓邦、久保田 均（新原理コンピューティング研究センター）（常勤職員 2 名）

【研究内容】

本研究は、2024 年度に引き続き 2025 年度産総研-東北大マッチング研究支援事業として、実施された。磁気顕微鏡システムの SQUID 素子を TMR 素子に置きかえ、液体ヘリウムによる冷却を必要としない常温での高感度磁気画像の取得、海底鉄マンガンクラストの地磁気逆転縞模様の検出が目標である。磁気センサとして用いるのは、脳磁計用に開発された高感度 TMR 素子である。本研究では、磁気顕微鏡のために分解能と高感度の両立に向け、昨年度実施した 2 種類の TMR 素子（長さ 1073 μm および 357 μm ）に続き、長さ 178 μm の TMR 素子を準備して、感度較正と周波数特性の評価を行い。また、TMR 素子を用いて玄武岩薄片試料の磁気画像取得を行った。2024 年度の素子は磁気画像に異方性起因の歪みがあったが、長さ 178 μm の素子の磁気画像は歪みがなく、SQUID 磁気顕微鏡の画像ともよく一致した。さらに、垂直磁化膜による 50 μm × 50 μm の磁気点源で磁気画像を取得し、磁気双極子でフィッティングを行い、SQUID 磁気顕微鏡との比較と評価を行った。これら成果を、論文 1 編として国際誌に公表し

た。

【キーワード】 TMR 素子、磁気センサ、磁気顕微鏡、SQUID 素子、玄武岩、海底鉄マンガンクラスト

【テーマ題目 16】 先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発（運営費交付金：理事長裁量予算）

【研究代表者】 井口 亮（海洋環境地質研究グループ）

【研究担当者】 井口 亮、西島 美由紀（地質情報研究部門）

【研究内容】

本研究では、環境 DNA/RNA 分析による水圏の環境解析法の高度化、生体情報解析技術による環境影響評価促進技術の開発、マイクロバイーム情報を活用した環境評価技術の高度化と有用微生物資源データベースの構築を目的としている。今年度は、主に沿岸・沖合域の環境 DNA データ取得と周辺環境データをあわせた統合解析を実施し、論文原稿として取りまとめ、一部国際学術誌に発表した。また、微生物由来の酵素組成や関連パスウェイの把握を進め、その地理的分布の可視化を進めた。化学物質に対する生物の網羅的遺伝子発現解析手法の高度化を進め、論文原稿として投稿を進めた。

【キーワード】 環境 DNA、マイクロバイーム、連結製、環境影響評価

【テーマ題目 17】 全岩化学組成分析におけるルーチン確立に向けた研究環境整備（運営費交付金：部門戦略予算）

【研究代表者】 志村 侑亮（層序構造地質研究グループ）

【研究担当者】 三國 和音（地球化学研究グループ）、山岡 健（地殻岩石研究グループ）

【研究内容】

地質図幅作成等に係る地質調査で採取された岩石試料を対象とした全岩主要・微量元素分析ルーチンの確立を目的として、所内における試料前処理および機器分析環境の整備を行った。試料前処理および使用器具の洗浄に必要なピペット、PFA バイアル、試薬類、安全対策用品等を整備するとともに、PFA バイアルおよび各種消耗品の洗浄手順を確立した。

試験分析として、東京科学大学の石川晃准教授および杉山祐也大学院生の協力のもと、玄武岩標準物質 JB-2 を対象にガラスビード溶解法による元素分析を実施した。測定には磁場型 ICP-MS を使い、113In-203Tl 同位体濃縮スパイクによる同位体希釈法で定量した In および Tl 濃度と、XRF 分析により得られた Fe 濃度を組み合わせた同位体希釈内標準法により、42 元素の定量分析を行った。

分析結果から、JB-2 については Sn を除く 41 元素の定量値が高精度な既報値と良好に一致した。また、通常のアナリシスでは測定対象となることが少ない W、Mo、Sb、Cd、Zn、Ge、Ga などの元素についても、妥当な定量値

が得られた。このことから、本手法は少なくとも玄武岩試料に対する全岩微量元素分析ルーチンとして適用可能であることが確認された。一方、ガラスビード作製に用いた融剤に由来する高濃度の Li および B によるメモリー効果や装置内汚染の影響については、さらに評価する必要がある。今後は、フッ酸-硝酸-過塩素酸による酸分解法の適用性や、磁場型 ICP-MS とは質量分解能の異なる四重極型 ICP-MS を用いた場合においても同等の結果が得られるかを検証し、より汎用的な分析ルーチンの確立を目指す。

〔キーワード〕 微量元素分析、火成岩、ICP 質量分析

〔テーマ題目 18〕 相対海面上昇 DB の構築 (運営費交付金：部門戦略予算)

〔研究代表者〕 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

〔研究担当者〕 田村 亨 (常勤職員 1 名)

〔研究内容〕

地球温暖化による海面上昇は今後、世界平均で年間 5 mm 以上が見込まれ、地盤沈下を加味した「相対海面上昇」は、日本の一部では 21 世紀末に 1 m 以上になる。本課題の目的は、相対海面上昇の将来予測データベース (DB) を日本列島全域で構築し Web GIS として公開することである。関連する地質情報とともに将来の脅威を可視化し、防災・産業立地計画に資する。

2025 年度は、国土地理院が公開する GNSS 電子基準点のデータをコンパイルし、地盤上下動データを整備した。また、InSAR 解析による高分解能の地盤上下動データを整備するため、情報・人間工学領域との領域融合のための協議を行った。

〔キーワード〕 海岸、海面上昇、地殻変動、データベース

〔テーマ題目 19〕 平野地質の研究 (運営費交付金)

〔研究代表者〕 納谷 友規 (平野研究グループ)

〔研究担当者〕 納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、羽田 裕貴、中谷 是崇、水野 清秀、國本 節子、竹中 かおり、川畑 美桜子 (平野地質研究グループ) (常勤職員 5 名、他 4 名)

〔研究内容〕

本研究は、平野・盆地内あるいはその周辺の丘陵地・台地や低地地下を構成する主に第四紀堆積物の堆積プロセス・層序・地質構造あるいは地形の形成プロセス、環境変動などを明らかにすることを目的としている。

2025 年度は以下の研究を行った。西南日本に分布する新生代の堆積層について、磁気分析および微化石の化学分析による年代層序の高精度化を進めた。大分県姫島に分布する更新統の年代と地質構造を明らかにするための地質調査を行った。利根川下流低地において 200 地点弱の単点微動調査を行い、沖積層の内部構造を可視化した。京都盆地南部における完新世環境変遷を明らかにするため地質調査を行った。火山灰の分析手法について検討を行った。沿岸域の沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトに関連して、紀伊水道沿岸域の調査の取りまとめを行った。また、

沿岸域の地震防災・減災に資する高精度地質情報の整備事業では、岡山平野地下の層序と堆積物物性を明らかにするためのボーリング調査、既存ボーリング柱状図データに基づく松山平野の沖積層基底深度分布図の作成、広島平野における既存ボーリングデータ収集を行った。

〔キーワード〕 第四紀、新第三紀、沖積層、更新統、テフラ層序、古地磁気層序、複合年代層序、珪藻化石、ボーリング調査

〔テーマ題目 20〕 層序構造地質の研究 (運営交付金)

〔研究代表者〕 原 英俊 (層序構造地質研究グループ)

〔研究担当者〕 原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤 剛、武藤 俊、志村 侑亮、鈴木 敬介、山田 来樹

〔研究内容〕

日本列島を構成する活動的島弧と周辺の東・東南アジア諸国を含む大陸縁辺域における様々な地質現象を解明するための地質調査・研究を実施した。その結果として 2025 年度は、以下の成果を得た。

日本列島の古生代火成活動を復元することを目的に、陸中大地域の石炭系の調査・分析を行い、造構場とアジア東縁との関係が明らかになった。石炭紀コノドント化石のアーカイブ標本について分類学的再検討を行い、北米、中国、ヨーロッパで多産する属が日本からも認められることが明らかになった。タイ南東部で大陸衝突テクトニクスを検討するため、変成コアコンプレックスの調査を行い、三疊紀～白亜紀にかけた変成・隆起プロセス解明のため試料採取を行った。沖縄県伊江島のジュラ紀付加体のチャート及びチャート礫を検討した結果、ペルム紀放射虫を発見し、同県伊平屋島に分布するジュラ紀付加体との共通点を見出した。日本海拡大史解明のために若狭湾周辺を調査した結果、終末期にはリフト的な苦鉄質岩と島弧的な中間質岩が広域に共存することがわかった。千葉県内の新第三系の年代層序解明を目的に、石灰質ナノ化石、テフラ及び古地磁気を検討した結果、ガウス-松山境界や広域テフラを見出すことができた。流紋岩の化学判別図を作成することを目的に、世界中の新生代流紋岩類の全岩化学組成をコンパイルし、過去に提案された花崗岩類の判別図を適用できることが明らかになった。

〔キーワード〕 層序、構造地質、堆積学、活動的島弧

〔テーマ題目 21〕 地殻岩石の研究 (運営費交付金)

〔研究代表者〕 工藤 崇 (地殻岩石研究グループ)

〔研究担当者〕 工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、中村 佳博、羽地 俊樹、山岡 健、牛丸 健太郎 (常勤職員 7 名)

〔研究内容〕

島弧地殻形成において重要な変成作用・火成作用・堆積作用の進行過程を明らかにするため、主に日本列島を対象に変成岩・火成岩・堆積岩の野外調査、岩石試料の分析・解析、地質体及び岩石の形成モデリングを行い、以下のよ

うな成果を得た。1) 東アジア地域のテクトニクス史解明を目的として関東山地金峰山地域の四万十帯付加体中の砂岩に対して堆積岩の岩石学的解析を行なった結果、後背地における白亜紀火成活動の空間分布に対する新たな制約が得られた。2) 北海道日高山脈北部ウエンザル地域のかんらん岩類の成因及び上昇過程に関する検討結果を取りまとめ、欧州地球惑星科学連合 2025 年年会で発表した。3) 中部領家深成変成コンプレックスの火成作用及び広域変成作用の解明を目的として地質調査と室内分析を行なった結果、～95 Ma と～70 Ma の広域変成作用とそれに対応する花崗岩貫入の関係性を明らかにすることができた。4) 白亜系～古第三系の実態解明を目的に、足尾山地北東部の未知の白亜系堆積岩について地質調査を行なった結果、暁新世火成岩の堆積・貫入前に白亜系堆積岩が本地域に広く分布することが明らかとなった。5) 西南日本の島弧テクトニクスの解明を目的に、小豆島地域の古第三系で地質調査を行ない、新たな断層と関連小断層を見出し、当時の地殻変形の検討材料を得た。6) 古第三紀の堆積盆形成史の解明を目的に、天草地域の始新統の地質調査と微化石分析を行った結果、始新統の堆積年代を新たに制約することができた。7) 山梨県北部地域で新たに見出した約 0.5 Ma の第四紀火山岩について、全岩微量元素の測定を行ったところ、これらの火山岩がアダカイト的性質を持つことが判明した。

〔キーワード〕地殻、岩石、島弧、沈み込み帯、変成作用、火成作用、堆積作用

〔テーマ題目 22〕 シームレス地質情報の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕内野 隆之（シームレス地質情報研究グループ）

〔研究担当者〕内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、長森 英明、川畑 大作、阿部 朋弥、村岡 やよい、片桐 星来、宝田 晋治、内藤 一樹、吉川 敏之、長津 樹理、井川 敏恵、松崎 紗代子、巖谷 敏光、阪口 圭一、星住 英夫（常勤職員 11 名、他 6 名）

〔研究内容〕

シームレス地質図の更新・機能強化に関連する業務、地質図幅の作成、斜面災害斜面災害リスク評価図作成等を行う。20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 については、富山図幅（第 2 版）の更新を行い、広尾図幅（第 2 版・修正版）のシームレス化作業も進めた。その他、凡例を 60 に絞ったシームレス地質図（簡略版）を公開した。また、3D 版をスムーズに表示できる新表示システムの試作版を公開したほか、点群 PNG フォーマットを正式公開した。5 万分の 1 地質図幅については、「妙高山」、「盛」、「満島」、「種子島南部」、「盛岡」の各図幅の作成を進めた。斜面災害プロジェクトについては、九州地域における斜面災害リスク評価図、流れ盤・受け盤マップ、接触変成域マップの作成に向け、作業を進めた。JIS については、A0204 及び

A0205 の改訂版の作成を進めた。

〔キーワード〕シームレス地質図、地質図幅、斜面災害リスク評価、流れ盤・受け盤マップ、接触変成域マップ JIS

〔テーマ題目 23〕 情報地質の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕長 郁夫（情報地質研究グループ）

〔研究担当者〕長 郁夫、野々垣 進、田上 綾香、米岡 佳弥、藪田 桜子、中澤 努、名和 一成、和田 明美、中里 裕臣（常勤職員 7 名、他 2 名）

〔研究内容〕

本テーマでは、地層や地質試資料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化、統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行っている。具体的には、中新統設楽堆積盆に発達する砂岩岩脈について野外調査を実施し、詳細な産状を明らかにするとともに、供給源解析および古応力解析の結果を踏まえて、堆積盆の発達史ならびに過去の地下流体移動を検討した。西南日本のアルカリ玄武岩の $\delta^{26}\text{Mg}$ を測定し、主要・微量元素組成とともにマグマ生成のモデル計算を行った。Sr-Nd-Pb 同位体測定の下準備を行った。Web を通した地質情報の利活用に関する研究の一環として、ボーリングデータセットや標高データセットなどの大量の点情報を、ベクトルタイルを利用してインターネット経由で Web ブラウザや GIS 上に表示する方法について検討した。浅部微動探査用の平均 S 波速度同定に関わる簡易法の有効性を検証した。H/V スペクトルのピーク読み取りアルゴリズムの有効性を検証した。地下構造可視化システムの維持管理を継続した。北海道東部及び北海道北部のメカニズム解の分類及び広域応力場の推定を行なった。推定した地殻応力場の信頼性評価のため、短縮ひずみ方向との比較を行った。さらに理論すべり角を計算し、実際のメカニズム解に対する応力場の確からしさを確認した。

〔キーワード〕情報地質、都市地質、ボーリングデータ、3 次元地質情報、常時微動、応力場

〔テーマ題目 24〕 リモートセンシングの研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕山本 聡（リモートセンシング研究グループ）

〔研究担当者〕山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ、村瀬 颯太、中村 涼（地質情報研究部門）、（常勤職員 4 名、他 2 名）

〔研究内容〕

当研究グループは、ASTER をはじめとする多様な衛星データと地質情報を統合し、環境・資源・防災・宇宙分野に関わるリモートセンシングの研究開発を行っている。2025 年度には、地質災害モニタリングとして、光学（小型衛星等）および SAR 等の長期衛星画像を活用し、斜面災害リスク評価のための情報抽出に関する研究を実施し

た。環境モニタリングでは、ハイパースペクトルデータや熱赤外衛星データを活用した沖縄沿岸域の環境影響評価技術に関する研究を実施した。また、ドローンを活用したハイパースペクトル測定技術の新手法開発にも取り組んだ。さらに、ハイパースペクトルデータを活用した天然水素に関わる資源開発研究として、民間企業に対する技術コンサルティングを実施した。加えて将来の月資源探査を目的としたハイパースペクトルデータによる鉱物データマイニング研究や、月表層の進化過程の解明に向けたスペクトルデータと高解像度可視画像の融合解析研究を行った。また、信頼性の高いハイパースペクトルデータ解釈を支えるデータ基盤の整備に向けて、室内分光測定に関する実験研究を実施した。

〔キーワード〕 衛星、ハイパースペクトル、地質災害、環境モニタリング、天然水素、月資源探査

〔テーマ題目 25〕 海洋地質の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

〔研究担当者〕 井上 卓彦、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、鈴木 克明、中西 諒、池原 研、片山 肇、佐藤 侑里、佐々木 智之、有元 理紗、西田 尚央（東京学芸大学）、古山 精史朗（東京海洋大学）、西村 昭（客員研究員）、村上 文敏（客員研究員）（常勤職員 6 名、他 9 名）

〔研究内容〕

日本周辺海域の海洋地質情報を整備公開するとともに、日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、海底火山や熱水活動等に伴う地質現象の解明を目指している。2025 年度は以下のような成果を得た。日本周辺海域の地質構造に関する研究では、沖縄島西方海域において、音波探査や地形調査、岩石採取調査を着実に実施し、この海域の層序や活構造、地質構造発達史に関する試料を採取した。加えて過年度まで実施していたトカラ列島周辺海域の試資料について解析を進めた。また北海道西方沖における渡島大島周辺において火山活動史・構造発達史の解明を目的とし、白鳳丸による研究航海を実施した。沿岸域調査の一環として、紀伊水道で実施した音波探査については、海底地質図及び海陸を統合した沖積基底深度分布図の完成に向けて解析を進めた。火山島周辺域の地質情報整備として、伊豆弧新島周辺の調査を実施し、マルチビームによる海底地形データの取得、地磁気観測、水中ドローンを用いた海底観察及び火山噴出物の把握に努め、海底火山活動履歴や海域の未知の火口分布の解明に繋がるデータを得た。2024 年能登半島地震に関して外部機関との共同研究航海を実施し、調査結果については学会発表を通じて成果発信を行った。さらに、SIP の一環として南鳥島周辺海域で取得した海底表層での高分解能地層断面のデータや反射法探査データの解析や取りまとめを行い、その後の評価等に貢献した。堆積作用の研究では、沖縄島西方海域の調査航海により、多くの地点で堆積物試料を採取し

た。加えて過年度まで実施したトカラ列島周辺海域における堆積作用の検討を進めた。また共同利用船調査を利用して、喜界島周辺における地震性堆積物の年代測定や組成分析からその供給源と堆積システムについて検討した。また 1993 年北海道南西沖地震の地震性堆積物分布を把握するため、白鳳丸による研究航海に参加した。能登半島における津波堆積物の現地調査結果を用いて断層モデルの推定、土砂移動モデリングによって津波堆積物を再現する沿岸波形を探索する手法開発を行った。加えて千島海溝における巨大地震の破壊領域を制約するため、日高地方賀張で確認された 2 層の 17 世紀津波堆積物を土砂移動モデリングで最もよく再現する破壊領域をそれぞれ推定した。古環境変動の研究として、南極沿岸の海域堆積物に関して、その成因や堆積環境について解明するために、南極地域観測隊（JARE67）に参加し、産総研の採泥器を用いて南極沿岸の海域堆積物を取得した。さらに、人工知能/深層学習を活用した珪藻自動鑑定の研究を進め、学会発表や国際誌での公表を行った。新たに開発したパイプロコアラの運用試験を 2026 年度に実施すべく準備を進めた。また、これまでの海洋調査で取得された音波探査記録および堆積物試料データのデジタル化に加え、海洋地質情報のシームレス化を念頭に、既存の海洋地質データを統合的に管理・表示するために構築したデータベースへの登録を進めるとともに、四国沖から九州東方海域の海底地質図のシームレス化作業を進めた。また民間企業に対して洋上風力事業や CCS 事業に関する技術コンサルティング契約を複数受託した。

〔キーワード〕 海洋地質、日本周辺海域、沿岸海域、海底地質構造、海域活断層、堆積作用、古環境

〔テーマ題目 26〕 地球変動史の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

〔研究担当者〕 板木 拓也、小田 啓邦、田村 亨、佐藤 智之、清家 弘治、見邨 和英、飯塚 睦（常勤職員 7 名）

〔研究内容〕

海陸の地質・古生物学的及び地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。広域の研究をカバーするため、グループは多様な専門分野からなる研究者集団として構成され、個々の研究者が高い技術力を維持するとともに革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として当部門のミッションである陸域、海域、それらを繋ぐ沿岸域の地質情報の整備、及び海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、更に発展的な研究としてこれらを展開する。

2025 年度は、AI（人工知能）、磁気顕微鏡、堆積物の非破壊イメージングなどの最新技術を用いることで分析や解釈の効率化・高度化を図る技術の開発・運用を進めた。

また、陸域、海域及び沿岸域の地質調査を実施し、地質図作成の基礎情報を収集・出版するとともに、海洋マイクロプラスチックに関する調査も実施した。また、内閣府の「研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム」(BRIDGE)においては、花粉観測手法の高度化のための研究開発を進めた。

〔キーワード〕 古環境解析、複合年代層序、微化石層序、古生物、古地磁・岩石磁気、磁気顕微鏡、非破壊イメージング、高分解能地層探査、沿岸域、地質災害リスク、AI (人工知能)、海洋プラスチック

〔テーマ題目 27〕 海洋環境地質の研究 (運営費交付金)

〔研究代表者〕 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

〔研究担当者〕 井口 亮、鈴木 淳、長尾 正之、山岡 香子、喜瀬 浩輝、齋藤 直輝、儀武 滉大、吉永 弓子、西島 美由紀、Giun Yee Soong、井上 絵里、鹿籠 康行、武田 聖子、山本 綾、平井 圭子、酒向 実里、森田 椋人、田中 裕一郎、高田 健司(常勤職員 6 名、他 13 名)

〔研究内容〕

海域における地球的規模での海洋温暖化や海洋酸性化、海洋貧酸素化、地域的規模での栄養塩負荷等の海洋生物への影響の解明、そして、過去の変遷の復元を目的とした研究を実施した。また、海洋ネガティブエミッション技術を見据えた研究関係情報の収集と予備的な試験を実施した。これらの課題に関して、各種化学分析機器による地球化学的手法や、ハイスループットシーケンサーを活用した分子生態学的手法の高度化に取り組んだ。海洋エネルギー・鉱物資源であるコバルトリッチクラストや海底熱水鉱床、表層型メタンハイドレート及びマンガン団塊の開発に係る環境影響ベースライン調査・環境影響評価に向けて、生物地球化学、分子生態学、海洋物理学等の手法の高度化と研究成果の発信を積極的に行った。また、ネイチャーポジティブ技術実装研究センターでの取り組みに関しては、他領域とも連携して、地域・企業関係の社会課題の解決に資する研究活動を実施した。

〔キーワード〕 海洋エネルギー・鉱物資源、環境影響ベースライン調査、環境影響評価、海洋ネガティブエミッション技術

〔テーマ題目 28〕 資源テクトニクス研究 (運営費交付金)

〔研究代表者〕 山下 幹也 (資源テクトニクス研究グループ)

〔研究担当者〕 山下 幹也、下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、高下 裕章、小野 誠太郎、田中 弓 (常勤職員 7 名、他 1 名)

〔研究内容〕

我が国の排他的経済水域には、海底鉱物資源の賦存が期待できる島弧火山列が複数存在する。グループでは、島弧火山列に関連したテクトニックな時空変遷を解明することにより、海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行った。海域における調査は、地質試料を採取し、それに対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行った。異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。すなわち、島弧の形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施した。岩石学的・地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。従って、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを目標に研究を行った。固体地球物理学的な研究として、海上磁気探査の効率化を目指し環境整備を開始した。

〔キーワード〕 海底鉱物資源、テクトニクス、地球化学、岩石学、固体地球物理学

〔テーマ題目 29〕 地球化学の研究 (運営費交付金)

〔研究代表者〕 天野 敦子 (地球化学研究グループ)

〔研究担当者〕 天野 敦子、間中 光雄、久保田 蘭、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音 (常勤職員 6 名)

〔研究内容〕

地殻における元素の地球化学的挙動解明の研究として、鉱物・土壌・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究、地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究、宇宙線生成核種等の同位体やハロゲン元素を用いた地球表層における物質移動やマントルにおける物質循環プロセスの把握、また、沿岸海域における物質動態や地球科学的特性の研究を行った。

鉱物・土壌・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究では、八丈島の土壌の地球化学的特性と植生分布について検討した。地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究では、土壌から流出する溶質量と降雨量の関係について実験的に調査した結果を取りまとめた。Purdue 大学で新たな宇宙線生成核種等同位体の分析手法を習得し、山岳試料の分析と極低濃度試料の分析手法確立を進めた。GSJ の玄武岩標準岩石試料の全ハロゲン濃度推奨値の決定のため、全試料の分析、解析を進めた。強親鉄性元素・揮発性親銅元素およびオスミウム同位体比の同一試料分析ルーチンを確立、玄武岩の分析を進めるとともに、かんらん岩等の蛍光エックス線分析方法改良に関する論文 1 報が受理された。沿岸海域の堆積物の元素、年代分析などを行い、堆積環境やマイクロプラスチックの集積過程などについて解析を進めた。

〔キーワード〕 地球化学、土壌、堆積物、存在形態、ハロゲン、同位体、宇宙線生成核種、玄武岩

〔テーマ題目 30〕 地球物理の研究（運営費交付金）

〔研究代表者〕 宮川 歩夢（地球物理研究グループ）

〔研究担当者〕 宮川 歩夢、大谷 竜、住田 達哉、伊藤 忍、大熊 茂雄（常勤職員 3 名、他 2 名）

〔研究内容〕

国土及び周辺地域の地下構造・動態の把握・解明のために、各種物理的手法による探査・解析技術およびモデリング技術の開発・改良を行う。具体的には、重力・磁力・地震波を用いた地下構造探査および解析に資する岩石物理および地質構造の発達過程に関するモデリングに取り組む。また、国土強靱化に資する地球物理情報の利活用のための研究を進める。所内外の関係機関と連携をとり、プロジェクト研究の基礎を支え、将来の新たなプロジェクト創出につながる萌芽的研究も実施する。2025 年度はドローン磁気探査技術の開発と実証試験を行い、成果を国際誌に公表するとともに、プレス発表を実施した。また、2011 年東北地方太平洋沖地震発生域で実施された科学掘削に基づく、プレート境界断層とその周辺の地質構造と物理特性を明らかにした研究成果が Science 誌に掲載された。萌芽的な研究として岡山大学・民間企業と連携して、稠密重力探査による土砂崩壊の発生ポテンシャル評価手法の開発に取り組んだ。また、「南海トラフ地震臨時情報」や「北海道・三陸沖後発地震注意情報」などのあり方を検討するため、社会的受容に関する調査の実施および調査協力を行った。

〔キーワード〕 地球物理図、重力図、空中磁気図、反射法地震探査、地球物理データベース、研究 DX

〔テーマ題目 31〕 標準試料自己財源（成果普及品自己財源）

〔研究代表者〕 久保田 蘭（地球化学研究グループ）

〔研究担当者〕 久保田 蘭、天野 敦子、間中 光雄、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音、太田 充恒、立花 好子（常勤職員 7 名、他 1 名）

〔研究内容〕

地球化学標準物質は、岩石、鉱物・鉱石、土壌、底質などの地質試料を正確に分析するための基準となる物質である。地質試料は多種多様な成分から構成され、化学分析では各成分が互いに影響し合うため、正確な分析には主要成分組成が類似し、目的成分の濃度が既知である標準物質が不可欠である。地質情報研究部門は、化学分析用岩石標準物質の国内唯一の供給機関として、約 60 年にわたり地質関連試料の標準物質を作製している。2007 年に ISO 17034 に適合した標準物質生産者として認定を取得し、以降は認証値を付与した認証標準物質として供給している。この標準物質は世界各国で利用され、地球化学分析の精度向上に大きく貢献している。また、標準物質に関する各種情報はデータベースとしてインターネット上で公開しており、認証書の見本や各試料の分析データ等を閲覧することができる。

2025 年度は、未頒布の火成岩標準物質（JA-2a、JG-2a、JG-3a、JGb-1a、JP-2）の仮認証値に関する論文 1 編を公表するとともに、これらの新規頒布に向けて、標準物質に関する法令に対応した体制の再構築を進めた。また、標準物質生産者としての認定は原則 4 年ごとに更新され、最新の認定証は 2023 年度に交付されている。2025 年度には認定維持審査が実施され、認定機関（ASNITE）から 2 名の審査員が来所し、値付け分析手順の立会審査、生産プロセスならびに記録・文書等の確認が 2 日間にわたって行われた。その結果、認定の維持が承認された。ISO 17034 に適合した品質システムの運用においては、リスクの明確化や記録・データ類の適切な管理を実施した。要員教育では、特性値決定要員の育成を目的とした分析訓練を実施し、湿式法による化学分析技術の維持を図るとともに、特性値決定における不確かさの評価手法について理解を深め、その適応能力の向上に努めた。さらに、業務を円滑かつ適切に遂行するため、要員間の十分なコミュニケーションの確保に努めた。

〔キーワード〕 国際標準、標準物質、地球化学、岩石、土壌、化学組成

〔テーマ題目 32〕 海洋地質データ頒布（成果普及品自己財源）

〔研究代表者〕 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

〔研究担当者〕 井上 卓彦、荒井 晃作、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、山下 幹也、佐藤 太一、高下 裕章、佐々木 智之（地質情報基盤センター）、片山 肇、佐藤 侑里、有元 理紗（常勤職員 9 名、他 3 名）

〔研究内容〕

地質調査総合センターでは、旧地質調査所時代の 1970 年代からの海洋地質図作成のための調査データが蓄積されている。近年の海域利用やデータ利活用の社会要請の高まりに対応するため、既存の海洋地質図作成 1 次データを集約、統合的な管理を実施したうえで、外部機関への提供を行っている。

現在は、これまでに海洋地質図調査で取得された表層地層探査（SBP）断面および堆積物試料データのデジタル化を継続的に実施し、これらのデジタル化した SBP 断面データ、底質の粒度情報や写真、柱状図データ等といった堆積物データに加えて、反射法地震探査データを産総研内部のデータベースに順次登録している。本データベースは、全てのデータを統合的に管理・表示できるよう構築している。また、これらの海洋地質図 1 次データについては、産総研の手順に則り、民間企業の要望に応じて、データ頒布している。データ頒布は地質図幅区画ごとに、航走観測データ（反射法地震探査データ、SBP データ、地形等）と停船観測データ（堆積物の粒度、試料写真、海底写真、柱状記載等）とで個別に提供している。2025 年度は全 11 区画分のデータを頒布し、民間企業に利活用頂いた。またデータ提供に合わせて、複数の技術コンサルタント契約も締結

している。

〔キーワード〕 海洋地質図、1 次データ頒布、データベース、日本周辺海域、海域利用、データ活用、民間企業

4. 外部資金による研究

経済産業省：

- 4.1 2025 年度 HISUI の校正検証

環境省：

- 4.2 環境研究総合推進費：タイヤ摩耗粉塵の河川・海洋流出量の精緻な推計と、それに基づく生態リスクの評価と低減に係る研究

文部科学省：

- 4.3 南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化及び迅速な復旧・復興に資する地震防災研究プロジェクト
4.4 地殻プレート境界における地震発生のメカニズム理解のための地質・地震活動研究

NEDO：

- 4.5 水素生成可能な岩石の探索と増進を踏まえた評価に係る研究開発

内閣府：

- 4.6 研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE)：令和 7 年度花粉観測手法の高度化のための研究開発業務

日本学術振興会科学研究費基金：

- 4.7 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析
4.8 ゲノム比較で解明するミドリイシ属サンゴの産卵時期決定の遺伝的基盤
4.9 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
4.10 マルチオミクス解析を駆使した髄膜腫悪性化機序の解明
4.11 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明
4.12 サンゴ礁海域保全に向けた遺伝子流動ネットワークの解明：海景遺伝学によるアプローチ
4.13 新生代石灰質ナノプランクトンの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発
4.14 機械学習で拓くイクチオリス微化石を用いた海洋生態系の変遷解読
4.15 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築
4.16 古生代におけるゴンドワナ北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷
4.17 革新的デジタル技術で拓く新生代の低次生態系多様性進化
4.18 カンボジア、インドチャイナ地塊からのプロト日本の探求
4.19 サンゴ骨格を用いた蓄積型栄養塩評価の新展開
4.20 極小微動アレイ探査を用いた沖積低地の微高地種別

判別技術の開発

- 4.21 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性に関する研究
4.22 島弧の形成過程において鍵となる下部地殻の物質変遷プロセスの解明
4.23 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデータの地層対比手法の高度化
4.24 南海トラフ地震臨時情報：「不確実な」地震予測情報をどう発表し、どう報道すべきか
4.25 伊豆小笠原海溝における津波を伴う断層破壊の可能性：海域調査からの検証
4.26 共生微生物から探るサンゴの分布拡大メカニズム
4.27 +1~2℃の温暖期に西南極氷床は急速に融解する臨界点に到達するのか？
4.28 位置別炭素同位体分析を用いた東アジア地域天然ガスの起源評価
4.29 データ駆動型の微化石分類による新生代の海洋生態系変遷史の解明
4.30 津波堆積物は生物活動によりどのように乱されているのか？10 年スケールでの観測
4.31 近代建築物を彩った日本の石：国産建築石材の標本探索と破壊・非破壊分析
4.32 東南極沖合の現場観測に基づく氷-海洋-海底システムの理解
4.33 日本海溝における物質・地質構造・地震活動の不均質性の関係性の解明
4.34 混濁流モデリングと海底コアから震度分布を読み解く「タービダイト地震計」の開発
4.35 “ゆっくり津波”に着目した津波浸水と堆積物の乖離を数値実験によって定量化する試み
4.36 時間スケールの異なるデータに基づくプレート沈み込帯周辺ヒンジラインの成因解明
4.37 2.5 億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最上部は無酸素化したか？
4.38 過去 600 万年間の太平洋溶存酸素濃度の復元：海洋炭素貯留の理解にむけて
4.39 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明
4.40 河川のアバルションに着目した氾濫原の形成過程の解明
4.41 海洋域のカンラン岩を用いたマントルの強親鉄元素過剰の再検討
4.42 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
4.43 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元
4.44 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証
4.45 火星の地下水分布推定に向けた地球アナログの周氷河地形の地下構造探査と形成過程解明
4.46 地磁気年代推定法で解き明かす海溝型巨大地震の発

生史

- 4. 47 放射状岩脈は火山体の荷重で形成されるのか？地質データと弾性体力学による統合的検証
- 4. 48 常時微動計測を用いた地形発達史の解明
- 4. 49 更新世チバニアン期におけるイタヤガイ科二枚貝の絶滅とその古環境背景
- 4. 50 大規模火山活動が駆動した白亜紀前期の全球的な寒冷化イベントの解明

日本学術振興会科学研究費補助金：

- 4. 51 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質時代の宇宙・地球現象と環境変動
- 4. 52 サピエンス数理先史学 ―新人拡散にともなう文化進化モデリング
- 4. 53 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明
- 4. 54 過去の温暖期における AMOC 崩壊の臨界点：西南極氷床融解の役割とその影響
- 4. 55 海中・海底画像と堆積物の定方位取得による東南極氷床前縁陸棚域の堆積環境解明
- 4. 56 過去の温暖期における南極氷床・海洋実像の解明
- 4. 57 気候不安定化とティッピング・カスケード：気候危機の真打を検証する
- 4. 58 モンゴルのレジリエンス維持に資する水循環変動情報の創出
- 4. 59 令和 6 年能登半島地震（M7. 6）で津波を引き起こした海底活断層の実態解明
- 4. 60 海底鉱物資源生成史の解明による地球表層システム変動の新たな描像
- 4. 61 海―陸シームレス地層掘削から探る南極氷床の大規模融解メカニズム
- 4. 62 地磁気逆転現象が気候・生態系に対して与えた影響の検証
- 4. 63 サピエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究

経済産業省：

4.1 2025 年度 HISUI の校正検証

〔研究代表者〕山本 聡（リモートセンシング研究グループ）

〔研究担当者〕山本 聡、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ、土田 聡、堂山 友己子、浦井 稔、岩男 弘毅（地質情報研究部門）（常勤職員 5 名、他 3 名）

〔研究内容〕

さまざまな地球観測センサの中で、ハイパースペクトルセンサは高い波長分解能のデータを取得することができることから、従来センサと比較して対象物の性質をより詳細に分析することが可能となる。経済産業省では国際宇宙ステーション（ISS）に搭載したハイパースペクトルセンサ（以下、HISUI）を開発し、2020 年度より本格観測を開始した。取得データを有効に活用するためには、校正・検証技術の高度化および観測計画の適切な立案が不可欠である。このため、2025 年度では、ハイパースペクトルデータの放射量および波長の精度向上を目的として、HISUI に必要な各種校正（オンボード機器校正、波長校正、代替校正、相互校正、分光データライブラリ整備等）に関する研究開発および整備を継続し、「校正計画書」に反映させた。また、校正アーカイブシステム開発サーバ（CDAS）の開発・整備を進め、データインターフェースおよびアーカイブ機能部、ラジオメトリック DB において、更新・修正・整備を実施し、その結果を「校正アーカイブシステムに係る文章」に反映させた。さらに、定常的かつ効率的な観測の継続を目的として、HISUI の運用シナリオに基づき、スケジューラ運用に必要な運用支援および必要データ更新等を行い、さらに長期観測計画の検討を実施した。

〔キーワード〕衛星、品質管理、校正・検証、ハイパースペクトルセンサ、ISS、HISUI

環境省：

4.2 環境研究総合推進費：タイヤ摩耗粉塵の河川・海洋流出量の精緻な推計と、それに基づく生態リスクの評価と低減に係る研究

〔研究代表者〕天野 敦子（地球化学研究グループ）

〔研究担当者〕天野 敦子、飯塚 睦（地質情報研究部門）（常勤職員 2 名、他 1 名）

〔研究内容〕

本研究では河川、海域を中心とした環境中のタイヤ摩耗粉塵（TRWP）量評価を目的とし、愛媛県松山市と富山県富山市で河川と沿岸海域の水、堆積物を採取し、TRWP の動態について検討する。予備調査で松山市の重信川、内川で河川堆積物の採取する場所や方法を確認し、試料採取調査を実施した。また、本研究で行われる生態リスク評価のために作成されたタイヤ摩耗粉塵のサイズや形状の計測を実施するとともに、より細粒な粒子計測方法等について検討した。

〔キーワード〕タイヤ摩耗粉塵、堆積物、粒度、環境動態、

生態影響評価

文部科学省：

4.3 南海トラフ地震等巨大地震災害の被害最小化及び迅速な復旧・復興に資する地震防災研究プロジェクト

〔研究代表者〕池原 研（海洋地質研究グループ）

〔研究担当者〕池原 研、鈴木 克明、中西 諒、金松 敏也（海洋研究開発機構）（常勤職員 2 名、他 2 名）

〔研究内容〕

南海トラフ沿いで発生する巨大地震・津波に伴って形成されるイベント堆積物を海底堆積物中から認定し、その堆積間隔から地震発生履歴を推定するために、2025 年度は御前崎沖から掘削された海底堆積物コアと日向灘及び喜界島周辺海域から採取されたコアの分析を行った。御前崎沖では、浮遊性有孔虫の放射性炭素年代値と挟在するテフラの年代からコアの年代モデルの改定を行い、海洋試料の放射性炭素年代の較正に必須の海洋レザバー効果の時間変化の評価を行った。日向灘ではイベント堆積物の堆積年代の決定を進め、喜界島周辺海域の複数のコアではイベント堆積物の堆積年代決定の基礎となる年代の枠組みを構築した。

〔キーワード〕南海トラフ、地震、タービダイト、海底堆積物

4.4 地殻プレート境界における地震発生のメカニズム理解のための地質・地震活動研究

〔研究代表者〕宮川 歩夢（地球物理研究グループ）

〔研究担当者〕宮川 歩夢（常勤職員 1 名）

〔研究内容〕

本研究では、地殻プレート境界における地震発生メカニズムの理解に資するため、地質情報と地震活動データの統合的解析に関する研究交流を実施した。JST さくらサイエンスプログラムの支援を受け、国際共同研究の基盤形成と若手研究者育成を目的として、インド工科大学ガンジナガル校（Indian Institute of Technology Gandhinagar）から修士課程の学生 1 名を招へいた。特に、日本列島周辺におけるプレート境界の地質構造、断層モデルおよび応力場に関する知見を活用し、地震発生過程や断層活動評価手法の高度化を目指した。招へい者の滞在期間中は、産総研が有する地質学、断層モデルおよび地震応力場解析に関する研究資産や研究手法を紹介するとともに、日本における地震研究および防災研究に関する意見交換を行った。さらに、プレート境界域における地震発生過程や断層活動に関する共同研究の可能性について検討し、今後の国際共同研究に向けた研究交流を実施した。加えて、招へい者の研究テーマである日本の地震に関する研究について技術的・学術的助言を行うとともに、日本国内の大学・研究機関との交流機会を提供し、将来的な博士課程進学や研究交流に関する情報提供を行った。本交流を通じて、日印両国の研

究者間のネットワーク形成を促進するとともに、将来的な共同研究課題の創出に向けた基盤形成を行った。

【キーワード】地震発生メカニズム、断層活動、国際研究交流、人材育成、さくらサイエンスプログラム、日印共同研究

開発を行った。2025 年度は、観測器の実験用のプロトタイプを設計製作し、実際の野外観測の試験運用を行った。

【キーワード】空中飛散花粉、AI（人工知能）、自動観測

NEDO：

4.5 水素生成可能な岩石の探索と増進を踏まえた評価に係る研究開発

【研究代表者】山崎 徹（地殻岩石研究グループ）

【研究担当者】山崎 徹、内野 隆之、片桐 星来、西岡芳晴（地質情報研究部門）、俣俣 正夫、須田 好、加野 友紀、西山 直毅、西木悠人、（地圏資源環境研究部門）、森川 徳敏（活断層・火山研究部門）、大谷 猛亮、齋藤 雄一、澤田 大毅、黒木 慎二郎、鬼嶋 正則（石油資源開発株式会社）（常勤職員 4 名、他 11 名）

【研究内容】

天然水素資源に関する地質情報は、利用のための技術開発に取り組む際に必要不可欠な基盤情報となるため、水素生成可能な岩石、すなわちかんらん石を多く含む超苦鉄質岩類の我が国における分布やそれらの性状等について、岩体調査及び採取試料の顕微鏡観察を通じて取りまとめを行った。さらに、国内超苦鉄質岩分布域湧水地における流体及びガス組成調査及び、水素集積場の探索・選定に資する知見を取得することを目的とした水素挙動メカニズムに関する文献調査と岩石浸透率評価や各種シミュレーション準備を行い、その結果を取りまとめた。以上の取り組みの結果を踏まえて、現段階での国内岩体における水素生成増進可能性の評価を実施した。

【キーワード】天然水素、超苦鉄質岩、蛇紋岩、かんらん石

内閣府：

4.6 研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム（BRIDGE）：令和 7 年度花粉観測手法の高度化のための研究開発業務

【研究代表者】板木 拓也（地球変動史研究グループ）

【研究担当者】板木 拓也、宮川 歩夢、見邨 和英（常勤職員 3 名）

【研究内容】

我が国の花粉症は、いわば国民病ともいえる状況で、政府は 2023 年 5 月に「花粉症対策の全体像」を決定（閣議決定）した。それを受けて、環境省は、花粉の飛散対策として飛散量の実測データの提供、画像解析を活用した花粉飛散量の測定や、発症・曝露対策として、花粉症予防行動の周知等を担っている。本事業は、内閣府の「研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム」（BRIDGE）において環境省が進める花粉観測手法の高度化について、準リアルタイムで情報取得が可能な高精度花粉自動観測器の研究

日本学術振興会科学研究費基金：

4.7 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析

[研究分担者] 中村 佳博 (地殻岩石研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0081/>

4.8 ゲノム比較で解明するミドリイシ属サンゴの産卵時期決定の遺伝的基盤

[研究代表者] 仮屋園 志帆 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3185/>

4.9 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明

[研究分担者] 三澤 文慶 (海洋地質研究グループ)、井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K11518/>

4.10 マルチオミクス解析を駆使した髄膜腫悪性化機序の解明

[研究分担者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K08531/>

4.11 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明

[研究代表者/分担者] 山崎 徹 (地学岩石研究グループ)、下田 玄 (資源テクニクス研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K03764/>

4.12 サンゴ礁海域保全に向けた遺伝子流動ネットワークの解明：海景遺伝学によるアプローチ

[研究代表者/分担者] 齋藤 直輝、喜瀬 浩輝 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K08961/>

4.13 新生代石灰質ナノプランクトンの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発

[研究代表者] 宇都宮 正志 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21KK0248/>

4.14 機械学習で拓くイクチオリス微化石を用いた海洋生態系の変遷解読

[研究代表者] 見邨 和英 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13192/>

4.15 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築

[研究代表者] 羽地 俊樹 (地殻岩石研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K14129/>

4.16 古生代における Gondwana 北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷

[研究代表者] 鈴木 敬介 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2202/>

4.17 革新的デジタル技術で拓く新生代の低次生態系多様性進化

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00748/>

4.18 カンボジア、インドチャイナ地塊からのプロト日本の探求

[研究代表者/分担者] 原 英俊、鈴木 敬介 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24KK0079/>

4.19 サンゴ骨格を用いた蓄積型栄養塩評価の新展開

[研究代表者/分担者] 鈴木 淳、井口 亮、(海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K03136/>

4.20 極小微動アレイ探索を用いた沖積低地の微高地種別判別技術の開発

[研究代表者/分担者] 小松原 純子 (研究部門付)、長 郁夫 (情報地質研究グループ)、佐藤 善輝、納谷 友規 (平野地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03515/>

4.21 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性に関する研究

[研究代表者/分担者] 中澤 努、長 郁夫 (情報地質研究グループ)、小松原 純子 (研究部門付)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03517/>

4.22 島弧の形成過程において鍵となる下部地殻の物質変遷プロセスの解明

[研究代表者] 針金 由美子 (資源テクニクス研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K03517/>

PROJECT-24K07178/

4. 23 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデータの地層対比手法の高度化

[研究代表者] 野々垣 進 (情報地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K07430/>

4. 24 南海トラフ地震臨時情報:「不確実な」地震予測情報をどう発表し、どう報道すべきか

[研究代表者] 大谷 竜 (地球物理研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K08249/>

4. 25 伊豆小笠原海溝における津波を伴う断層破壊の可能性: 海域調査からの検証

[研究代表者/分担者] 大谷 竜 (地球物理研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K08249/>

4. 26 共生微生物から探るサンゴの分布拡大メカニズム

[研究代表者] 喜瀬 浩輝 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2206/>

4. 27 +1~2℃の温暖期に西南極氷床は急速に融解する臨界点に到達するのか?

[研究代表者] 飯塚 睦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K23933/>

4. 28 位置別炭素同位体分析を用いた東アジア地域天然ガスの起源評価

[研究分担者] 中村 佳博 (地殻岩石研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K01713/>

4. 29 データ駆動型の微化石分類による新生代の海洋生態系変遷史の解明

[研究代表者] 見邨 和英 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24KK0255/>

4. 30 津波堆積物は生物活動によりどのように乱されているのか? 10 年スケールでの観測

[研究代表者] 清家 弘治 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K07429/>

4. 31 近代建築物を彩った日本の石: 国産建築石材の標本探索と破壊・非破壊分析

[研究分担者] 中澤 努 (情報地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K07429/>

4. 32 東南極沖合の現場観測に基づく氷-海洋-海底システムの理解

[研究分担者] 山下 幹也 (資源テクニクス研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22608/>

4. 33 日本海溝における物質・地質構造・地震活動の不均質性の関係性の解明

[研究分担者] 宮川 歩夢 (地球物理研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K00027/>

4. 34 混濁流モデリングと海底コアから震度分布を読み解く「タービダイト地震計」の開発

[研究代表者] 中西 諒 (海洋地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ1152/>

4. 35 ” ゆっくり津波 ” に着目した津波浸水と堆積物の乖離を数値実験によって定量化する試み

[研究代表者] 中西 諒 (海洋地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13177/>

4. 36 時間スケールの異なるデータに基づくプレート沈み込帯周辺ヒンジラインの成因解明

[研究分担者] 佐藤 善輝 (平野地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07163/>

4. 37 2. 5 億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最上部は無酸素化したか?

[研究分担者] 武藤 俊 (層序構造地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25983/>

4. 38 過去 600 万年間の太平洋溶存酸素濃度の復元: 海洋炭素貯留の理解にむけて

[研究分担者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K21556/>

4. 39 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明

[研究分担者] 天野 敦子 (地球化学研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K07429/>

PROJECT-23K03564/

4. 40 河川のアバルジョンに着目した氾濫原の形成過程の
解明

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25418/>

4. 41 海洋域のカンラン岩を用いたマン托ルの強親鉄元素
過剰の再検討

[研究分担者] 下田 玄 (資源テクトニクス研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00733/>

4. 42 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年
間の発達史研究

[研究分担者] 宇都宮 正志 (層序構造地質研究グループ)、
中澤 努 (情報地質研究グループ)、納谷 友規 (平野地
質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25423/>

4. 43 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変
動の復元

[研究分担者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25954/>

4. 44 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の
検証

[研究分担者] 鈴木 淳 (海洋環境地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25980/>

4. 45 火星の地下水分布推定に向けた地球アナログの周氷
河地形の地下構造探査と形成過程解明

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25928/>

4. 46 地磁気年代推定法で解き明かす海溝型巨大地震の発
生史

[研究分担者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00720/>

4. 47 放射状岩脈は火山体の荷重で形成されるのか？地質
データと弾性体力学による統合的検証

[研究代表者] 牛丸 健太郎 (地殻岩石研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K23410/>

4. 48 常時微動計測を用いた地形発達史の解明

[研究分担者] 佐藤 善輝 (平野地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K00555/>

4. 49 更新世チバニアン期におけるイタヤガイ科二枚貝の
絶滅とその古環境背景

[研究分担者] 納谷 友規 (平野地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07201/>

4. 50 大規模火山活動が駆動した白亜紀前期の全球的な寒
冷化イベントの解明

[研究分担者] 後藤 孝介 (資源テクトニクス研究グルー
プ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K01108/>

日本学術振興会科学研究費補助金：

4. 51 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質
時代の宇宙・地球現象と環境変動

[研究分担者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00135/>

4. 52 サピエンス数理先史学 ―新人拡散にともなう文化
進化モデリング

[研究分担者] 田村 亨 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00001/>

4. 53 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元
と地球生命史への影響の解明

[研究代表者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04523/>

4. 54 過去の温暖期における AMOC 崩壊の臨界点：西南極氷
床融解の役割とその影響

[研究代表者] 飯塚 睦 (地球変動史研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PUBLICLY-25H02648/>

4. 55 海中・海底画像と堆積物の定方位取得による東南極
氷床前縁陸棚域の堆積環境解明

[研究代表者] 鈴木 克明 (海洋地質研究グループ)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PUBLICLY-25H02651/>

4. 56 過去の温暖期における南極氷床・海洋実像の解明

[研究分担者] 石野 沙季（海洋地質研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PLANNED-24H02344/>

4.57 気候不安定化とティッピング・カスケード：気候危機の真打を検証する

[研究分担者] 板木 拓也（地球変動史研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00074/>

4.58 モンゴルのレジリエンス維持に資する水循環変動情報の創出

[研究分担者] 水落 裕樹（リモートセンシング研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00507/>

4.59 令和6年能登半島地震（M7.6）で津波を引き起こした海底活断層の実態解明

[研究分担者] 三澤 文慶（海洋地質研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00393/>

4.60 海底鉱物資源生成史の解明による地球表層システム変動の新たな描像

[研究分担者] 見邨 和英（地球変動史研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00415/>

4.61 海－陸シームレス地層掘削から探る南極氷床の大規模融解メカニズム

[研究分担者] 天野 敦子（地球化学研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00026/>

4.62 地磁気逆転現象が気候・生態系に対して与えた影響の検証

[研究分担者] 井口 亮（海洋環境地質研究グループ）、
羽田 裕貴（平野地質研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00016/>

4.63 サビエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究

[研究分担者] 田村 亨（地球変動史研究グループ）
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04368/>

5. 業績

5.1 地質図類

名 称	編 纂	備 考	発表年月
大子地域の地質	細井 淳、 <u>中江 訓</u> 、高橋 浩	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 1 章 地形	細井 淳	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 2 章 地質概説	細井 淳、 <u>中江 訓</u> 、高橋 浩	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 3 章 足尾帯ジュラ系	<u>中江 訓</u>	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 4 章 白亜紀の阿武隈変成岩類及び深成岩類	高橋 浩	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 5 章 足尾帯に分布する白亜紀深成岩類	高橋 浩、 <u>中江 訓</u>	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 6 章 新第三系	細井 淳	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 7 章 第四系	細井 淳	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 8 章 棚倉断層帯	細井 淳、高橋 浩	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 9 章 応用地質	細井 淳	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
第 10 章 自然災害	細井 淳	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.01.
20 万分の 1 海洋地質図「宮古島周辺海底地質図」 [海底地質図]	<u>三澤 文慶</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、荒井 晃作	海洋地質図	2026.03.
20 万分の 1 海洋地質図「宮古島周辺海底地質図」 [付図]	<u>佐藤 太一</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、佐藤 雅彦	海洋地質図	2026.03.
大多喜地域の地質	<u>宇都宮 正志</u> 、小松原 琢、中嶋 輝允、徳橋 秀一	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.
第 1 章 地形	<u>宇都宮 正志</u> 、小松原 琢	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.
第 2 章 地質概説	<u>宇都宮 正志</u>	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.
第 3 章 安房層群	<u>宇都宮 正志</u> 、中嶋 輝允、徳橋 秀一	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.
第 4 章 上総層群	<u>宇都宮 正志</u> 、小松原 琢	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.
第 5 章 下総層群	小松原 琢、 <u>宇都宮 正志</u>	地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅）	2026.03.

第6章 新期関東ローム層及び新期段丘堆積物	小松原 琢、 <u>宇都宮 正志</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第7章 沖積層及び緩斜面堆積物	小松原 琢、 <u>宇都宮 正志</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第8章 地質構造	<u>宇都宮 正志</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第9章 応用地質	<u>宇都宮 正志</u> 、小松原 琢	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
浜坂地域の地質	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u> 、 <u>佐藤 大介</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第1章 地形	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第2章 地質概説	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u> 、 <u>佐藤 大介</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第3章 古第三系	<u>佐藤 大介</u> 、 <u>羽地 俊樹</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第4章 中新統北但層群	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第5章 照来層群以外の鮮新統	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第6章 照来層群（上部鮮新統）	<u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第7章 扇ノ山火山群噴出物（下部更新統）	<u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第8章 上部更新統～完新統	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第9章 活断層	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
第10章 資源地質	<u>羽地 俊樹</u>	地域地質研究報告（5 万分の1 地質図幅）	2026.03.
千葉県中央部	<u>野々垣 進</u> 、小島 隆宏、吉田 剛、潮崎 翔一、風岡 修、八武崎 寿史、 <u>中澤 努</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第1章 地形	<u>中澤 努</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第2章 地質概説	<u>中澤 努</u> 、小島 隆宏、吉田 剛、 <u>野々垣 進</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第3章 沖積層及び人工地層	小島 隆宏、吉田 剛、風岡 修、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第4章 3D 地質モデリング	<u>野々垣 進</u> 、小島 隆宏、潮崎 翔一、吉田 剛、風岡 修、八武崎 寿史、 <u>中澤 努</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
千葉県北部延長域	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、尾崎 正紀、 <u>中里 裕臣</u> 、 <u>中澤 努</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第1章 地形	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、尾崎 正紀	都市域の地質地盤図	2026.03.

第2章 地質概説	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第3章 下総層群	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中里 裕臣</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第4章 新期段丘堆積物及び関東ローム層	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>中里 裕臣</u> 、尾崎正紀	都市域の地質地盤図	2026.03.
第5章 沖積層	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>野々垣 進</u>	都市域の地質地盤図	2026.03.
第6章 3D 地質モデリング	<u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、尾崎正紀	都市域の地質地盤図	2026.03.

5.2 データベース・ソフトウェア

名 称	作成者	公開日
標高ダウンローダー	<u>西岡 芳晴</u>	2025.04.18
都市域の地質地盤図（立体図表示機能 Ver. 2.1.0）	<u>野々垣 進</u> 、 <u>藪田 桜子</u>	2025.05.16
都市域の地質地盤図（ボクセルモデル表示機能 ver.1.1.0）	<u>野々垣 進</u> 、 <u>藪田 桜子</u>	2025.05.16
20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2（凡例数 60 版）	<u>内野 隆之</u> 、 <u>西岡 芳晴</u> 、 <u>斎藤 眞</u>	2025.09.03
20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 2025（富山修正版）	<u>坂野 靖行</u> 、 <u>井川 敏恵</u> 、 <u>竹内 誠</u> 、 <u>長森 英明</u> 、 <u>古川 竜太</u> 、 <u>及川 輝樹</u>	2025.09.04
反射法地震探査測線マップ	<u>伊藤 忍</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	2025.09.19
千葉県中央部の地質地盤図	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	2026.03.30
千葉県北部延長域の地質地盤図	<u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u>	2026.03.30

特許

発明の名称	出願人	出願日
推定装置、推定方法、及びプログラム	二宮 啓、 <u>宮川 歩夢</u> 、一木 正聡、桑原 正史、王 瑞平	2025.04.11
探査装置、探査方法、及びプログラム	二宮 啓、 <u>宮川 歩夢</u> 、一木 正聡、桑原 正史、王 瑞平	2025.04.11

5.3 誌上発表

発表題目	発表者	掲載誌, 巻 (号), ページ	発表年月
地質情報研究部門			
台地を刻む谷底低地の沖積層の形成プロセスと地盤特性：埼玉県芝川低地の例	<u>小松原 純子</u> 、内田 昌男	地質学雑誌, 131(1), 45-58	2025.04.
Accurate Land Cover Classification via Training and Validation Data Refinement Using DNRS	石井 順恵、須崎 純一、木下 嗣基、 <u>岩男 弘毅</u>	ASIAN JOURNAL OF GEOINFORMATICS, 25(1): 0006	2025.05.
New constraints on the marine reservoir effect in Holocene around Kuroshio current from multiproxy sediment core analysis	中西 利典、堀 和明、 <u>中島 礼</u> 、Wan Hong	Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences, 36: 27	2025.08.
元素で見る日本列島—日本の地球化学図—	<u>太田 充恒</u>	先端分析技術で鮮やかに読み解く—文化資源が秘めた歴史物語, 108-113	2025.09.
熊本県の土砂災害	<u>宮地 良典</u> 、木尾 竜也、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>星住 英夫</u>	研究関連普及出版物 288「地質情報展 2025 くまもと—火の国・水の国！大地のふしぎ—」：15	2025.10.
Timing of Mylonitization Based on Zircon U–Pb Ages of the Ryoke Plutonic Rocks in the Akaiwadani and Taraki Areas, Eastern Kii Peninsula, Southwest Japan: Implications for Uplifting of a Late Cretaceous Volcanic Arc on the Asian Continental Margin	<u>竹内 誠</u> 、 <u>藪田 桜子</u> 、Qi Li、浅原 良浩	Island Arc, 34(1): e70036	2025.11.
Thermal Buffering, Heat Advection and Crustal Thinning in the Ryoke Metamorphic Complex, Yanai, Southwest Japan	池田 剛、 <u>宮崎 一博</u> 、菅原 雄、林 理沙	Journal of Metamorphic Geology, 44(4), 287-310	2026.03.
紀伊半島東部、三重県朝柄地域の中央構造線沿いの珪長質火山砕屑岩類（朝柄層）と深成岩のジルコン U–Pb 年代	<u>竹内 誠</u> 、浅原 良浩	地質学雑誌, 132(1), 13-24	2026.03.
地質情報研究部門 平野地質研究グループ			
書評『地形環境史研究—地理学と考古学・歴史学の接点—』小野映介・佐藤善輝著』小野映介・佐藤善輝著	<u>田邊 晋</u>	第四紀研究, 64(2), 39-40	2025.05.
津軽平野中部における完新世の堆積環境の変化と地形変遷	小野 映介、小岩 直人、柴 正敏、高橋 未央、 <u>佐藤 善輝</u>	地理学評論 Series A, 98(3), 146-161	2025.05.
Oxygen isotope-magnetostratigraphy combined with zircon U–Pb dating for the Upper Pliocene composite marine succession in central Japan: Implications for the warm Pliocene deep-water current system on the northwestern Pacific margin	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>宇都宮 正志</u> 、岩野 英樹、檀原 徹、平田 岳史、細井 淳、 <u>中谷 是崇</u> 、久保田 好美、岡田 誠	Newsletters on Stratigraphy, 58, 256-289	2025.07.

那覇低地から得られた完新統コアの堆積相と年代	<u>佐藤 善輝</u> 、小野 映介、小岩 直人	季刊地理学, 77(2), 70-77	2025.07.
沖積低地における地形と遺跡の編纂に基づいた過去 4 千年間の洪水の履歴と規模, 要因の解明	<u>田邊 晋</u>	アサヒグループ財団研究紀要 2023 年度環境・サステナビリティ部門	2025.09.
Migration and timing of an erosional surface of forced regression: A Holocene analogue from the Kanto Plain, Japan	<u>田邊 晋</u> 、 <u>佐藤 善輝</u>	Sedimentary Geology, 492: 107017	2025.12.
Tectonic control on incised-valley geometry: Late Pleistocene examples along the longest active fault in Japan	<u>田邊 晋</u> 、石原 与四郎、西山 賢一、 <u>佐藤 善輝</u>	Geomorphology, 498: 110207	2026.01.

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

Oceanic anoxia in Panthalassa during the Early Triassic Smithian-Spathian transition	高橋 聡、山北 聡、 <u>武藤 俊</u> 、小嶋 智、海保 邦夫、山崎 慎一、土屋 範芳、Yijun Xiong、Simon W. Poulton、Paul B. Wignall、松本 廣直、板井 啓明、藤林 恵	Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 675: 113080	2025.06.
Zircon U-Pb dates from Lower Miocene rhyolitic welded tuffs in the Hokuriku region, central Japan: Implications for silicic volcanism prior to the opening of the Sea of Japan	<u>山田 来樹</u> 、長田 充弘、仁木 創太、平田 岳史	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 120(1): 250214	2025.06.
Calcareous nannofossil biostratigraphy and floral response to environmental changes recorded in the Pliocene Yorktown Formation, southeastern Virginia, USA	<u>宇都宮 正志</u> 、Harry J. DOWSETT	Stratigraphy, 22(3), 181-193	2025.09.
Applicability of some trace element discrimination diagrams to rhyolites: Tectonic interpretation of silicic volcanism during opening of the Sea of Japan	<u>山田 来樹</u>	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 120(1): 241128	2025.10.
Detrital zircon U-Pb ages and provenance of Permian sandstones from Sado Island, central Japan: Implications for Rodinia-derived sources in the eastern Central Asian Orogenic Belt	<u>鈴木 敬介</u> 、栗原 敏之、石田 大昂、高橋 俊郎、植田 勇人	Sedimentary Geology, 489: 106983	2025.10.
Hand-held radiolarian models created using micro-CT and 3D printer	<u>伊藤 剛</u> 、兼子 尚知、 <u>板木 拓也</u>	Revue de Micropaléontologie, 89: 100871	2025.10.
Sample and data management of microfossil collections: case of radiolarian specimens at Niigata University, Japan	<u>伊藤 剛</u> 、松岡 篤	Revue de Micropaléontologie, 89: 100875	2025.11.
The Birth of a New Folklore from a Japanese Manga (Demon Slayer: <i>Kimetsu no Yaiba</i>): Legends of Split Rocks in Japan	<u>伊藤 剛</u>	Geoheritage, 18: 69	2026.03.
New screening method for well-preserved brachiopod shells and shell portions for	及川 一真、高柳 栄子、藤岡 大、滝沢 護、荒金 海樹、額 佑衣、Thasinee Charoentitirat、 <u>原 英俊</u> 、	Progress in Earth and Planetary Science, 13: 23	2026.03.

paleoenvironmental analysis: Raman spectroscopy

山本 鋼志、阿部 理、浅海 竜司、山岸 滉明、小田 洸人、井龍 康文

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

Geological reconstruction based on metamorphic thermal analysis and utility in active fault research	森 宏、Takafumi Shinya、Yuho Hayakawa、Kaho Nobuhara、 <u>山岡 健</u> 、Tetsuya Tokiwa、Kazuhiro Ozawa、Wataru Tanaka、Yurie Tsukishima	Tectonophysics, 907: 230759	2025.04.
砕屑性ジルコンの U-Pb 年代測定による下部-中部中新統田辺層群の堆積年代の制約と応力場への示唆	安邊 啓明、星 博幸、 <u>羽地 俊樹</u> 、佐藤 活志、仁木 創太、平田 岳史、岩野 英樹、壇原 徹	地質学雑誌, 131(1), 59-70	2025.04.
Emplacement and Cooling History of a Pluton With Evident Laminated Structure Constrained by Field Anatomy of the Kinpusan Pluton, Central Japan	<u>山岡 健</u> 、村上 大知、森 宏、諸星 暁之、岩野 英樹、壇原 徹、平田 岳史	Island Arc, 34(1): e70014	2025.05.
兵庫県新温泉町浜坂の下部中新統八鹿層から見出された普通角閃石流紋岩	<u>羽地 俊樹</u> 、仁木 創太、平田 岳史	地質学雑誌, 131(1), 173-179	2025.07.
Ignimbrite flare-up in Late Cretaceous–Paleocene Japan empowered by hot mantle inflow	<u>山岡 健</u> 、諸星 暁之、 <u>佐藤 大介</u> 、 <u>三國 和音</u>	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 75	2025.09.
Timing of mineralization in the Ikuno polymetallic vein-type deposit, southwest Japan: Constraints from zircon U-Pb ages of Late Cretaceous igneous rocks	<u>佐藤 大介</u>	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 120(1): 250613	2025.11.
Evidence of contact metamorphism inferred from biotite occurrence and thermal structure revealed by Raman carbonaceous material geothermometry in the Yokokawagawa metamorphic rocks, central Japan	森 宏、中澤 明子、村上 大知、土肥 陽菜、松林 直亮、延原 香穂、常盤 哲也、 <u>山岡 健</u> 、小澤 和浩、牧野 州明	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 120(1): 250603b	2025.12.
豊後大野市朝地地域、杵ヶ原閃緑岩中のコーランダイトの岩石学的・地球化学的特徴	<u>山崎 徹</u>	大分地質学会誌, (31), 8-20	2025.12.
Geochronology of Cretaceous to Paleogene Igneous Rocks Along a North–South Traverse in the Western Kinki Region, Southwest Japan	<u>佐藤 大介</u>	Island Arc, 35(1): e70044	2026.03.
鳥取県岩美町周辺の地質資源	<u>羽地 俊樹</u>	鳥取県立博物館研究報告, 63, 73-89	2026.03.
鳥取県東部、駟馳山付近に分布する中新統鳥取層群駟馳山層とその地史的意義	<u>羽地 俊樹</u> 、金山 恭子、 <u>工藤 崇</u> 、菅 森 義晃、仁木 創太、平田 岳史	地質調査研究報告, 77(1), 1-20	2026.03.
鳥取層群の化石記録総覧	<u>羽地 俊樹</u> 田邊 佳紀、清水 道代	鳥取県立博物館研究報告, 63, 1-63	2026.03.
1 億年のマグマ活動史 岩石が語る過去の大噴火	<u>山岡 健</u>	日刊工業新聞	2026.03.
5 万分の 1 地質図幅「大河原」の発行	<u>中村 佳博</u>	測量, 76(3)	2026.03.

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

京都府京丹後市河辺白石山産モナズ石の化学組成と CHIME 年代	<u>坂野 靖行</u> 、山田 滋夫	岩石鉱物科学, 54(1): 250123	2025.06.
Revealing the timing and dispersal of large explosive eruptions at Aso volcano (Japan) by integrating proximal and distal tephra records over the last 130 kyrs	Sophie O. Vineberg、Paul G. Albert、Danielle McLean、Takehiko Suzuki、Yasuo Miyabuchi、 <u>星住 英夫</u> 、Hannah M. Buckland、Gwydion Jones、Fumikatsu Nishizawa、Richard A. Staff、Keitaro Yamada、Ikuko Kitaba、Junko Kitagawa、Christina J. Manning、SG14 Project Members、Takeshi Nakagawa、Victoria C. Smith	Journal of Volcanology and Geothermal Research, 468: 108436	2025.09.
Thermal Structure Around the Shibukawa Ultramafic Body of the Mikabu Greenstones in the Low-Grade Sanbagawa Schists, Northwest Shizuoka, Central Japan	<u>片桐 星来</u> 、道林 克禎、 <u>額 由衣</u>	Island Arc, 34(1): e70034	2025.09.
大規模火砕流とカルデラ	<u>星住 英夫</u> 、木尾 竜也	研究関連普及出版物 288「地質情報展 2025 くまもと一火の国・水の国！大地のふしぎ」：7	2025.10.
日本シームレス地質図利用のススメ：その 1	<u>内野 隆之</u>	季刊資源と素材, 10(4), 25-28	2025.11.
京都大学防災研究所黒神観測室構内の表層構造	筒井 智樹、木尾 竜也、多田 悠也、菅原 瑠一、中道 治久、 <u>下司 信夫</u> 、棚田 嘉博、小林 哲夫	京都大学防災研究所年報, 68B, 114-128	2025.12.
点群データを高速利用するためのファイルフォーマット点群 PNG を正式公開	<u>西岡 芳晴</u>	測量, 75(12), 64-65	2025.12.
日本シームレス地質図利用のススメ：その 2	<u>内野 隆之</u>	季刊資源と素材, 11(1), 4-6	2026.01.
Evidence that the Aso-3 caldera-forming eruption (southwest Japan) marks the termination of Marine Isotope Stage (MIS) 6	Danielle McLean、Paul G. Albert、Gwydion Jones、Richard A. Staff、A. Francke、Sophie O. Vineberg、J. Tyler、M. Saito-Kato、T. Sagawa、K. Kaneko、Hannah M. Buckland、Takehiko Suzuki、J-I. Kimura、Q. Chang、 <u>星住 英夫</u> 、Yasuo Miyabuchi、Christina J. Manning、Keitaro Yamada、Ikuko Kitaba、 <u>池原 研</u> 、SG14 Project Members、Takeshi Nakagawa、V. C. Smith	Quaternary Science Reviews, 377: 109837	2026.02.
地質図幅のバイナリベクトルタイル公開—1/5 万地質図幅 403 図を PMTiles 形式で提供開始	<u>内藤 一樹</u> 、石川 友美	測量, 76(2), 62	2026.02.
南部北上帯、壺の沢変成岩に伴う氷上花崗岩類中のモナズ石の化学組成と CHIME 年代	<u>坂野 靖行</u> 、 <u>内野 隆之</u>	地質学雑誌, 132(1), 41-50	2026.03.

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

Origin of the Sandstone Dikes Intruding Into the Miocene Shidara Group, Southwest Japan Based on Sandstone Composition and Detrital Zircon U–Pb Ages	<u>藪田 桜子</u> 、 <u>竹内 誠</u> 、 <u>浅原 良浩</u> 、 <u>Qi Li</u>	Island Arc, 34(1): e70017	2025.05.
関東平野中部、中部更新統下総層群麓層における塩原カルデラ起源テフラの層位	<u>中里 裕臣</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>坂田 健太郎</u> 、 <u>中澤 努</u>	地質学雑誌, 131(1), 165-172	2025.07.
Construction of average S-wave velocity maps using simplified microtremor method: Case study of area with pyroclastic flow deposits to the east of Aso Caldera, Japan	<u>長 郁夫</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>下司 信夫</u>	Geophysical Journal International, 243(1): ggaf295	2025.08.
埼玉県南東部の3次元地質地盤図の公開	<u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u>	測量, 75(8), 67	2025.08.
産業技術総合研究所地質調査総合センター地質標本館：地球と社会のつながりを学ぶ	<u>中澤 努</u>	理科教室, 68(849), 86-87	2025.09.
iGrav 超伝導重力計を可搬型相対重力計として用いる試みについて	今西 祐一、池田 博、本多 亮、三浦 哲、 <u>名和 一成</u> 、西山 竜一、風間 卓仁、若林 環、山本 圭吾	測地学会誌, 71, 34-42	2025.10.
Non-destructive identification of gabbroic building stone using portable X-ray fluorescence (pXRF) analysis	西本 昌司、乾 睦子、 <u>中澤 努</u> 、平賀 あまな、山下 浩之	npj Heritage Science 13: 497 (2025)	2025.10.
微動 H/V スペクトルのピーク周波数マップ：埼玉県南東部における3次元地質地盤図との比較事例	<u>長 郁夫</u> 、 <u>先名 重樹</u> 、 <u>野々垣 進</u>	日本地震工学会論文集, 25(12), 12_121-12_140	2025.11.
都市デジタルツインを支える3D都市モデルと3D地質地盤モデルのデータ連携	<u>藪田 桜子</u> 、 <u>野々垣 進</u>	地質学雑誌, 131(1), 379-383	2025.12.
1.6 台地と低地の地下地質	<u>中澤 努</u>	房総半島の地層と岩石のフィールドガイド, 22-25	2025.12.
3次元地質地盤図 軟弱層の分布を可視化	<u>米岡 佳弥</u>	日刊工業新聞	2025.12.
地質標本館企画展「祝認定！ヘリテージストーン 天然石材遺産 ―筑波山塊の花崗岩―」の開催	森田 澄人、都井 美穂、藤原 智晴、朝川 暢子、清水 裕子、福田 和幸、 <u>中澤 努</u> 、 <u>瀬口 寛樹</u> 、 <u>武井 勇二郎</u>	GSJ 地質ニュース, 15(2), 41-45	2026.01.
ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた花崗岩石材の産地推定手法の開発	乾 睦子、西本 昌司、平賀 あまな、 <u>中澤 努</u>	日本建築学会技術報告集, 32(80), 487-492	2026.02.
Fault activity and stress field of shallow intraplate earthquakes in northern South Island, New Zealand	<u>田上 綾香</u> 、 <u>岡田 知己</u> 、 <u>Savage Martha</u> 、 <u>Chamberlain Calum</u> 、 <u>Ghisetti Francesca</u> 、 <u>Sibson Richard</u> 、立岩 和也、松野 弥愛、松本 聡、河村 優太、飯尾 能久、佐藤 将、平原 聡、木村 洲徳、 <u>Bannister Stephen</u> 、 <u>Ristau John</u>	Tectonophysics, 927: 231142	2026.03.
茨城県南部、鹿島台地における DKP テフラおよび MIS 4 面の認定	<u>中里 裕臣</u> 、 <u>岡崎 浩子</u> 、 <u>田村 亨</u>	公益財団法人深田地質研究所年報, (26), 65-73	2026.03.

ISS 国産データ精緻化	<u>水落 裕樹</u>	日刊工業新聞	2025.06.
Observation of Diffuse Galactic Light Near the Galactic Center with ONC-T on Board Hayabusa2	佐野 圭、Yuto Tome、Kana Kurosaki、津村 耕司、松浦 周二、瀧本 幸司、岩田 隆浩、山田 学、諸田 智克、神山 徹、早川 雅彦、横田 康弘、巽 瑛理、 <u>松岡 萌</u> 、坂谷 尚哉、湯本 航生、亀田 真吾、鈴木 秀彦、長 勇一郎、吉岡 和夫、小川 和律、白井 慶、澤田 弘崇	The Astrophysical Journal, 988(1): 12	2025.07.
The MMX InfraRed Spectrometer (MIRS) for the spectral characterization of the Martian system	Antonella Barucci、Pernelle Bernardi、Jean-Michel Reess、Sonia Fornasier、Merlin Frederic、 <u>松岡 萌</u> 、神山 徹、他 77 名	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 69	2025.08.
Nondestructive analysis of Bennu samples toward comparative studies with Ryugu samples	深井 稜汰、西村 征洋、湯本 航生、長 勇一郎、清水 雄太、 <u>松岡 萌</u> 、巽 瑛理、古川 聡一郎、矢田 透、畠田 健太郎、与賀田 佳澄、榎戸 祐馬、田原 瑠衣、宮崎 明子、川崎 盛矢、杉田 精司、森 晶輝、中原 俊平、愛敬 雄太、宮本 英明、Cedric Pilorget、Damien Loizeau、Laura Nardelli、Rachel Sheppard、Cateline Lantz、Lucie Riu、Jean-Pierre Bibring、Rosario Brunetto、岡田 達明、安部 正真、臼井 寛裕	Meteoritics & Planetary Science, 61(1), 3-16	2025.11.
Application of structured geological maps to prediction of landslide occurrence based on statistical mechanics	宮崎 一博、 <u>水落 裕樹</u>	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 108	2025.12.
Boulder motions on asteroid Ryugu induced by thruster gas disturbance by Hayabusa2	坂谷 尚哉、亀田 真吾、Kosuke Kitsunai、菊地 紘、菊地 翔太、武井 悠人、三樹 裕也、森 治、神山 徹、諸田 智克、巽 瑛理、長 勇一郎、山田 学、横田 康弘、 <u>松岡 萌</u> 、本田 親利、鈴木 秀彦、早川 政彦、吉岡 和夫、小川 和律、岡田 達明、田中 聡、千秋 博己、荒井 武彦、出村 裕英、関口 朋彦、寫生 有理、金丸 仁明、中澤 暁、吉川 健人、照井 冬人、尾川 直子、小野 剛、吉川 真、佐伯 孝直、津田 雄一、道上 達広、杉田 精司	Icarus, 448: 116916	2025.12.
Estimation of methane emissions from inundated areas in northern Eurasia using a process-based model and remotely-sensed inundation dynamics data	伊藤 昭彦、 <u>水落 裕樹</u> 、檜山 哲哉	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 113	2025.12.
Reflectance spectroscopy (200-4200 nm) of the red-sloped C2 carbonaceous chondrites	Edward Cloutis、Devin Schrader、Daniel Applin、中村 智樹、Timothy Glotch、廣井 孝弘、 <u>松岡 萌</u> 、	Icarus, 449: 116952	2026.01.

MET 00432, Tagish Lake, Tarda, and WIS 91600 (“CT” grouplet)	Michael Zolensky、Joshua Emery、Kristi Peters		
UV-Vis-NIR Reflectance Spectra of Ilmenite Mixtures: Implications for Estimation of TiO ₂ Content in Lunar Mare Regions	<u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聡</u>	The Planetary Science Journal, 7(2): 48	2026.02.
Double-Peaked Hyperspectral Features at 710 and 800 nm for Monitoring Coastal Chlorophyll- <i>a</i> Concentrations from Space	<u>山本 聡</u> 、 <u>水山 克</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>池田 あやめ</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>井口 亮</u>	Journal of Geophysical Research-Biogeosciences, 131(3): e2025JG009443	2026.03.
地質情報研究部門 海洋地質研究グループ			
IODP ³ Expedition 503 “Hadal Trench Tsunamigenic Slip History” Scientific Prospectus	<u>池原 研</u> 、Michael Strasser、前田 玲奈	Proceedings of International Ocean Drilling Programme, 503, 1-18	2025.04.
Submarine landslides caused by the 2024 Noto Peninsula earthquake	Takafumi Kasaya、Hiroki Minami、Kyoko Okino、Junji Kaneko、 <u>小野 誠太郎</u>	Earth, Planets and Space, 77: 72	2025.05.
Estimation of turbidite source area in Late Pleistocene to Holocene around Kikai Island based on mineral and biogenic calcium carbonate composition	<u>中西 諒</u> 、前田 歩、 <u>天野 敦子</u> 、芦 寿一郎、山口 飛鳥、横山 祐典、宮入 陽介	Marine Geology, 487: 107593	2025.06.
Estimation of tsunami sources of the 17th-century deposits in Northern Hidaka, Western Hokkaido, Japan based on sediment transport modeling	<u>中西 諒</u> 、木村 達人、菅野 剛	Natural Hazards, 121, 19261-19276	2025.08.
Enhancing event stratigraphic correlations using XRF-CS cluster-based chemostratigraphy: A case study from IODP Exp. 386 at the central Japan Trench	Jyh-Jaan Steven Huang、Charlotte Pizer、Jun-Ting Lin、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser	The Depositional Record, 12(1): e70044	2025.09.
Mud volcanism and diapirism along the Japan Trench axis: evidence for a complex earthquake plumbing system on the down-going plate	Myra Keep、Troy Rasbury、Cecilia McHugh、Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Charlotte Pizer、中村 恭之	Marine and Petroleum Geology, 182: 107597	2025.09.
デジタル技術で繋ぐ地質情報と防災対策～活断層・火山・斜面災害・海洋地質～	石塚 吉浩、 <u>三澤 文慶</u> 、太田 耕輔、宝田 晋治、都井 美穂、須田 好、 <u>田中 裕一郎</u> 、藤原 治、 <u>阿部 朋弥</u> 、岩橋 くるみ、 <u>中村 佳博</u> 、 <u>中村 淳路</u>	GSJ 地質ニュース, 14(9), 272-274	2025.09.
Constraining a high-slip offshore fault area during the 2024 Noto Peninsula earthquake using tsunami inundation data and numerical simulations	前橋 克哉、山田 昌樹、成瀬 元、石村 大輔、 <u>中西 諒</u> 、清塚 義明	Coastal Engineering Journal, 67(4), 839-854	2025.10.
Deep learning object detection for fossil diatom counting: assessing the impact of fossil preservation and intraspecific morphological variation	<u>石野 沙季</u> 、福田 素久、 <u>板木 拓也</u>	Marine Micropaleontology, 201: 102519	2025.10.

Facies analysis provides new insights into event bed deposition in a hadal trench environment	Mishelle Muthre, Jean-Noel Proust, Charlotte Pizer, <u>池原 研</u> , Jyh-Jaan Steven Huang, 成瀬 元、Michael Strasser	Sedimentology, 73(2), 441-477	2025.12.
Impact of Anaerobic Cold Storage on Subseafloor Microbial Communities	星野 辰彦、實野 佳奈、西川 洋平、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser、竹山 春子、稲垣 史生	Journal of Geophysical Research: Biogeosciences, 130(12): e2025JG009286	2025.12.
Slide scanner-based microscopy image datasets of fossil diatoms from Southern Ocean surface sediments	<u>石野 沙季</u> 、 <u>板木 拓也</u>	Data in Brief, 64: 112404	2026.01.
Structural Evolution of the Eastern Nankai Trough accretionary prism, Central Japan—Subduction of Trough-Parallel Seamount Chains	Eyang ondo Philomene vanessa、荒井 晃作、 <u>三澤 文慶</u> 、高橋 成美、横山 由香、平 朝彦、坂本 泉	Progress in Earth and Planetary Science, 13: 20	2026.03.
地質情報研究部門 地球変動史研究グループ			
Deep-sea rare-earth mineral resources formed in the early Eocene Hothouse ocean: Insights from deep learning-based microfossil observations	<u>見邨 和英</u> 、北澤 堯大、中村 謙太郎、安川 和孝、桑原 佑典、大田 隼一郎、加藤 泰浩	Paleoceanography and Paleoclimatology, 40(4): e2024PA004938	2025.04.
Dense aggregations of upogebiid shrimp burrows observed in the nearshore zone off a sandy beach	<u>清家 弘治</u> 、 <u>田村 享</u> 、 <u>小森 康太郎</u>	Plankton and Benthos Research, 20(2), 122-128	2025.05.
Rapid burial and intense degradation of organic matter drive active silicate weathering in the subsurface sediments of the ocean's deepest realm	M. Luo, M. Zheng, K. Wallmann, A.W. Dale, M. Strasser, M.E. Torres, M. Koelling, N. Riedinger, C. März, T. Rasbury, R. Bao, <u>板木 拓也</u> 、 <u>池原 研</u> 、J.E. Johnson, P. Bellanova, Y. Nakamura, M. Yu, J. Xie, D. Chen	Geology, 53 (8), 636-641	2025.05.
Review of radiolarian microfossils as a tool for reconstructing sea surface temperature of the past in the Northwest Pacific	松崎 賢史、 <u>板木 拓也</u> 、久保田 好美、Keun Eun Lee、本山 功、佐川 拓也、堀川 恵司、村山 雅史、小畑 元	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 35	2025.05.
Holocene coastal barrier dune development and its influence on marine inundations: an example from the Kochi coast facing the Nankai Trough, southern Japan	谷川 晃一郎、 <u>田村 享</u> 、 <u>小森 康太郎</u> 、根来 湧輝	Geomorphology, 486: 109887	2025.06.
SEQUESTRICHIA IN COMPLEX OPHIOMORPHA ISP. FROM LATE PLEISTOCENE GRAINSTONES IN THE BAHAMAS, WITH MODERN ANALOGUE COMPARISONS	H Allen Curran, <u>清家 弘治</u> 、Bosiljla Glumac	PALAIOS, 40(6), 180-190	2025.06.
Integrative taxonomy of new xenophyophores (Rhizaria, Foraminifera) from the abyssal northwest Pacific	Andrew J. Gooday, Yoshiyuki Ishitani, Chong Chen, Maria Holzmann, Julien Richirt, <u>清家 弘</u>	European Journal of Taxonomy, 1004(1), 144-189.	2025.07.

	<u>治</u>、Momo Yamashita、Masashi Tsuchiya、Hidetaka Nomaki Masanobu Yamamoto、Kenta Suzuki、Masafumi Murayama、Laura Gemery、<u>清家 弘治</u>、Leonid Polyak、Youngjin Joe、Shoma Uchida、Minoru Kobayashi、Jonaotaro Onodera、Keiji Horikawa、Yuhji Yamamoto、Takayuki Omori、Michinobu Kuwae、Tomohisa Irino、Yutaka Y. Watanabe、Motoyo Itoh、Eiji Watanabe	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 62	2025.07.
Rapid Holocene deposition in the Mackenzie Trough and Barrow Canyon areas in the western Arctic Ocean			
Scanning SQUID microscope system for geological samples: further system improvements and development of post-processing software	<u>小田 啓邦</u>、河合 淳、河端 美樹、福與 直人、谷元 瞭太、与謝野 勳、穴井 千里	Progress in Earth and Planetary Science, 12: 56	2025.07.
Beach ridge formation and Holocene relative sea-level changes in the southern Sendai coastal plain, northern Japan	丸山 愛太、堀 和明、<u>田村 亨</u>、石井 祐次、<u>清家 弘治</u>、中西 利道、Wan Hong	Geomorphology, 488: 109957	2025.08.
Estimating the length and extension direction of burrows formed by water-dwelling crabs using ultrasound	Tachiki Hajime、Teruki Fujimaru、Takumi Asakurka、Katsunori Mizuno、<u>清家 弘治</u>	Measurement, 257, Part A: 118550	2025.08.
〔海底音響探査×AI〕 深層学習を活用した海底鉱物資源の探査	<u>見邨 和英</u>、中村 謙太郎	日本音響学会誌, 81(8), 559-565	2025.09.
	Edward Anthony、Jaia Syvitski、Kim M. Cohen、齋藤 文紀、Florin Zainescu、Alfred A. Vespremeanu-Stroe、Nick Marriner、Alessandro Amorosi、Vittorio Masselli、<u>田村 亨</u>、John Day、Robert J Nicholls、Colin D Woodroffe、Philip S.J. Minderhoud、Luminita Preoteasa、Florin Tatui、Zhongyuan Chen、Manon Besset、Francois Sabatier、Christophe Morhange、David Kaniewski、Paul G. Kemp	Earth-Science Reviews, 271: 105302	2025.10.
A 7000-year record of human influence on Global River Deltas: Geomorphology, stratigraphy, the Anthropocene overprint and future			
技術で未来拓く 産総研の挑戦 (384) 「見る」地質研究の挑戦	<u>見邨 和英</u>	日刊工業新聞	2025.10.
	菅沼 悠介、<u>板木 拓也</u>、<u>羽田 裕貴</u>、草原 和弥、小長谷 貴志、石輪 健樹、大森 貴之、池原 実、Rob McKay、関 宰、平野 大輔、藤井 昌和、加藤 悠爾、<u>天野 敦子</u>、徳田 悠希、岩谷 北斗、<u>鈴木 克明</u>、平林 幹啓、松崎 浩之、山形 武靖、岩井 雅夫、香月 興太、Francisco J. Jimenez-Espejo、松井 浩紀、<u>清家</u>	Nature Geoscience, 18, 1216-1223	2025.11.
Antarctic ice-shelf collapse in Holocene driven by meltwater release feedbacks			

	弘治、川又 基人、西田 尚央、伊藤 優人、杉山 慎、奥野 淳一、澤柿 教伸、阿部 彩子、青木 茂、三浦 英樹		
Difference in slip patterns between two prehistoric giant earthquakes along the southern Kuril Trench	伊尾木 圭衣、澤井 祐紀、行谷 佑一、松本 弾、谷川 晃一朗、嶋田 侑真、 <u>田村 亨</u> 、岡田 里奈	Geophysical Research Letters, 53(1): e2025GL118295	2025.12.
New chronological data for the Middle Paleolithic hominin occupations at Anghilak Cave, Uzbekistan	西秋 良宏、Otabek Aripdjanov、Michelle Glantz、 <u>田村 亨</u> 、北川 浩之、新井 才二、Terrence Ritzman、Rustam Suleymanov	Quaternary International, 756: 110096	2025.12.
Burrows of the giant beach worm (Australonuphis) in a high-energy beach environment in New South Wales, Australia: implications for the palaeoecology of some Phanerozoic Skolithos assemblages	<u>清家 弘治</u> 、Thomas Oliver	Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 686: 113555	2026.01.
Magnetic Domain State and Anisotropy in Monoclinic 4C Pyrrhotite (Fe ₇ S ₈) From First-Order Reversal Curve Diagrams	Andrew P. Roberts、Xiang Zhao、Chorng-Shern Horng、Pengxiang Hu、Mark J. Dekkers、Richard J. Harrison、David Heslop、Adrian R. Muxworthy、 <u>小田 啓邦</u> 、Wyn Williams	Journal of Geophysical Research: Solid Earth, 131(2): e2025JB032900	2026.02.
Scanning magnetic microscopy using a high-sensitivity room-temperature tunnel magnetoresistance sensor for geological applications	<u>小田 啓邦</u> 、藤原 耕輔、福與 直人、久保田 均、一ノ瀬 智浩、大兼 幹彦、熊谷 静似、松崎 斉、内田 泰藏、河端 美樹、河合 淳	Sensors, 26(3): 1075	2026.02.
地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ			
Shifts in Coral Reef Holobiont Communities in the High-CO ₂ Marine Environment of I [?] torishima Island	Roger Huerlimann、Hin Boo Wee、Maria Alves dos Santos、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、 <u>水山 克</u> 、‘Ale’alani Dudoit、Emmeline Jamodiong、佐藤 風、SOONG GIUNYEE、栗原 晴子、Roger Huerlimann、Filip Husnik、 <u>井口 亮</u> 、Timothy Ravasi、James Davis Reimer	PLOS Climate, 4(7): e0000665	2025.04.
Tandem quadrupole inductively coupled plasma mass spectrometry for the quantitative and isotopic analysis of rare earth elements and radionuclides	朱 彦北、坂口 綾、楊 国勝、 <u>鹿籠 康行</u> 、三浦 勉、鄭 建	Journal of Analytical Atomic Spectrometry, 40, 1428-1446	2025.04.
Ribbon worms living on deep-sea trees: <i>Alvinonemertes daitoensis</i> sp. nov. (Nemertea, Monostilifera) associated with the glass sponge <i>Walteria leukarti</i> (Porifera, Hexactinellida)	波々伯部 夏美、Geminne G. Manzano、自見 直人、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、土田 真二、藤原 義弘	Systematics and Biodiversity, 23(1): 2504484	2025.06.
Hydrogen sulfide, hypoxia, and low salinity tolerance of deep-sea amphipods	石田 洋、瀬尾 絵里子、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、池内 絵里、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、塚崎 あゆみ、鈴木 昌弘	Marine Pollution Bulletin, 219: 118340	2025.06.

(*Pseudorchomene sp.*) collected from the sea floor off Joetsu, Sea of Japan

Environmental DNA analysis at multiple taxonomic levels highlights geographic variation in subtropical coastal marine communities

Genetic population structure of Japanese freshwater crab, *Geothelphusa dehaani* species complex using genome wide SNPs

Comparative genomics of two closely related *Acropora* coral species with different spawning seasons reveals genomic regions possibly associated with gametogenesis

Landslide deposits caused by shallow landslides alter the redox regime in forested catchments: insights from hydrochemical and microbial analyses

ICP-MS 分析におけるコンタミネーション・メモリー効果対策

Rubble in paradise: motile infaunal diversity patterns across reef environments in Palau

Brain metabolomics and bioinformatics analysis of a lipopolysaccharide (LPS)-induced acute inflammation model mouse reveal region-specific metabolic alterations and identify potential biomarkers of neuroinflammation

Hydrogeological information, water utilization, and various challenges related to water resources of the Okinawa main island in Japan

The first record of *Porcupinella profunda* from the North Pacific, Aleutian Trench documents phylogenetic position in the Umbellulidae

Distinct community compositions of prokaryotes, eukaryotes, and fishes revealed through environmental DNA

儀武 滉大、濱本 耕平、小枝 圭太、西島 美由紀、喜瀬 浩輝、水山 克、鈴木 淳、青木 伸行、安田 仁奈、井口 亮

國島 大河、高田 賢人、西川 完途、儀武 滉大、西島 美由紀、井口 亮

仮屋園 志帆、井口 亮、寺井 洋平

吉原 直志、飯島 真理子、西島 美由紀、井口 亮

中野 かずみ、朱 彦北、鹿籠 康行

Piera Biondi、喜瀬 浩輝、Giovanni Diego Masucc、Wee Hin Boo、Marilyn Carletti、Chloe Julie Lois Fourreau、濱本 耕平、Yusuke Iwaki、Iori Mizukam、Taigi Sato、SOONG GIUNYEE、Kairi Takahashi、Ryunosuke Ueda、Daito Yamaguchi、Yimnang Golbuu、James Davis Reimer

杉浦 伸之輔、谷口 賢、笥 智貴、大谷 悠斗、林 由美、久恒 一晃、浅野 友美、江口 盛一郎、井口 亮、財津 桂

松本 親樹、飯島 真理子、井口 亮、内田 洋平、Shrestha Gaurav

櫛田 優花、Angelika Brandt、James Davis Reimer、喜瀬 浩輝、Angelo Polisenio

濱本 耕平、西島 美由紀、儀武 滉大、鈴木 淳、山崎 仁也、小枝 圭太、青木 伸行、井口 亮

Scientific Reports, 15: 20791 2025.07.

Scientific Reports, 15: 23781 2025.07.

BMC Ecology and Evolution, 25: 88 2025.07.

Journal of Hydrology, 662, Part B: 133960 2025.07.

ぶんせき, 4, 84-91 2025.09.

Coral Reefs, 44, 1759-1770 2025.10.

JOURNAL OF PROTEOME RESEARCH, 25(1), 66-74 2025.11.

CCOP-GSJ-VGD Groundwater Project Report GW-13, 28-35 2025.11.

Progress in Oceanography, 239: 103590 2025.11.

Environmental DNA, 7(3): e70115 2025.12.

analysis at different salinities around
Ishigaki Island, Okinawa, Japan.

Molecular diversity of coral microbiomes
shows no relationship with latitude in the
western Pacific Ocean

儀武 滉大、喜瀬 浩輝、善岡 祐輝、
齋藤 直輝、中島 祐一、酒井 一彦、
鈴木 淳、安田 仁奈、井口 亮

Marine Ecology Progress
Series, 772, 137-150 2026.01.

Dinoflagellate diversity of large benthic
foraminifera in harsh shallow-water
environments

前田 歩、濱本 耕平、西島 美由紀、
井口 亮、鈴木 淳

Coral Reefs, 44, 1197-1209 2026.02.

Internal tides drive spatial variation in
impact areas of deep-sea mining plumes at
seamounts

齋藤 直輝、Washburn Travis、長尾
正之、鴨志田 紘子、鈴木 淳

Frontiers in Marine Science,
12: 1603902 2026.02.

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

ERRATUM: Inception of ridge-ridge-ridge
triple junctions: Morphostructural analysis
and dynamics in the early back-arc
extension of the northern Okinawa Trough

高下 裕章、佐藤 太一、有元 純、大
坪 誠、石野 沙季、鈴木 克明、石塚
治、針金 由美子、三澤 文慶、井上
卓彦、山下 幹也、古山 精史朗、横山
由香、佐藤 悠介、森 尚仁、南 宏
樹、田村 千織

Geology, 53 (7): 607 2025.05.

Molybdenum isotope records of the Chilpi
Group, Bastar Craton, India: Implications
on atmospheric and shallow-seawater
oxygen content in the Orosirian period

Prasanta Kumar Mishra, Sarada
Prasad Mohanty、後藤 孝介、
Sarada Prasad Mohanty

Gondwana Research, 146,
39-53 2025.06.

Onboard measurements of the seismic
velocity and electrical resistivity of
dredged samples from the Southern
Mariana region collected during cruise
KH-23-9

伊藤 禎宏、片山 郁夫、赤松 祐哉、
松山 和樹、藤井 昌和、針金 由美
子、小原 泰彦

Journal of Mineralogical and
Petrological Sciences, 120(1):
241230 2025.06.

Komatiitic parental magmas of the
Archean Ujaragssuit Nunat ultramafic
body, SW Greenland, identified from spinel
chemistry

西尾 郁也、森下 知晃、Pedro
Waterton、田村 明弘、板野 敬太、
Simon H. Serre、Jane L. Plesner、
高橋 欽太、谷 健一郎、針金 由美
子、沢田 輝、Kristoffer Szilas

Contributions to Mineralogy
and Petrology, 180: 20 2025.06.

Microstructural Characteristics of Sheared
Gabbroic Rocks From the Mado
Megamullion, Shikoku Basin, Philippine
Sea

二村 康平、道林 克禎、針金 由美
子、小原 泰彦

Island Arc, 34(1): e70014 2025.08.

20 世紀科学論文集 プレート・テクトニク
ス革命

木村 学、浜橋 真理、高下 裕章

20 世紀科学論文集 プレー
ト・テクトニクス革命 2025.08.

Multiple magmatic processes and seawater
circulation into the uppermost mantle of
the Oman ophiolite: Evidence from Sr
isotope and geochemical data for CM1A
core samples from the Oman Drilling
Project

芳川 雅子、柴田 知之、仙田 量子、
針金 由美子、Muhamad Asyraf
Aminuddin、森下 知晃

Chemical Geology, 695,
123072 2025.10.

Incomplete oxidative sulfide weathering
and low atmospheric oxygen levels during
the Great Oxidation Event

後藤 孝介、Yasuhito Sekine、Umi
Nakamura、Katsuhiko Suzuki、
Ryoko Senda、Naoki Yamada、

Communications Earth &
Environment, 6: 906 2025.11.

	Yuichiro Ueno, Shogo Tachibana, Naohiro Yoshida, Mariko Harada, Ryuji Tada, Kazuhisa Goto, Shinji Yamamoto, Teruyuki Maruoka, Nanako O. Ogawa, Naohiko Ohkouchi, <u>針金 由美子</u> 、 <u>昆 慶明</u> 、 <u>下田 玄</u> 、Simon W. Poulton、Eiichi Tajika		
Poikilitic hornblende peridotite in the southern end of the Abukuma Mountains, Northeast Japan, as results of adakitic magmatism	若園 明、福山 繭子、板野 敬太、 <u>針金 由美子</u> 、田村 明弘、森下 知晃	Frontiers in Geochemistry, section Solid Earth Geochemistry 3:1697337	2025.12.
Geochemical systematics of spreading ridge-arc collision – Philippine Sea CBF rift and the Izu-Bonin arc	石塚 治、Rex N. Taylor、 <u>佐藤 太二</u> 、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、Susumu Umino, Izumi Sakamoto, Kouki Mori, Yuka Yokoyama, Kenichiro Tani, Yasuhiko Ohara, Conway Christopher	Chemical Geology, 703: 123232	2026.01.
Amagmatic Mylonitic Deformation of Mantle Peridotites from the Tosa Megamullion in the Shikoku Basin, Philippine Sea	道林 克禎、井上 創、Valentin Basch、Marco Cuffaro、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>片桐 星来</u> 、森口 堯明、夏目 樹、二村 康平、沖野 郷子、奥脇 健生、大柳 良介、Alessio Sanfilippo、Jonathan E. Snow、山下 浩之、小原 泰彦	Minerals, 16(2): 154	2026.01.
Prolonged cooling of andesitic-dacitic lava flows produces optimal groundmass material for ⁴⁰ Ar/ ³⁹ Ar dating	Conway Christopher, Andrew Calvert、石塚 治、山崎 誠子、宮城 磯治、 <u>針金 由美子</u> 、Graham Leonard	Chemical Geology, 705: 123268	2026.01.
cationCalc4EPMA: Efficient processing tool for EPMA dataset	松山 和樹、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>中村 佳博</u>	SoftwareX, 34: 102555	2026.02.
地質標本館イベント「ライブ中継！レガシーコア試料から海洋地殻の成り立ちをさぐる」開催報告	<u>針金 由美子</u> 、草野 有紀、藤井 昌和、藤原 智晴、赤松 祐哉、吉田 一貴、久保 雄介、加藤 悠爾、瀬口 寛樹、福田 和幸、松山 和樹、奥脇 健生、伊藤 禎宏、三木 悠登	GSJ 地質ニュース, 15(2), 54-56	2026.02.
地質情報研究部門 地球化学研究グループ			
Distribution and accumulation patterns of tire-derived particles in coastal and lake sediments	田中 厚資、 <u>天野 敦子</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、仲山 慶、高橋 勇介、鈴木 剛	Water Research, 286: 124278	2025.07.
Five new geochemical reference materials of igneous rocks: Andesite JA-2a, granite JG-2a, granodiorite JG-3a, gabbro JGb-1a, and peridotite JP-2	<u>三國 和音</u> 、寺島 滋、岡井 貴司、 <u>久保田 蘭</u> 、 <u>中村 淳路</u> 、 <u>太田 充恒</u>	GEOCHEMICAL JOURNAL, 59(6), 271-282	2025.10.
地球化学図—元素濃度で見る地図—	<u>遠山 知亜紀</u>	研究関連普及出版物 288「地質情報展 2025 くまもと一火	2025.10.

の国・水の国！大地のふしぎ
一」：3

Accurate determination of whole-rock
major element composition of ultramafic
rocks through X-ray fluorescence
spectrometry

三國 和音、石川 晃、佐藤 隆

GEOCHEMICAL
JOURNAL, 59(6), 299-314

2025.12.

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

Fault Geometries of the 2024 Mw 7.5 Noto
Peninsula Earthquake from Hypocenter-
Based Hierarchical Clustering of Point-
Cloud Normal Vectors

佐脇 泰典、椎名 高裕、寒河江 皓
大、佐藤 圭浩、堀川 晴央、宮川 歩
夢、今西 和俊、内出 崇彦

Journal of Geophysical
Research: Solid Earth,
130(4): e2024JB030233

2025.04.

Normal faults geometry and slip tendency
in the outer-rise of the Japan Trench

孫 岳、宮川 歩夢、尾鼻 浩一郎、
Jamali Hondori Ehsan、朴 進午

Progress in Earth and
Planetary Science, 12: 65

2025.08.

Drone magnetic surveys for active
volcanoes: a case study of the Izu-Oshima
volcano, Japan

大熊 茂雄、中塚 正、宮川 歩夢、牧
野 雅彦、小森 省吾、小山 崇夫、金
子 隆之、大湊 隆雄、安田 敦、本多
嘉明、押田 淳

Exploration Geophysics,
56(5), 56-70

2025.10.

James Kirkpatrick、Heather
Savage、Christine Regalla、
Srisharan Shreedharan、Catherine
Ross、奥田 花也、Uisdean
Nicholson、氏家 恒太郎、on
Hackney、Marianne Conin、Pei
Pei、Sara Sattoli、Junli Zhang、
Patrick Fulton、Matt Ikari、小平 秀
一、前田 玲奈、奥津 なつみ、Sean
Toczko、江口 暢久 and Expedition
405 Scientists (P. Bellanova、C.
Brown、M. Brunet、M. R. Castillo、
Y.-C. Chang、M.-L. Doan、J.
Everard、A. Fintel、J. Ford、R.
Fukuchi、A. Gough、H. Guo、D.
Gürer、M. Hagino、Y. Hamada、細
野 日向子、M.J. Jurado、A. Ijiri、T.
Ishikawa、M. Iwai、T. Jeppson、N.
Kamiya、T. Kanamatsu、A.
LaPlante、W. Lin、宮川 歩夢、Y.
Morono、Y. Nakamura、C. Pizer、
T. Rasbury、R. Robertson、K.
Schaible、H. Sone、C. Sun、T.
Uchida、P. Vannucchi、A.
Yamaguchi、Y. Yamamoto、T.
Yoshimoto)

Science, 391(6784), 489-493

2025.12.

Extreme plate boundary localization
promotes shallow earthquake slip at the
Japan Trench

わかりやすい物理探査：ドローン物理探査
(2) ドローン磁気探査

大熊 茂雄

物理探査ニュース, 69, 1-3

2026.02.

UAV-based magnetic survey for detecting
hydrothermal alteration zones relevant to

大熊 茂雄、宮川 歩夢、米倉 光、阪
口 圭一、星住 英夫、阿部 朋弥、川
畑 大作、宮地 良典、松島 喜雄

Progress in Earth and
Planetary Science, 13: 13

2026.03.

landslides: A case study at Aso Volcano,
Japan

5.4 口頭発表

発表題目	発表者	学会名	発表年月日
地質情報研究部門			
Melt advection and heat storage in migmatites: their role in the formation of a plutono-metamorphic and volcanic arc	<u>宮崎 一博</u> 、 <u>池田 剛</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
常時微動データを用いて微高地を判別する試み：福岡県糸島低地の例	<u>小松原 純子</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>佐藤 善輝</u> 、 <u>納谷 友規</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
つくば地域における 3 次元地盤・地質情報の 広域地震応答評価への適用性に関する検討	<u>飯山 かほり</u> 、 <u>高谷 周平</u> 、 <u>山田 岳峰</u> 、 <u>引田 智樹</u> 、 <u>近藤 宏二</u> 、 <u>先名重樹</u> 、 <u>中村 洋光</u> 、 <u>内藤 昌平</u> 、 <u>宮地良典</u> 、 <u>野々垣 進</u>	第 45 回地震工学研究発表会	2025.09.02
紀伊半島東部領家深成岩類のジルコン U-Pb 年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県飯南地域の例	<u>Li Qi</u> 、 <u>竹内 誠</u> 、 <u>浅原 良浩</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
長崎変成岩西彼杵ユニットと野母ユニットの蛇紋岩メランジュの比較成因論	<u>西山 忠男</u> 、 <u>森 康</u> 、 <u>重野 未来</u> 、 <u>宮崎 一博</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
常時微動観測データによる微高地判別の可能性	<u>小松原 純子</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>佐藤 善輝</u> 、 <u>納谷 友規</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
日本の土壌地球化学図における元素濃度の支配要因解析	<u>太田 充恒</u>	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.17
Scientific Fruits from the InterRad XV in Niigata 2017	<u>松岡 篤</u> 、 <u>指田 勝男</u> 、 <u>Ugur Kagan TEKIN</u> 、 <u>石田 啓祐</u> 、 <u>栗原 敏之</u> 、 <u>鎌田 祥仁</u> 、 <u>竹村 厚司</u> 、 <u>中江 訓</u> 、 <u>内野 隆之</u> 、 <u>鈴木 紀毅</u> 、 <u>Taniel DANELIAN</u> 、 <u>吉野 隆</u> 、 <u>伊藤 剛</u>	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.23
東京低地の沖積層と最終氷期以降の古地理変遷	<u>小松原 純子</u>	日本地形学連合 2025 年学術大会	2025.11.02
地質情報研究部門 平野地質研究グループ			
東京都市圏の地下を構成する地質情報のデジタル化と利活用	<u>田邊 晋</u>	デジタルツインに関する講演会	2025.05.15
A preliminary result of paleomagnetic measurement for the middle Miocene-lower Pleistocene lacustrine Idaho Group, Idaho State, USA	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>齋藤 めぐみ</u> 、 <u>林 辰弥</u> 、 <u>William Krebs</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
伊勢湾西岸における津沖撓曲の雲出川低地への連続性	<u>佐藤 善輝</u> 、 <u>小松原 琢</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
XRF コアスキャナを用いた沖縄島那覇低地における沖積層コア試料の元素分析	<u>佐藤 善輝</u> 、 <u>小野 映介</u> 、 <u>小岩 直人</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
大分県姫島の更新統唐戸層における Aso-4 テフラ挟在層準の堆積環境	<u>水野 清秀</u> 、 <u>堀内 悠</u> 、 <u>納谷 友規</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
Oxygen isotope-magnetostratigraphy combined with beryllium isotope data	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>中川 陸</u> 、 <u>梶田 展人</u> 、 <u>宇都宮 正志</u> 、 <u>菅沼 悠介</u> 、 <u>平林 幹</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29

during the early Pleistocene super interglacial period from the Otadai Formation, Kazusa Group, central Japan	啓、松崎 宏之、山形 武靖、桑野 太輔、久保田 好美、岡田 誠		
ボードゲーム"Diatoms"の紹介	<u>納谷 友規</u>	日本珪藻学会第 46 回大会	2025.06.14
埼玉県内ボーリングコアの細菌叢の特徴と淡水浮遊性細菌の地下水経路による移動の痕跡	渡邊 圭司、石山 高、濱元 栄紀、柿本 貴志、八戸 昭一、 <u>納谷 友規</u> 、須田 互	日本微生物生態学会	2025.09.07
掛川層群堀之内層におけるガウスー松山古地磁気境界	<u>羽田 裕貴</u> 、 <u>中谷 是崇</u> 、 <u>水野 清秀</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
青森県小川原湖の完新世古環境変遷と考古遺跡	<u>佐藤 善輝</u> 、小野 映介、小岩 直人、樋泉 岳二、工藤 司、斉藤 慶吏	日本地理学会秋季学術大会	2025.09.20

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

Coccolithales 目と Isochrysidales 目のココリスの方解石結晶方位とその系統推定における有用性	<u>宇都宮 正志</u> 、小暮 敏博、萩野 恭子	MRC 微化石研究集会	2026.03.18
パンサラッサ海遠洋域深海底堆積岩における中期三畳紀ラディニアン期湿潤化イベントの検討	<u>塩原 拓真</u> 、 <u>武藤 俊</u> 、尾上 哲治	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
北部北上帯門馬ユニットのジュラ紀付加体における海洋プレート層序基底部の年代決定	<u>武藤 俊</u> 、 <u>塩原 拓真</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
鹿沼地域の地質調査に基づく足尾山地ジュラ紀付加体の地質構造	<u>伊藤 剛</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
Deformation mechanisms and stress field induced by seamount subduction: A case study at Funafuseyama Unit, Mino belt	多久和 風花、山口 飛鳥、大坪 誠、 <u>志村 侑亮</u> 、奥田 花也	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
ペルム紀放射散虫 Albaillellaria にみられる二形性の形態的特徴と原因	<u>伊藤 剛</u>	第 98 回形の科学シンポジウム	2025.06.14
バージニア州南東部、ヨークタウン層（鮮新統）の石灰質ナノ化石層序と群集変化	<u>宇都宮 正志</u> 、DOWSETT Harry J.	日本古生物学会 2025 年会・総会	2025.06.28
新生代円石藻の進化に伴うココリスの結晶方位変化	<u>宇都宮 正志</u> 、小暮 敏博、萩野 恭子、Jean M. Self-Trail	日本古生物学会 2025 年会・総会	2025.06.29
微量元素を用いた判別図の流紋岩類への適用性：日本海拡大期の珪長質火山活動への示唆	<u>山田 来樹</u>	日本鉱物科学会 2025 年年会・総会	2025.09.12
北部九州、朝倉花崗閃緑岩の南北縦断組成変化と岩体成長過程	濱野 裕大、江島 圭祐、 <u>山田 来樹</u> 、横山 立憲、小北 康弘	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
房総半島、5 万分の 1 大多喜地域における前弧海盆堆積物の分布と層序	<u>宇都宮 正志</u> 、小松原 琢、中嶋 輝允、徳橋 秀一	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14

南部北上帯南部西部のペルム系砕屑岩から復元する後背地の変遷	<u>鈴木 敬介</u> 、 <u>瀧川 浩気</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
京都府舞鶴市 冠島(若狭湾)の中新統火山岩の年代と岩相	<u>辻野 匠</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
室戸半島, 暁新世～前期中新世四万十帯付加コンプレックスの後背地変遷	<u>原 英俊</u> 、藤内 智士、松元 日向子	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
飛騨帯のジルコン U-Pb 年代学: 東アジア縁辺の大陸成長史	<u>山田 来樹</u> 、長田 充弘、沢田 輝、仁木 創太、小北 康弘、大内 航、青山 慎之介、平田 岳史	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
陸中大原地域東部における前期白亜紀貫入岩類のジルコン U-Pb 年代	<u>鈴木 敬介</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
飛騨外縁帯早稲谷地域(福井県大野市東部)におけるペルム系小椋谷層の岩相層序と砕屑性ジルコン U-Pb 年代	多田 陸、 <u>鈴木 敬介</u> 、栗原 敏之	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
Lithology and radiolarian fossils of basement rocks of Ie Island, Okinawa, Japan	<u>伊藤 剛</u> 、松岡 篤	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.23
Geologic division and structure of the Jurassic accretionary complexes in the Ashio Mountains: Lithology and radiolarian fossils from the Kanuma District	<u>伊藤 剛</u>	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.23
Radiolarian-bearing clasts within the Phanerozoic in Southwest Japan	<u>伊藤 剛</u>	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.23
Impact of seamount subduction on deformation mechanisms and stress field around subduction plate interface: A case study at Funafuseyama Unit, Mino Belt	多久和 風花、山口 飛鳥、大坪 誠、 <u>志村 侑亮</u> 、奥田 花也	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes 2025	2025.09.24
Lower Permian radiolarians from southeastern Thailand and their paleogeographic significance	Kantanat Trankrunweerayut、指田 勝男、 <u>伊藤 剛</u> 、Salyapongse Sirot、Phutapiban, Prinya	The 4th International Conference on Palaeontology of Southeast Asia	2025.11.26

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

Delamination-induced conjunction of sub-oceanic and sub-arc mantle peridotites in the Hokkaido, northern Japan	<u>山崎 徹</u> 、 <u>下田 玄</u>	EGU General Assembly 2025	2025.04.29
接触変成域・超苦鉄質岩類の変成反応解析に基づく流体挙動の追跡: 赤石山地北部・三波川帯の例	<u>延原 香穂</u> 、築島 由理恵、森 宏、永治 方敬、新屋 貴史、早川 由帆、 <u>山岡 健</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
十和田火山・八戸カルデラ噴火のマグマプロセス	伊藤 ひなた、栗谷 豪、 <u>工藤 崇</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
Estimating of paleo-geothermal gradients in the crust using contact	<u>村上 大知</u> 、 <u>山岡 健</u> 、森 宏、 <u>延原 香穂</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27

metamorphic aureoles and intrusive thermal modeling: A case study of the Kinpusan pluton, Kanto Mountains

Ignimbrite flare-up in Late Cretaceous to Paleocene Japan driven by hot mantle inflow

産総研陸域地質図プロジェクト、5 万分の 1 地質図幅「浜坂」の紹介

深紫外-顕微ラマン分光法を用いたビトリナイト反射率推定

New insights on the Sanbagawa-Ryoke paired metamorphic belts, Japan, and Franciscan complex, USA, from circum-Pacific plate tectonic reconstructions using tomographic slab

接触変成域・超苦鉄質岩類中の変成反応と流体挙動：長野県伊那地域・三波川帯の例

山梨県西沢溪谷上流部の斑岩銅鉱床型変質帯

深紫外顕微ラマン分光法を利用した岩石片からの変成温度推定

変成温度解析と炭素量分析に基づく、接触変成作用に伴う泥質岩中炭質物の減少プロセスの検討：赤石山地北部・三波川帯の例

赤石山地北部・三波川帯における接触変成岩中炭質物のラマン分光分析を用いた石墨化度の不均質性検出

接触変成作用に伴う超苦鉄質岩類の熱変成反応と流体活動：赤石山地北部・三波川帯の例

関東山地西端部の四万十帯白亜紀付加体、「高登谷山層」の再検討

関東山地、金峰山花崗岩の周囲に発達する接触変成帯の熱構造

熊本県天草上島老嶽プルトン周辺の高 Mg 安山岩岩床：瀬戸内火山岩類の西方延長の可能性

放射状岩脈の中心近傍の低い流体圧比：天草下島、富岡半島の例

九州東部佐賀関半島三波川コンプレックス二重類構構造ざくろ石と前弧から三波川沈み込みへの移流の可能性

山岡 健、諸星 暁之、佐藤 大介、三國 和音

羽地 俊樹、工藤 崇、佐藤 大介

高橋 幸士、中村 佳博、金木 俊也

Jonny Wu、Jeremy Tsung-Jui Wu、山岡 健、Simon Wallis

延原 香穂、森 宏、築島 由理恵、永治 方敬、新屋 貴史、早川 由帆、山岡 健

宮下 敦、林 歳彦、村上 浩康、矢野 萌生、山岡 健

中村 佳博、高橋 幸士、金木 俊也

中澤 明子、堀場 汐莉、松林 直亮、森 宏、延原 香穂、三村 耕一、土肥 陽菜、山岡 健、常盤 哲也

森 宏、早川 由帆、田口 知樹、山岡 健、延原 香穂、中澤 明子、高木 大成、常盤 哲也

延原 香穂、森 宏、築島 由理恵、永治 方敬、新屋 貴史、早川 由帆、山岡 健、常盤 哲也

山岡 健、村上 大知、青柳 朋希、常盤 哲也、森 宏、志村 侑亮、井上 梓、浅原 良浩、原 英俊、鎌田 祥仁

山岡 健、村上 大知、延原 香穂、中澤 明子、森 宏

新正 裕尚、牛丸 健太郎、岩野 英樹、平田 岳史、折橋 裕二、佐々木 実

牛丸 健太郎

宮崎 一博、中村 佳博、長田 充弘

日本地球惑星科学連合 2025 年大会

鳥取地学会 第 30 回総会・講演会・研究発表会

石油技術協会春季講演会

Penrose Conference

日本地質学会中部支部 2025 年支部年会

資源地質年会

日本鉱物科学会 2025 年年会・総会

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

2025.05.28

2025.05.31

2025.06.11

2025.06.19

2025.06.21

2025.06.25

2025.09.12

2025.09.13

2025.09.13

2025.09.13

2025.09.13

2025.09.13

2025.09.14

2025.09.14

2025.09.15

近畿地方，後期白亜紀有馬層群のジルコン U-Pb 年代	<u>佐藤 大介</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
山陰東部，浜坂地域の古第三系火成岩の地質と年代	<u>佐藤 大介</u> 、 <u>羽地 俊樹</u> 、仁木 創太、平田 岳史	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
山陰東部，中新統北但層群における地域地質・層序学的基礎研究	<u>羽地 俊樹</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
5 万分の 1 地質図幅「浜坂」における鮮新統層序区分の改訂	<u>羽地 俊樹</u> 、 <u>工藤 崇</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
天然水素生成増進可能性評価に向けた基盤的地質情報整備	<u>山崎 徹</u>	天然水素ワークショップ	2025.10.28
深紫外顕微ラマン分光法を利用した岩石片からの変成温度推定	高橋 幸土、金木 俊也、 <u>中村 佳博</u>	第 42 回 有機地球化学会シンポジウム	2025.11.05
広島県福山市南部，白亜紀火山岩の地質と年代	<u>佐藤 大介</u>	西日本支部令和 7 年度総会・第 176 回例会	2026.02.22

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

Structural and thermal characteristics around an ultramafic body in the low-grade Sanbagawa pelitic schists, central Honshu Island, Japan	<u>片桐 星来</u>	EGU General Assembly 2025	2025.04.27
大量点群データを公開するための点群 PNG タイルツールの開発	<u>西岡 芳晴</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
根田茂帯網取ユニット碎屑性ジルコン複合化学分析に基づいた付加体成長史と前期古生代テクトニクス進化史の解明	青木 翔吾、中野 竜、 <u>内野 隆之</u> 、福山 繭子、昆 慶明	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
九州の斜面災害と地質情報—高精度ハザードマップ作成に向けて—	<u>川畑 大作</u>	日本地すべり学会九州支部	2025.06.03
鉱物の肉眼鑑定	<u>坂野 靖行</u>	ジオ・スクール「第 7 回 鉱物肉眼鑑定研修」	2025.06.04
5 万分の 1 地質図幅のベクトルデータ整備の現状	<u>川畑 大作</u> 、 <u>内藤 一樹</u> 、宮崎 純一、齋藤 英二	GEOINFORUM-2025	2025.06.26
シームレス標高タイルと標高ダウンローダー	<u>西岡 芳晴</u>	GEOINFORUM-2025	2025.06.26
野外地質学～Field Geology～野外調査と GIS について	<u>吉川 敏之</u>	石灰石鉱業協会	2025.07.04
岐阜県田原産 W と Nb に富むコルンブ石超族鉱物の化学組成の再検討	<u>坂野 靖行</u> 、小暮 敏博、奥村 大河	日本鉱物科学会 2025 年年会・総会	2025.09.11
九州北西部雷山・糸島半島周辺の高温型変成岩の温度圧力構造と領家火山弧西方延長の可能性	<u>宮崎 一博</u> 、 <u>村岡 やよい</u> 、池田 剛、西山 忠男	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
阿蘇火山中央火口丘群西部に位置する烏帽子岳火山山体の構造（予報）	宮縁 育夫、 <u>星住 英夫</u> 、松藤 彬成	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
阿蘇火砕流台地に分布するテフラ層にみられるノンテクトニック構造	西山 賢一、山崎 新太郎、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、横田 修一郎	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14

2023 年 7 月の梅雨前線豪雨に伴って九州北部で発生した斜面崩壊	佐伯 拓馬、宮縁 育夫、木戸 道男、 <u>星住 英夫</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
水蒸気噴火を引き起こす火山下の難透水層の岩石・鉱物学的特徴：霧島硫黄山の例	古川 竜太、草野 有紀、井村 匠、山元 孝広、石塚 吉浩、伊藤 順一、松島 喜雄、朝比奈 大輔、 <u>阪口圭一</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 新ビューアの試験公開	<u>西岡 芳晴</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
低変成度泥質片岩の石英曹長石レイヤの変形組織：中部地方渋川地域三波川帯の例	<u>片桐 星来</u> 、道林 克禎	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
水の吸着能力が制御する地すべり土の摩擦挙動	大森 涼生、高橋 美紀、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、上原 真一	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
5 万分の 1 地質図幅を活用した流れ盤・受け盤マップの作成手法	<u>川畑 大作</u> 、 <u>巖谷 敏光</u> 、 <u>宮地 良典</u>	日本地すべり学会	2025.09.17
碎屑性ジルコン複合化学分析に基づく根田茂帯綱取ユニット形成史と前期古生代テクトニクスの解明	中野 竜、青木 翔吾、 <u>内野 隆之</u> 、 <u>昆 慶明</u> 、福山 繭子	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
第 8 回 鉱物肉眼鑑定研修	<u>坂野 靖行</u>	第 8 回 鉱物肉眼鑑定研修	2025.10.01
大量点群データを扱うためのファイルフォーマット点群 PNG を正式公開しました	<u>西岡 芳晴</u>	FOSS4G SHINSHU 2025	2025.10.29
九州の災害履歴の活用	<u>川畑 大作</u>	日本応用地質学会九州支部	2025.11.27
点群データを高速処理！新フォーマット「点群 PNG」を正式公開	<u>西岡 芳晴</u>	SAT テクノロジーショーケース 2026	2026.01.22
さまざまな火山噴火：溶岩流から巨大火砕流まで	<u>星住 英夫</u>	地質標本館企画展「火の国・水の国！大地のふしぎー地質情報展 2025 くまもとー」講演会	2026.01.24
点群 PNG 正式公開と点群ダウンロード	<u>西岡 芳晴</u>	地理院地図パートナーネットワーク会議	2026.01.28
斜面災害のリスク評価に資する九州の接触変成マップの作成	斎藤 眞、 <u>片桐 星来</u> 、 <u>村岡 やよい</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
九州地域接触変成帯マップの整備	<u>片桐 星来</u> 、斎藤 眞	変成岩などシンポジウム	2026.03.18
地質図のはなし	<u>村岡 やよい</u>	地質標本館 ガイドツアー	2026.03.20

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

浅間山における超伝導重力計観測	今西 祐一、池田 博、風間 卓仁、本多 亮、辻 浩、西山 竜一、山本 圭吾、 <u>名和 一成</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
ボーリングデータを用いた埼玉県南東部の 3 次元地質情報整備	<u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27

青森県陸奥湾の地震と S 波スプリッティング解析	岡田 知己、 Savage Martha 、藤村 遼太郎、内田 晴海、 <u>田上 綾香</u> 、木村 洲徳、高木 涼太、前田 純侖、前田 拓人、野口 科子、阿部 信太郎	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
北海道東部の上部地殻における S 波偏向異方性	藤村 遼太郎、岡田 知己、 Savage Martha 、 <u>田上 綾香</u> 、内田 晴海、大園 真子、高橋 浩晃	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
Epidemic-Type Aftershock Sequence モデルを用いた新潟県中越地方の地震活動の時空間解析 (2)	内田 晴海、岡田 知己、藤村 遼太郎、 <u>田上 綾香</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
横浜大岡川低地の地質構成と地盤震動特性：極めて軟弱な沖積層とその基盤をなす固い上総層群	<u>中澤 努</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、坂田 健太郎	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
2024 年岩手県北部の地震活動に伴う S 波偏向異方性推定の時間変化	藤村 遼太郎、岡田 知己、 Savage Martha 、 <u>田上 綾香</u> 、内田 晴海	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
常時微動を用いた経験則に基づく平均 S 波速度マップ：阿蘇カルデラ東部火砕流堆積域の事例	<u>長 郁夫</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、下司 信夫	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
北海道東部の浅部地殻の応力場	<u>田上 綾香</u> 、高橋 浩晃、大園 真子、岡田 知己、 <u>名和 一成</u> 、藤村 遼太郎、内田 晴海	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
愛知県東部中新統北設垂層群に貫入する砂岩岩脈が示す古応力	<u>藪田 桜子</u> 、星 博幸、 <u>竹内 誠</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
都市域の 3 次元地質地盤図：埼玉県南東部の更新統下総層群に見られる構造運動と埋没谷地形	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、坂田 健太郎、 <u>中里 裕臣</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
地震発生層最下部における断層帯内部構造、クリープキャビテーション、延性破壊	重松 紀生、Yeo Thomas、ウォリス サイモン、大橋 聖和、香取 拓馬、小林 慶太、 <u>住田 達哉</u> 、 <u>宮川 歩</u> 、 <u>夢、氏家 恒太郎</u> 、張 春傑	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
Shallow crustal stress field in eastern Hokkaido, Japan (2)	<u>田上 綾香</u> 、高橋 浩晃、大園 真子、岡田 知己、 <u>名和 一成</u> 、藤村 遼太郎、内田 晴海	第 11 回地球・海・空：環境・地球科学国際共同大学院プログラムワークショップ	2025.06.03
情報地球科学・工学：これまでの道のりとこれからのトレンド	村田 健史、深沢 圭一郎、 <u>野々垣 進</u> 、木戸 ゆかり	GEOINFORUM-2025	2025.06.27
Web ベース 3 次元地質地盤モデルビューアの改良：地図・スケール・方位の表示機能の実装	<u>野々垣 進</u> 、 <u>藪田 桜子</u>	GEOINFORUM-2025	2025.06.27
3 次元地質地盤図で読み解く首都圏の地盤と災害リスク	<u>中澤 努</u>	東京地学協会地図講座	2025.08.07
さいたま市の地質・地震災害	<u>中澤 努</u>	さいたま市史刊行記念講座	2025.08.21
千葉県北東部銚子市における浅間火山起源テフラの検出	<u>中里 裕臣</u> 、岩本 直哉、岡崎 浩子	日本第四紀学会 2025 年大会	2025.08.29

ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた花崗岩石材の産地推定の試み	乾 睦子、平賀 あまな、西本 昌司、 <u>中澤 努</u> 、山下 浩之	2025 年度日本建築学会大会（九州）	2025.09.12
下総層群礫層の指標テフラに関する新発見	<u>中里 裕臣</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>田村 亨</u>	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.14
Web API を活用した地層対比システムの開発	櫻井 健一、米澤 剛、根本 達也、 <u>野々垣 進</u>	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.15
都市域の 3 次元地質地盤図：「千葉県北部延長」地域における更新統下総層群の層序	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中里 裕臣</u>	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.15
WebGL を用いた地下浅部 3 次元地質地盤モデル可視化ツール	<u>野々垣 進</u> 、 <u>藪田 桜子</u> 、 <u>中澤 努</u>	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.15
ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた花崗岩建築石材の産地推定に向けて	乾 睦子、西本 昌司、 <u>中澤 努</u> 、山下 浩之、平賀 あまな	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.15
横浜市中心街の低地の地質構成と地盤震動特性：極めて軟弱な沖積層とその基盤をなす固い上総層群	<u>中澤 努</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、尾崎 正紀、坂田 健太郎	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.15
Luminescence dating for identifying depositional sequences in the northeastern Kanto Plain, eastern Japan over the last 400,000 years	Yizhi Zhang、岡崎 浩子、 <u>中里 裕臣</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>田村 亨</u>	7th Asia-Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating	2025.09.22
山間部における微動アレイ探査の適用性について	梶山 敦司、 <u>長 郁夫</u> 、品川 俊介	令和 7 年度 日本応用地質学会研究発表会	2025.10.10
Mapping deep fault geometries by clustering of deep learning enhanced hypocenter distributions and their normal vectors in Hokkaido	Mpuang Admore、椎名 高裕、佐脇 泰典、 <u>田上 綾香</u> 、内出 崇彦	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.20
北海道北部の浅部地殻の応力場	<u>田上 綾香</u> 、高橋 浩晃、大園 真子、岡田 知己	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.21
ETAS モデルを用いた新潟県中越地方および岩手・宮城内陸地域の地震活動の時空間解析	内田 晴海、岡田 知己、藤村 遼太郎、 <u>田上 綾香</u>	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.21
埼玉県南東部における浅部地質と微動 H/V スペクトルのピーク周波数の分布	<u>長 郁夫</u> 、先名 重樹、 <u>野々垣 進</u>	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.21
Applicability of microtremor array survey in mountainous areas	梶山 敦司、 <u>長 郁夫</u>	The 11th Joint Workshop between KICT and PWRI	2025.11.26
不整形地盤における微動特性	上林 宏敏、新井 洋、 <u>長 郁夫</u>	第 53 回地盤震動シンポジウム	2025.12.12
Spatiotemporal analysis of seismicity affected by the Japanese major earthquakes using the Epidemic-Type Aftershock Sequence Model	内田 晴海、岡田 知己、藤村 遼太郎、 <u>田上 綾香</u>	AGU25	2025.12.15
東京都区部の地下を 3 次元で可視化	<u>野々垣 進</u> 、斎藤 眞、 <u>中澤 努</u> 、小松原 純子、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>藪田 桜子</u>	東京イノベーション発信交流会 2026	2026.01.16

Direct comparison of in-space and lab-measured Ryugu spectra	<u>松岡 萌</u>	4th H#JST meeting	2025.04.04
Science operation planning for Hayabusa2#'s flyby target, (98943) Torifune	Masatoshi Hirabayashi、早川 雅彦、三井 裕也、平田 成、岩城 拓弥、鎌田 俊一、金丸 仁明、北里 宏平、神山 徹、坂谷尚哉、千秋 博紀、竹内 央、田中 智、巽 瑛理、湯本 航生、安部正真、藤原 正寛、 <u>松岡 萌</u> 、諸田 智克、佐伯 孝尚、寫生 有理、下村 純人、津田 雄一、山田 学、横田 康弘、はやぶさ2#チーム	EGU General Assembly 2025	2025.05.05
Non-destructive analysis and curation of Bennu samples without atmospheric exposure (大気非暴露下におけるベヌー試料の非破壊分析およびキュレーション)	深井 稜汰、西村 征洋、湯本 航生、長 勇一郎、清水 雄太、 <u>松岡 萌</u> 、巽 瑛理、古川 聡一郎、矢田 達、畠田 健太郎、与賀田 佳澄、榎戸 祐馬、田原 瑠衣、宮崎 明子、川崎 盛矢、杉田 精司、森 晶輝、中原 俊平、愛敬 雄太、宮本 英昭、Cedric Pilorget、Damian Loizeau、Nardelli Laura、Rachel Sheppard、Catharina Lantz、Lucie Riu、Jean-Pierre Bibring、Rosario Brunetto、岡田 達明、安部正真、臼井 寛裕	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
Cross- and inter-band calibrations of the Hyperspectral Imager Suite (HISUI) and potential applications to coastal environmental monitoring	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>土田 聡</u> 、 <u>山本 聡</u> 、浦井 稔、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>池田 あやめ</u> 、 <u>岩男 弘毅</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
Estimated origin of olivine bearing rocks observed at the SLIM landing site on the Moon	大竹 真紀子、佐伯 和人、仲内 悠祐、長岡 央、宮崎 理沙、西野 真木、 <u>山本 聡</u> 、佐藤 広幸、本田 親寿、石原 吉明、西谷 隆介、梶谷 伊織、横田 康弘	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
月クレータにおける岩塊形状と母岩組成の関係：円磨度と球形度の推定	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聡</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
月表層におけるイルメナイト分布の定量化に向けたイルメナイトと輝石および斑レイ岩混合試料の反射分光分析	<u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聡</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
TIR Onboard Calibration Trends	<u>山本 聡</u>	54th ASTER Science Team Meeting	2025.06.10
VNIR Onboard Calibration Trends	<u>山本 聡</u>	54th ASTER Science Team Meeting	2025.06.10
Gap-Filling Hyperspectral Classification Maps using ASTER Data and an Improved TT Classifier	坪松 秀紀、 <u>山本 聡</u> 、外岡 秀行	54th ASTER Science Team Meeting	2025.06.10

研究グループ活動紹介	<u>山本 聡</u>	第1回 産総研宇宙利用ワークショップ	2025.06.13
Machine-learning integration of multiple satellite and meteorological datasets for long-term monitoring of surface vegetation and water states across the Pan-Arctic region	<u>水落 裕樹</u>	International Conference on Environmental Science and Technology	2025.06.18
Creation of information on hydrological cycle variability contributing to the maintenance of resilience in Mongolia (HyCyReMon)	檜山 哲哉、藤波 初木、小谷 亜由美、坂井 亜規子、Hotaek Park、 <u>水落 裕樹</u> 、金森 大成、中井 太郎、石川 守、Avirmed Dashtseren	International Conference on Environmental Science and Technology	2025.06.19
NON-PROCESSED, NON-EXPOSED, AND DETAILED DESCRIPTION IN EXTRATERRESTRIAL MATERIAL CURATION	深井 稜汰、石崎 拓也、金丸 礼、榎戸 祐馬、 <u>松岡 萌</u>	87th Annual Meeting of the Meteoritical Society	2025.07.14
COMPARISON OF REFLECTANCE SPECTRA BETWEEN SAMPLES FROM CARBONACEOUS ASTEROIDS BENNU AND RYUGU	石田 世実、中村 智樹、筒井 皓基、高瀬 大河、川田 理栄仁、 <u>松岡 萌</u> 、天野 香菜、榎戸 祐馬、坂本 佳奈子、橘 省吾	87th annual meeting of The Meteoritical Society	2025.07.14
岡山平野南西部における完新世の貝形虫群集と相対的海水準の時系列変化	石田 世実、中村 智樹、筒井 皓基、高瀬 大河、川田 理栄仁、 <u>松岡 萌</u> 、天野 香菜、榎戸 悠馬、坂本 佳奈子、橘 省吾	日本第四紀学会 2025 年大会	2025.08.29
月の中央丘における岩塊形状のちがい：斜長岩・マフィック鉱物支配領域での比較	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聡</u>	日本惑星科学会 2025 年秋季講演会	2025.09.03
小惑星リュウグウにおける岩塊表面の小クレーター解析に基づく岩塊表面年代と表面更新プロセスの推定	愛敬 雄太、諸田 智克、杉田 精司、長 勇一郎、道上 達広、巽 瑛理、坂谷 尚哉、亀田 真吾、山田 学、横田 康弘、 <u>松岡 萌</u> 、本田 親利、神山 徹、鈴木 秀彦、早川 政彦、吉岡 和夫、小川 和律	日本惑星科学会 2025 年秋季講演会	2025.09.04
Skin-deep difference between Ryugu and Bennu driven by the microphysical evolution of surface materials	湯本 航生、巽 瑛理、坂谷 尚哉、金丸 礼、長 勇一郎、諸田 智克、横田 康弘、Maximilian Hamm、Darhon Golish、神山 徹、亀田 真吾、山田 学、本田 親利、 <u>松岡 萌</u> 、早川 政彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸夫、Dante Laurretta、Antonella Barucci、杉田 精司	EPSC-DPS 2025	2025.09.07
Hayabusa2#'s (98943) Torifune flyby in July 2026: Rapid asteroid characterization using an already-flying spacecraft for planetary defense	Masatoshi Hirabayashi、吉川 真、早川 政彦、三樹 裕也、平田 成、岩城 拓弥、鎌田 俊一、金丸 仁明、北里 宏平、神山 徹、坂谷 尚哉、千秋 博己、竹内 央、田中 聡、巽 瑛理、湯本 航生、安部 正直、藤原 正寛、 <u>松岡 萌</u> 、諸田 智	EPSC-DPS 2025	2025.09.07

	克、佐伯 孝直、寫生 有理、下村 純人、津田 雄一、山田 学、横田 康弘、Hayabusa2 拡張ミッションチーム		
はやぶさ 2 搭載可視光カメラ ONC-T による銀河中心方向の銀河拡散光観測	黒崎 香名、佐野 圭、當銘 優斗、津村 耕司、松浦 周二、瀧本 幸司、岩田 隆浩、山田 学、諸田 智克、神山 徹、早川 雅彦、横田 康弘、巽 瑛理、 <u>松岡 萌</u> 、坂谷 尚哉、湯本 航生、亀田 真吾、鈴木 秀彦、長 勇一郎、吉岡 和夫、小川 和律、白井 慶、澤田 弘崇、杉田 精司	日本天文学会秋季年会	2025.09.09
Indicative Main Belt Asteroid and Near Earth Asteroid Survey Programmes	巽 瑛理、紅山 仁、長谷川 直、 <u>松岡 萌</u> 、大坪 貴文、白井 文彦、塩谷 圭吾	Ariel Consortium Meeting	2025.10.01
Near-Earth Asteroid observations with Ariel	紅山 仁、巽 瑛理、長谷川 直、 <u>松岡 萌</u> 、塩谷 圭吾、大坪 貴文、白井 文彦	Ariel Consortium Meeting	2025.10.01
宇宙からの環境モニタリング：衛星リモートセンシングを活用した沿岸生態系評価技術の開発	<u>山本 聡</u>	令和 7 年度 第 2 回 環境モニタリング技術 WG 講演会	2025.10.06
DIRECT SPECTRAL COMPARISON OF BENNU AND RYUGU SAMPLES REVEALS DIFFERENCES IN THE DEGREE OF AQUEOUS ALTERATION	石田 世実、中村 智樹、筒井 皓基、高瀬 大河、川田 理栄仁、 <u>松岡 萌</u> 、天野 香菜、榎戸 悠馬、坂本 佳奈子、橘 省吾	Bennu and Ryugu: Samples from the Early Solar System	2025.10.07
TOWARD 4-WAY ONSITE-SAMPLE COMPARISON OF OPTICAL SPECTRA OF RYUGU AND BENNU.	杉田 精司、湯本 航生、長 勇一郎、森 晶輝、巽 瑛理、金丸 礼、坂谷 尚哉、横田 康弘、諸田 智克、D. R. Golish、D. N. DellaGiustina、Ralph Milliken、廣井 孝弘、Harold Connolly, Jr.、Antonella Barucci、神山 徹、亀田 真吾、山田 学、本田 親寿、 <u>松岡 萌</u> 、早川 雅彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸生、中原 俊平、宮崎 明子、矢田 透、畠田 健太郎、西村 征洋、深井 稜汰、与賀田 佳澄、K. Nagashima、榎戸 祐馬、中藤 亜衣子、川崎 盛矢、R. Sakurai、安部 正直、岡田 達明、白井 寛裕、橘 省吾、Dante Lauretta	Workshop on Bennu and Ryugu: Samples from the Early Solar System	2025.10.08
斜長石・マフィック鉱物支配の月中央丘における岩塊の大きさと形状のちがい	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聡</u>	衝突研究会 天体の衝突物理の解明 (XXI)?パターン形成?	2025.11.06
A Study on Inter-Regional Generalizability of Machine Learning	坪松 秀紀、 <u>山本 聡</u> 、外岡 秀行	SPIE Future Sensing Technologies	2025.11.11

Models for Wide-Area Mineral

Mapping Using Remote Sensing Data

複数時系列衛星データの統融合における
Transformer ベース AI の有用性検討

河野 周作、緒方 一紀、水落 裕樹

第 69 回宇宙科学技術連合講演会 2025.11.25

藤谷 渉、臼井 寛裕、深井 稜汰、
菅原 春菜、高野 淑識、馬上 謙
一、Beck Andrew、玄田 英典、
Bouvier Audrey、古川 善博、
Duprat Jean、Bonato Enrica、

火星衛星探査計画 MMX のキュレーショ
ン/SAWT の検討状況

Chabot Nancy、Zolensky
Michael、日比谷 由紀、Glavin
Daniel、三河内 岳、三浦 弥生、角
野 浩史、橘 省吾、Jourdan Fred、
Kleine Thorsten、小池 みずほ、松
岡 萌、Moynier Frederic、岡崎 隆
司、Russell Sara

第 69 回宇宙科学技術連合講演会 2025.11.25

火星衛星探査計画 MMX によるサイエン
ス：火星衛星起源科学戦略チーム

中村 智樹、亀田 真吾、巽 瑛理、
松岡 萌、横田 康弘、黒川 宏之、
寺田 直樹、神山 徹、中川 広務、
平田 佳織、菊地 紘、押上 祥子、
湯本 航生、諸田 智克、森田 朋
代、筒井 皓基、石田 世実、坂谷
尚哉、佐藤 隆雄、岩田 隆浩、兵頭
龍樹、玄田 英典、倉本 圭

第 69 回宇宙科学技術連合講演会 2025.11.27

火星衛星探査計画 MMX の LSSWT によ
る着陸候補地点検討状況

清水 雄太、和田 浩二、Simon
Tardivel、Romain Garmier、
Elisabet Canalias、中村 智樹、宮
本 英昭、松本 晃治、平田 成、菊
地 紘、逸見 良道、菊地 翔太、森
田 朋代、小林 真輝人、竹村 知
洋、平田 直之、松岡 萌、巽 瑛
理、黒川 宏之、倉本 圭、巴谷 真
司、岡田 尚基、竹尾 洋介、澤田
弘崇、吉川 健人、Baroukh
Julien、Patrick Michel、Stephan
Ulamec、Jens Biele、

第 69 回宇宙科学技術連合講演会 2025.11.28

竹尾 洋介、池田 人、大木 優介、
小川 和律、岩田 隆浩、吉川 健
人、澤田 弘崇、中村 智樹、寺田
直樹、中川 広務、松本 晃治、菊地
翔太、Eric Sawyer、Simon

火星衛星探査計画 MMX のミッション
運用検討状況

Tardivel、神山 徹、松岡 萌、千秋
博紀、和田 浩二、Nancy L.
Chabot、David J. Lawrence、三橋
政次、小郷原 一智、Antonietta
Barucci、草野 広樹、今村 剛、清
水 雄太、平田 成、亀田 真吾、
Patrick N. Peplowski、倉本 圭

第 69 回宇宙科学技術連合講演会 2025.11.28

月周回衛星画像から探る岩塊の形成と移動過程	<u>池田 あやめ</u> 、熊谷 博之、諸田 智克	惑星圏シンポジウム 2026 LOC	2026.03.02
Recent lab experiments and synergy with the MIRS team	<u>松岡 萌</u>	MIRS International Team Meeting #4	2026.03.03
Cross-Region Mineral Mapping with Hyperspectral data-Trained Multispectral data Features	坪松 秀紀、 <u>山本 聡</u> 、外岡 秀行	IEEE Aerospace Conference	2026.03.12
Two-dimensional Shape and Height-based Characterization of Lunar Slope Boulders	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聡</u>	The 57th Lunar and Planetary Science Conference	2026.03.17
時系列小型衛星を用いた斜面災害後の異なる地質間での斜面安定度の比較	<u>中村 涼</u> 、 <u>水落 裕樹</u>	日本森林学会	2026.03.17
宇宙から観た地球～最先端の衛星リモートセンシング～	<u>山本 聡</u>	つくば Science Edge 2026	2026.03.28

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

Importance of post-event rapid-response surveys for understanding past events in geological records	<u>池原 研</u>	岩相記載スクール 2025	2025.04.07
北部日本海溝底の最新イベント堆積物	<u>池原 研</u> 、Jun-Ting Lin、Jyh-Jaan Steven Huang	日本堆積学会 2025 年東京大会	2025.04.19
Identifying tsunamigenic megathrust events in the Japan Trench through sedimentary biomarkers	Piero Bellanova、Sara Trotta、Morgane Bunet、Natascha Riedinger、Christian Marz、Troy Rasbury、Martin Koelling、Rui Bao、Min Luo、Michael Strasser、 <u>池原 研</u>	EGU General Assembly 2025	2025.04.29
XRF core scanning based chemostratigraphic correlation for paleoseismology in the central Japan Trench	Jyh-Jaan Steven Huang、Jun-Ting Lin、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser	EGU General Assembly 2025	2025.04.30
Paleo- and rock magnetic investigations on sediments collected at Site C9035 in the Enshu Nada	山本 裕二、金松 敏也、Kan-Hsi Hsiung、石澤 堯史、 <u>池原 研</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
平面 2 次元混濁流モデリングの野外スケールへの適用—1929 年グランドバンクス地震の例—	<u>中西 諒</u> 、成瀬 元、藤島 誠也	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
古地震復元に向けた数値モデリングによるタービダイト形成過程の再現?喜界島周辺海域を例として—	<u>中西 諒</u> 、成瀬 元、喜岡 新、常岡 廉、根本 夏林、藤島 誠也、佐藤 瑠晟、井尻 暁、芦 寿一郎、横山 祐典、 <u>天野 敦子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
Geological evidence for repeated slip-to-the-trench style megathrust earthquakes at the Japan Trench	Charlotte Pizer、 <u>池原 研</u> 、Myra Keep、喜岡 新、小平 秀一、三浦 亮、Japer Moernaut、中村 恭之、Michael Strasser	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26

Paleoseismological record around IODP C0019 site JTRACK, Japan Trench	金松 敏也、 <u>池原 研</u> 、Kan-Hsi Hsiung、Yu-Chun Chang、新井 和乃	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
宮古島周辺海域の底質分布	<u>杉崎 彩子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
珪藻化石カウントにおける Object detection の有用性：保存状態と形態的多様性が検出精度に与える影響	<u>石野 沙季</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、福田 素久	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
沖縄トラフ南部，八重山海底地溝・与那国海底地溝における地殻の伸長変形の空間的不均一	山本 朱音、大坪 誠、新井 隆太、 <u>三澤 文慶</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
An innovative approach to understanding tectonic evolution in the Eastern Nankai Trough, Central Japan.	Eyang ondo Philomene vanessa、平 朝彦、 <u>三澤 文慶</u> 、横山 由香、荒井 晃作、坂本 泉	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
S-net 観測網を用いた混濁流検出の試み	<u>中西 諒</u> 、喜岡 新、成瀬 元	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
鹿児島県トカラ列島南西沖における海底火山の分布：背弧海盆の伸張による応力場との関係	<u>石野 沙季</u> 、古山 精史朗、 <u>高下 裕章</u> 、石塚 治、加持 恵達	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
巨大地震の裏側～巨大化させないメカニズム	日野 亮太、内田 直希、篠原 雅尚、伊藤 喜宏、飯沼 卓史、中村 恭之、金松 敏也、 <u>池原 研</u> 、中田 令子	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
能登半島地震と能登豪雨のイベント堆積物	<u>池原 研</u> 、佐川 拓也、ジェンキンス ロバート	洪水起源海底混濁流一実地観測とその意義	2025.08.23
相模湾酒匂川ファンデルタの地形、堆積物と堆積システム	<u>池原 研</u> 、 <u>杉崎 彩子</u>	洪水起源海底混濁流一実地観測とその意義	2025.08.23
島尻層群および知念層中の浮遊性有孔虫化石群集に基づく後期中新世から前期更新世にかけての中琉球弧付近の黒潮変動	長間 祐介、 <u>有元 純</u> 、西田 尚央、藤田 和彦	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
沖縄トラフ南部の海底地溝を繋ぐ Transfer Zone における変形様式の力学的な特徴	山本 朱音、大坪 誠、 <u>三澤 文慶</u> 、新井 隆太	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
紀伊水道徳島沖の海底下撓曲構造と重力異常	<u>有元 純</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15
南部琉球弧および沖縄トラフに産する苦鉄質および珪長質火山岩の岩石学	鶴澤 直己、市山 祐司、 <u>三澤 文慶</u> 、石塚 治	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
八重山海底地溝におけるマグマ貫入構造の空間変化：反射法地震探査による考察	新井 隆太、 <u>三澤 文慶</u> 、大坪 誠、木下 正高、 <u>石野 沙季</u> 、山本 朱音	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
琉球弧北部から採取した鮮新世一前期更新世の堆積岩および珪質微化石群集	<u>石野 沙季</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>有元 純</u> 、石塚 治、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>田中 裕一郎</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
海域を震源とする地震イベント直後の海域調査はなぜ重要なのか？	<u>池原 研</u> 、佐川 拓也、ジェンキンス ロバート	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16

御前崎沖掘削コア中のタービダイトが示す地震と地震履歴	<u>池原 研</u>	静岡大学防災総合センター研究会	2025.10.18
Sakawa River fan-delta slope: bathymetry, surface sediments and OSL doses	<u>池原 研</u> 、 <u>杉崎 彩子</u>	Land-to-Sea Shaking Studies Workshop	2025.10.21
Summary on Japan margin paleoseismology	<u>池原 研</u> 、 <u>金松 敏也</u> 、 <u>中西 諒</u> 、 <u>佐川 拓也</u>	Magellan Plus workshop: Land-to-Sea Shaking Studies	2025.10.22
利尻火山沿岸の海底地形解釈：火口位置情報と海陸シーレス火山地質図に向けて	石塚 吉浩、 <u>三澤 文慶</u>	北海道火山勉強会 2025 年度	2025.10.25
Drilling the whole trench-fill sequence in the central Japan Trench: IODP3 Expedition 503	<u>池原 研</u> 、Michael Strasser、前田 玲奈	2025 Western Pacific Drilling Meeting	2025.11.13
高密度電気探査による離水サンゴ礁内での空隙把握の試み	小森 省吾、水山 克、 <u>三澤 文慶</u>	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.29
Intrusions, Faults, and Fluid Flow in a Back-Arc Rift System: Seismic Constraints from the Yaeyama Rift, the Southern Okinawa Trough	新井 隆太、 <u>三澤 文慶</u> 、大坪 誠、木下 正高、 <u>石野 沙季</u> 、山本 朱音	AGU25	2025.12.16
What is an event deposit? New insights from facies analysis in a hadal trench environment	Mishelle Muthre、Jean-Noel Proust、Charlotte Pizer、 <u>池原 研</u> 、Jyh-Jaan Steven Huang、成瀬 元、Michael Strasser	ISC 2026	2026.01.26
Reconstruction of Turbidite Formation Processes Using Numerical Modeling Based on Instrumentally Observed Earthquakes in the Ryukyu Trench	<u>中西 諒</u> 、成瀬 元、喜岡 新、常岡 廉、根本 夏林、藤島 誠也、佐藤 瑠晟、 <u>天野 敦子</u> 、井尻 暁、横山 祐典、芦 寿一郎	ISC 2026	2026.01.27
Tracking past slip-to-the-trench events in the trench-fill deposits in the central Japan Trench Basin	<u>池原 研</u> 、Michael Strasser、Charlotte Pizer、中村 恭之、前田 玲奈、IODP3 Expedition 503 Science Team	ISC 2026	2026.01.29
Towards Integrated Microfacies Identification: Combining Multi-Parameter CT Analysis and XRF-CS Clustering in Sediment Cores	Jyh-Jaan Steven Huang、Yen-Hsi Wu、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser	ISC 2026	2026.01.29
渡島大島山体崩壊に伴う地質災害発生メカニズムの解明：白鳳丸 KH-25-6 航海報告	<u>有元 純</u> 、石塚 治、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、Conway Christopher、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>中西 諒</u> 、前野 深、片岡 香子、古山 精史朗、金子 琉、米山 岬、延原 蒼馬、坂本 泉、新井 仁菜、宮田 裕晟、古橋 皇、松井 浩紀、 <u>小田 和佳</u> 、亀尾 桂、芦田 将成、中尾 眞子、那須 俊勝	海と地球のシンポジウム 2025	2026.03.11
火成活動史と詳細地形、地殻構造データの統合による背弧リフティングの成因と進化過程の解明-北部琉球弧-沖縄トラフ-	石塚 治、 <u>鈴木 克明</u> 、 <u>片山 肇</u> 、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>石野 沙季</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、梶原 勘吉、 <u>三澤 文慶</u> 、亀尾 桂、	海と地球のシンポジウム 2025	2026.03.11

田村 千織、古山 精史朗、南 宏
樹、青木 智、横山 由香、玉井 隆
章、中村 希、徳田 悠希、岩谷 北
斗、中野 太賀、浅賀 桂衣、洲濱
愛、小澤 紬、堀内 禎希、片山 陽
平、中尾 眞子

地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

Ecological response to anthropogenic climate change in the Beaufort Sea: Biennial-scale evidence from proxy and instrumental records during the last ~70 years	Laura Gemery, Renata Szarek, Kenta Suzuki, Jason A. Addison, Beth E. Caissie, Young Jin Joe, <u>清家 弘治</u> , Katsura Yamada, Jonaotaro Onodera, Motoyo Itoh, Masanobu Yamamoto	EGU General Assembly 2025	2025.04.27
A High-Throughput Automated Microfossil Classification System Using Deep Learning	<u>板木 拓也</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>見邨 和英</u> 、池原 実	EGU General Assembly 2025	2025.05.02
モンゴル西部 Zavkhan テレーンに分布する 3-8 億年前の火成岩および深成岩の古地磁気強度	穴井 千里、 <u>小田 啓邦</u> 、長谷部 徳子、長谷川 精	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
Rock Magnetic Changes of Seismogenic Fault Rocks from the Onshore Accretionary Complex Revealed by Scanning SQUID Microscopy	<u>内田 泰蔵</u> 、 <u>小田 啓邦</u> 、福與 直人、橋本 善孝	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
宮古島礁性石灰岩の古地磁気層序および岩石磁気・風成塵の記録	<u>小田 啓邦</u> 、穴井 千里、福與 直人、伊藤 孝、兼子 尚知	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
能登半島北部沿岸の低位段丘の調査—北西部吉浦周辺の詳細地形と表層構造および北東部での OSL 年代測定結果—	赤井 東、安藤 亮輔、穴倉 正展、行谷 佑一、 <u>田村 亨</u> 、伊藤 一充、細矢 卓志、後藤 慧、松本 なゆた、寺田 龍矢	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
伊予灘北部海域における高分解能反射法音波探査	大上 隆史、 <u>佐藤 智之</u> 、丸山 正、吉見 雅行、宮下 由香里、太田 耕輔、佐藤 正良、中村 祐貴、高畑 萌子、佐藤 誉司、武田 伸勝	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
Modern analog of sequestrichnia: shrimp burrows stuffed with seagrass leaves	<u>清家 弘治</u> 、後藤 龍太郎、H Allen Curran	18th International Ichnofabric Workshop	2025.05.26
Modern Macaronichnus burrow on a sandy beach in New South Wales, Australia	<u>清家 弘治</u> 、Thomas Oliver	18th International Ichnofabric Workshop	2025.05.26
U-Pb Dating of Biogenic Apatite in Pelagic Clay: A New Approach for Deep-Sea Sediment Chronology	寺内 大貴、伊藤 健吾、大田 隼一郎、 <u>見邨 和英</u> 、中村 謙太郎、安川 和孝、平田 岳史、加藤 泰浩	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
日本海珪質堆積物コアのスミアスライド画像を用いた岩相の自動判別技術	吉岡 純平、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>見邨 和英</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、関 有沙	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27

深層学習を活用した東青ヶ島カルデラにおける海底熱水活動の探査	金子 純二、野崎 達生、笠谷 貴史、杉本 洋平、玄田 貴之、 <u>見邨和英</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
LA-ICP-MS 分析に基づく南鳥島レアアース泥中の生物源アパタイトの化学的特徴	吉田 瑛亮、安川 和孝、寺内 大貴、 <u>見邨和英</u> 、中村 謙太郎、加藤 泰浩	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
マンガンクラストの縞状構造が記録する過去 650 万年間における北西太平洋の風成塵フラックス変動	長谷川 精、高馬 菜々子、臼井 朗、 <u>小田 啓邦</u> 、川畑 博、高橋 浩規、伊藤 孝、奥村 知世、浦本 豪一郎、柏原 輝彦、山本 正伸	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
鉄マンガンクラストを用いた中新世以降の太平洋溶存酸素濃度の復元	山本 正伸、臼井 朗、 <u>小田 啓邦</u> 、柏原 輝彦、長谷川 精	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
鉄マンガンクラストの極微細古地磁気層序による年代推定と手法開発	<u>小田 啓邦</u> 、福與 直人、山本 正伸、臼井 朗、柏原 輝彦、長谷川 精、河合 淳、河端 美樹	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
北西太平洋における放散虫の自動分類：バーチャルスライドスキャナーと深層学習による高解像群集解析の試み	<u>板木 拓也</u> 、本山 功、松崎 賢史、上栗 伸一、 <u>見邨和英</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.30
Measurements and Corrections	<u>小田 啓邦</u>	The 14th IRM Conference on Rock Magnetism	2025.06.11
Automated High-Throughput Profiling of radiolarian species Cycladophora davisiana in Southern Ocean Sediments	<u>板木 拓也</u> 、 <u>見邨和英</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、池原 実、松井 浩紀	Korea-France jointed workshop on Southern Ocean paleoceanography	2025.06.12
Assessing the Reliability of Bioapatite U-Pb Dating in Pelagic Clay: A Case Study from western North Pacific Ocean	寺内 大貴、伊藤 健吾、大田 隼一郎、 <u>見邨和英</u> 、中村 謙太郎、安川 和孝、平田 岳史、加藤 泰浩	Goldschmidt2025	2025.07.10
地質と AIー地球を読み解く新たなアプローチ【微化石編】	<u>見邨和英</u>	地質標本館特別展「地質と AI」講演会	2025.07.21
IRM Conference on Rock Magnetism 報告	<u>小田 啓邦</u>	地磁気・古地磁気・岩石磁気夏の学校	2025.09.03
海底液状化が底生生物に及ぼす影響：水槽振動台実験からのアプローチ	<u>清家 弘治</u> 、佐々 真志	2025 年 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会	2025.09.10
機械学習を用いた微化石画像群のデータ構造抽出：データ駆動型のイクチオリス層序学確立に向けて	<u>見邨和英</u> 、中村 謙太郎、安川 和孝	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.14
走査型 SQUID 顕微鏡を用いた陸上付加体中の断層岩の岩石磁気特性解析と変形組織との比較	<u>内田 泰蔵</u> 、 <u>小田 啓邦</u> 、川畑 博、福與 直人、橋本 善孝	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.16
Sediment transport of the Kujukuri coast revealed by residual doses from IRSL and pIRIR of K-feldspar	<u>小森 康太郎</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、 <u>田村 亨</u>	7th Asia-Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating	2025.09.22
Quantifying the longshore sediment transport using residual doses of K-	<u>本間 海那</u> 、 <u>田村 亨</u> 、臼井 正明	7th Asia-Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating	2025.09.22

feldspar pIRIR, southeastern Japan Sea

Revisiting the beach-ridge set hypothesis in Japan using K-feldspar luminescence dating	<u>田村 亨</u> 、 <u>片岡 香子</u> 、 <u>本間 海那</u>	7th Asia-Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating	2025.09.22
AI-assisted high-resolution record of the Cycladophora davisiana percentage curve in the Southern Ocean	<u>板木 拓也</u> 、 <u>見邨 和英</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>池田 昌之</u> 、 <u>松井 浩紀</u> 、 <u>菅沼 悠介</u> 、 <u>池原 実</u>	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.22
A review of recent image recognition technologies and their application to classification of radiolarians	<u>見邨 和英</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>片岡 裕雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u>	InterRad XVII (17th International Meeting on Fossil and Living Radiolaria)	2025.09.24
伊豆大島火山の全磁力変動に関する研究	<u>笹岡 雅宏</u> 、 <u>浅利 晴紀</u> 、 <u>小田 啓邦</u>	日本火山学会 2025 年度秋季大会	2025.10.01
Towards the Development of a National Database for Relative Sea Level Rise in Japan	<u>田村 亨</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>澤井 祐紀</u> 、 <u>板木 拓也</u>	61st CCOP Annual Session	2025.11.05
鉄マンガングラストの極微細古地磁気層序における高精度年代推定手法	<u>小田 啓邦</u> 、 <u>福與 直人</u> 、 <u>山本 正伸</u> 、 <u>臼井 朗</u> 、 <u>柏原 輝彦</u> 、 <u>長谷川 精</u> 、 <u>河合 淳</u> 、 <u>河端 美樹</u>	地球電磁気・地球惑星圏学会 2025 年秋季年会	2025.11.26
Evidence for thermal event during cataclastic flow: pyrite breakdown and oxidation in a fossil seismogenic fault	<u>内田 泰蔵</u> 、 <u>小田 啓邦</u> 、 <u>川畑 博</u> 、 <u>福與 直人</u> 、 <u>橋本 善孝</u>	AGU25	2025.12.18
Vertical burrow structures in a sandy beach: examples from Australian coasts	<u>清家 弘治</u> 、 <u>Thomas Oliver</u>	ISC 2026	2026.01.29
Dense aggregations of shrimp burrows in the lower shoreface off a modern beach, central Japan	<u>清家 弘治</u> 、 <u>田村 亨</u> 、 <u>小森 康太郎</u>	ISC 2026	2026.01.29

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

Effects of mineralogy and porosity on seismic velocity of fore-arc basalts and boninites in Bonin fore-arc collected by IODP Expedition 352	<u>赤松 祐哉</u> 、 <u>道林 克禎</u> 、 <u>藤井 昌和</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>山本 由弦</u> 、 <u>神谷 奈々</u> 、 <u>柵山 徹也</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
Fluid sampling in the deepest serpentinite-hosted vent site, Shinkai Seep Field, Southern Mariana Arc: Revisiting after 8 years	<u>奥村 知世</u> 、 <u>宮崎 淳一</u> 、 <u>川口 慎介</u> 、 <u>田角 栄二</u> 、 <u>高井 研</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>Anderson Molly</u> 、 <u>Chin Emily</u> 、 <u>Dygert Nicholas</u> 、 <u>Le Roux Veronique</u> 、 <u>Leybourne Matthew</u> 、 <u>小原 泰彦</u> 、 <u>Pujana Ignacio</u> 、 <u>Stern Robert</u> 、 <u>TN438 on board scientist and students</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
フィリピン海四国海盆背弧拡大初期に形成された土佐メガマリオン	<u>井上 創</u> 、 <u>道林 克禎</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>小原 泰彦</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
Microstructural and petrological analyses of the gabbroic rocks along	<u>針金 由美子</u> 、 <u>谷 健一郎</u> 、 <u>石塚 治</u> 、 <u>沖野 郷子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26

the Vulcan Transform in the Southern Ocean

	石塚 治、 <u>佐藤 太一</u> 、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、海野 進、Trinh Nguyen Thi My、坂本 泉、		
Interaction between seafloor spreading and arc formation	Nozomi, Nakamura, Satoshi, Watanabe, Kouki, Mori, Yuka Yokoyama、谷 健一郎、Rex N Taylor、小原 泰彦、Conway Edward Christopher	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
炭酸塩に着目した南部マリアナ前弧域における蛇紋岩ホストアルカリ性湧水域の探索	安達 巧祐、奥村 知世、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
マリーセレストトランスフォーム断層を用いて海洋地殻の鉛直磁化構造を探る試み	鈴木 諒翼、島 伸和、田村 千織、芦田 将成、 <u>小野 誠太郎</u> 、沖野 郷子、藤井 昌和	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
Near-bottom magnetic survey of the Central Indian Ridge for paleomagnetic and tectono-magmatic reconstruction	藤井 昌和、沖野 郷子、田村 千織、 <u>小野 誠太郎</u> 、伊藤 禎宏、島 伸和、鈴木 諒翼	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
白鳳丸 KH-19-6 Leg4 航海の地球物理観測と Phoenix Ridge の拡大プロセスの初期解析	高下 裕章、本莊 千枝、周 錦煜、藤井 昌和、沖野 郷子、池原 実、山口 飛鳥	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
Tectonic evolution of the Mariana Trough	<u>小野 誠太郎</u> 、沖野 郷子、島 伸和、山崎 俊嗣	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
五島列島周辺海域に露出する花崗岩類について	青木 智、石塚 治、 <u>針金 由美子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
北部沖縄トラフの海山で採取されたサンゴモドキ科ヒドロサンゴと相模湾産サンゴモドキ科ヒドロサンゴの比較検討	笹田 真菜恵、徳田 悠希、石塚 治、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>鈴木 克明</u>	日本動物分類学会第 60 回大会	2025.06.07
Recycling ages of oceanic crust: implications from FOZO and HIMU type OIBs	<u>下田 玄</u> 、小木曾 哲	2025 Taiwan Geosciences Assembly	2025.06.17
北部沖縄トラフの海山で採取されたサンゴモドキ科ヒドロサンゴの分類学的検討	笹田 真菜恵、徳田 悠希、石塚 治、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>鈴木 克明</u>	日本古生物学会 2025 年会・総会	2025.06.28
Prolonged post-emplacement cooling of andesitic-dacitic lava flows produces optimal groundmass material for Ar/Ar dating	Conway Christopher、Andrew Calvert、Graham Leonard、山崎 誠子、石塚 治、 <u>針金 由美子</u>	IAVCEI Scientific Assembly	2025.07.01
Recycling age of oceanic crust estimated with FOZO and HIMU type OIB	<u>下田 玄</u> 、小木曾 哲	Goldschmidt2025	2025.07.07
Assessing Mo isotope variations in siliciclastic sedimentary rocks deposited before the Great Oxidation Event	<u>後藤 孝介</u> 、丸岡 照幸、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、田近 英一	Goldschmidt2025	2025.07.09

Transition from late Cretaceous seafloor spreading to arc magmatism along the Tethyan margin	石塚 治、Moghadam, H.S.、谷 健一郎、 <u>針金 由美子</u> 、T. Morishita	Goldschmidt2025	2025.07.09
Volcanism and hydrothermal fluids led to oolitic ironstone deposition under high Carboniferous pO ₂	Alex Kovalick、Bodo Weber、Andy Heard、Maria Prokopenko、Robert Gaines、Sune Nielsen、Maryjo Brounce、 <u>後藤 孝介</u> 、Andrey Bekker	18th SGA Biennial Meeting	2025.08.03
Luzon 火山弧北部、台湾 Lanyu 島産超苦鉄質捕獲岩の岩石学的特徴	森下 知晃、古口 航、荒木 拓真、秋澤 紀克、田村 明弘、 <u>針金 由美子</u> 、水上 知之、谷 健一郎	日本鉱物科学会 2025 年年会・総会	2025.09.10
Repeated Horst-Graben Subduction Forms Thick Deformation Zones near the Décollement	<u>高下 裕章</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、Michelle M. Nishimoto、大熊 祐一、橘 隆海、 <u>小田 和佳</u> 、藤内 智士、兼子 尚知、大坪 誠	GeoMOD2025	2025.09.12
米試料のストロンチウム同位体比測定に向けた前処理法の検証：酸分解におけるホウ酸処理の効果	有賀 智子、朱 彦北、三浦 勉、 <u>後藤 孝介</u> 、 <u>下田 玄</u>	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.18
標準岩石試料の微量元素分析と Pb-Nd-Sr 同位体比測定	<u>下田 玄</u>	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.19
クリスタルマッシュのメルト抽出過程：富士山・伊豆大島の深成岩捕獲岩からの制約	西ヶ谷 琴音、石橋 秀巳、大塚 芽久、吉田 那緒、 <u>針金 由美子</u> 、外西 奈津美、安田 敦	日本火山学会 2025 年度秋季大会	2025.10.03
南鳥島周辺における浅部海洋地殻の構造変化	金子 琉、中東 和夫、 <u>山下 幹也</u> 、飯島 耕一	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.20
東北日本における周波数依存性を考慮した S 波スプリッティング解析	藤村 遼太郎、岡田 知己、Savage Martha、 <u>田上 綾香</u> 、内田 晴海	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.20
房総沖三重会合点近傍におけるプレート境界断層先端部の構造的特徴	<u>山下 幹也</u> 、仲西 理子、三浦 誠一、武田 哲也、木村 尚紀、笠原 敬司	日本地震学会 2025 年度秋季大会	2025.10.20
マリーセレストトランスフォーム断層における海洋地殻の鉛直磁化構造の推定とその成因	鈴木 諒翼、島 伸和、田村 千織、芦田 将成、 <u>小野 誠太郎</u> 、沖野 郷子、藤井 昌和	SGEPSS	2025.11.25
FOZO-HIMU から見積もるリサイクル年代	<u>下田 玄</u> 、小木曾 哲	質量分析学会同位体比部会 2025	2025.12.04
「能登半島地震と海底ケーブル故障」に関する地球科学的な問題の検討	野 徹雄、黒田 浩之、佐川 拓也、中嶋 亮太、 <u>高下 裕章</u> 、金松 敏也、今井 健太郎、川口 勝義、中村 恭之、藤江 剛、富士原 敏也	海底ケーブルの科学利用と関連技術に関する将来展望	2025.12.05
Effect of chemical and isotopic variation of DMM on the estimation of recycling ages of oceanic crusts	<u>下田 玄</u> 、小木曾 哲	AGU25	2025.12.19
Exploring chemical variations and thermal history of the lower crust and uppermantle within the Mariana Trench: Signatures of subduction?	Emily Etheridge、Nicholas J Dygert、Molly Anderson、Anah Bogdan、Chin Emily、 <u>針金 由美子</u> 、George Denny、Leybourne	AGU25	2025.12.19

	Matthew、小原 泰彦、奥村 知世、 Pujana Ignacio、George Segee- Wright、Stern Robert		
2024 年能登半島地震に関連した混濁流 は発生したのか？	野 徹雄、黒田浩之、佐川 拓也、中 嶋 亮太、 <u>高下 裕章</u> 、金松 敏也、 富士原 敏也、今井 健太郎、川口 勝義、中村 恭之、高井 星香、藤江 剛、岡田 史音、谷口 加寿己	海と地球のシンポジウム 2025	2026.03.11

地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

表層型メタンハイドレート賦存域周辺に おける深海性甲殻類の幼生分散および遺 伝的連結性	<u>齋藤 直輝</u> 、依藤 実樹子、 <u>喜瀬 浩 輝</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>井口 亮</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年 大会	2025.05.25
表層型メタンハイドレート開発における 堆積物埋性メガベントス採集技術の新 規考案	石田 洋、瀬尾 絵里子、鈴木 信 也、藤木 徹、大西 庸介、 <u>喜瀬 浩 輝</u> 、宮嶋 佑典、塚崎 あゆみ、鈴木 昌弘	日本地球惑星科学連合 2025 年 大会	2025.05.25
Fidelity of symbiotic Dinoflagellate diversity of large benthic foraminifera in severe shallow-reefs compared to deep-reefs	前田 歩、濱本 耕平、 <u>西島 美由 紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年 大会	2025.05.27
地点間および種間比較によるサンゴ礁域 においてナマコ糞便内細菌叢が担う生態 学的役割の考察	濱本 耕平、 <u>西島 美由紀</u> 、前田 歩、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>井口 亮</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年 大会	2025.05.28
海底マンガニ床の採掘を想定した海水 振とう試験による金属放出の評価	<u>山岡 香子</u> 、戸田 美沙、酒井 琴 和、岡村 哲郎、 <u>鈴木 淳</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年 大会	2025.05.29
ICP-MS によるリチウムの分析	中野 かずみ、朱 彦北、 <u>鹿籠 康 行</u> 、 <u>山岡 香子</u>	第 85 回分析化学討論会	2025.05.30
日本海側地震・津波履歴の解明に向けた 地質学的検討：福井県坂井市での例	篠崎 鉄哉、土山 祐之、笠井 克 己、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、佐野 雅規、後藤 和久	日本第四紀学会 2025 年大会	2025.08.30
東京湾の網羅的解析でみる微生物群集構 造	<u>井口 亮</u> 、福村 龍星、 <u>西島 美由 紀</u> 、 <u>SOONG GIUNYEE</u> 、山崎 大 志	2025 年日本ベントス学会・日本 プランクトン学会 合同大会	2025.09.10
トワイライトゾーンの八放サンゴ群集の モニタリング手法として環境 DNA は有 効か	<u>高田 健司</u> 、 <u>井口 亮</u> 、林原 毅、野 中 正法、長井 敏、目崎 拓真、古 井戸 樹、 <u>西島 美由紀</u> 、安田 仁奈	2025 年日本ベントス学会・日本 プランクトン学会 合同大会	2025.09.10
マルチオミクスを用いた髄膜腫の分子プ ロファイル解析	大谷 悠斗、江口 盛一郎、 <u>井口 亮</u> 、財津 桂	第 50 回日本医用マスメクトル 学会年会	2025.09.13
Brain metabolomics による LPS 誘導 急性炎症モデルマウスの解析	杉浦 伸之輔、谷口 賢、寛 智貴、 大谷 悠斗、林 由美、磯貝 美結、 久恒 一晃、浅野 友美、江口 盛一 郎、 <u>井口 亮</u> 、財津 桂	第 50 回日本医用マスメクトル 学会年会	2025.09.13
鳥海山西麓における地下水および河川水 を介した炭素を中心とした物質循環	森田 椋人、梶田 展人、岡崎 淳 史、上田 七海、梅田 浩司、内田 悦生、 <u>山岡 香子</u> 、川幡 穂高	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.17

日本海上越海丘の表層型メタンハイドレート胚胎域における表層堆積物及び間隙水の化学組成	<u>山岡 香子</u> 、源田 亜衣、太田 雄貴、塚崎 あゆみ、宮嶋 佑典、吉岡 秀佳、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.17
上越沖メタンハイドレート分布域に供給される流体の起源	阪井 康真、井尻 暁、宮嶋 佑典、吉岡 秀佳、 <u>山岡 香子</u> 、石川 剛志	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.18
サンゴ群体の石灰化に与える海水中のリン酸塩の影響	Tanya Singh、 <u>井口 亮</u> 、高橋 俊一、酒井 一彦、塚崎 あゆみ、水山 克、 <u>鈴木 淳</u>	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.29
ナマコによるリン酸塩除去と、そのサンゴ骨格成長量にあたる影響の測定	塚本 萌夢、渡辺 幸三、大西 秀次郎、 <u>井口 亮</u> 、濱本 耕平	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.30
ショウガサンゴに対する海洋アルカリ化の影響	依藤 実樹子、 <u>儀武 滉大</u> 、林 正裕、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.30
沖縄島沿岸全域での環境酵素分布の可視化	<u>井口 亮</u> 、 <u>濱本 耕平</u> 、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、依藤 実樹子、 <u>SOONG GIUNYEE</u> 、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、水山 克、長田 智史、城間 博紹、北野 宏明、 <u>鈴木 淳</u>	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.30
南西諸島のサンゴ共生微生物の群集構造は緯度勾配では決定されない	<u>儀武 滉大</u> 、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、善岡 祐輝、中島 祐一、 <u>齋藤 直輝</u> 、酒井 一彦、安田 仁奈、 <u>井口 亮</u>	日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (2025)	2025.11.30
ポリアミンが水生生物に与える影響評価ー飼育実験と遺伝子解析によるアプローチー	<u>井口 亮</u> 、飯島 真理子、 <u>儀武 滉大</u> 、水澤 奈々美、安元 純、安元 剛	日本ポリアミン学会第 15 回年会	2026.01.24
酒田海丘における掘削による攪乱が底生生物相に与える影響	加藤 正悟、高月 直樹、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、太田 雄貴、浅田 美穂、佐藤 幹夫、 <u>齋藤 直輝</u> 、高島 創太郎、長野 和則、伊藤 駿	表層型 MH の研究開発 2025 年度研究成果報告会	2026.02.18
表層型メタンハイドレート賦存域の遺伝子解析に関する研究	<u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、依藤 実樹子、 <u>齋藤 直輝</u> 、 <u>儀武 滉大</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、池内 絵里、林 正裕、徳弘 航季、三澤 遼、藤田 純太	表層型 MH の研究開発 2025 年度研究成果報告会	2026.02.18
ホバリング型 AUV「YOUZAN」を用いた掘削影響調査（上越沖）	加藤 正悟、高島 創太郎、長野 和則、高月 直樹、伊藤 駿、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ、太田 雄貴、浅田 美穂、佐藤 幹夫	表層型 MH の研究開発 2025 年度研究成果報告会	2026.02.18
上越海丘における掘削調査前後の小型底生生物相について	向井 稜、濱治 良彬、 <u>喜瀬 浩輝</u>	表層型 MH の研究開発 2025 年度研究成果報告会	2026.02.18
上越海丘掘削調査による再堆積層の生物地球化学的特徴	太田 雄貴、青柳 智、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、堀 知行、鈴木 昌弘、塚崎 あゆみ	表層型 MH の研究開発 2025 年度研究成果報告会	2026.02.18

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

日本沿岸域における海岸砂、河口堆積物中のマイクロプラスチックの分布と形状	<u>天野 敦子</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、宇智田 奈津代、田中 厚資、鈴木 剛	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.25
--------------------------------------	---	---------------------	------------

元素特性による紀伊水道，紀ノ川沖の完新世の堆積環境変遷	<u>天野 敦子</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
MORB-like mantle noble gases beneath the oldest oceanic plate	小長谷 智哉、角野 浩史、 <u>三國 和音</u> 、町田 嗣樹、平野 直人	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
Primary issues in major element characterization of ultramafic rocks: revisiting the matrix effect in XRF analysis and reference values of igneous reference materials	<u>三國 和音</u> 、石川 晃、佐藤 隆	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.27
Dust deposition and hydroclimate history revealed by Be isotope analysis on lake sediments from Lake Motosu during the Holocene	根本 夏林、横山 祐典、Stephen Obrochta、宮入 陽介、藤原 治、山本 真也、 <u>中村 淳路</u> 、Aurelia Hubert-Ferrari、Vanessa Heyvaert、Marc De Batist	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.28
Radiocarbon Dating of Fossil Pollen for Lacustrine Sediment Chronology: A Case Study from Lake Kawaguchi	常岡 廉、横山 祐典、宮入 陽介、山本 真也、 <u>中村 淳路</u> 、藤原 治、Aurelia Hubert-Ferrari、Vanessa Heyvaert、Marc De Batist、the QuakeRecNankai Team	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.29
紀伊水道における粒度，元素による完新世の時空間的な堆積環境の変化	<u>天野 敦子</u> 、 <u>清家 弘治</u>	日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本大会）	2025.09.16
東北日本沖、マリアナ沖に沈み込む北西太平洋プレート下のマントル揮発性成分組成	佐野 真、平野 直人、奥村 聡、清水 健二、秋澤 紀克、 <u>三國 和音</u> 、田村 明弘、森下 知晃	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.19
GSJ 地球化学標準物質の現状と将来展望	<u>久保田 蘭</u> 、 <u>中村 淳路</u> 、 <u>三國 和音</u> 、 <u>太田 充恒</u>	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.19
白亜紀海洋地殻の強親鉄性元素組成と Re-Os 年代	<u>三國 和音</u> 、石川 晃、横山 哲也、町田 嗣樹、平野 直人、	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.19
GSJ 標準物質のハロゲン濃度と均質性評価（続編）－ 詳細検討と新規試料を加えて	<u>遠山 知亜紀</u>	2025 年度日本地球化学会 第 72 回年会	2025.09.19
プチスポット玄武岩の揮発性成分から探る上部マントル不均質	佐野 真、平野 直人、奥村 聡、清水 健二、秋澤 紀克、 <u>三國 和音</u> 、田村 明弘、森下 知晃	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 MOWALL-CIR 海洋地殻形成プロセスとトランスフォーム断層 (KH-24-4 航海成果)	2025.10.20
Research on microplastics of coastal sediments in Japan（日本の沿岸海域堆積物中マイクロプラスチック研究）	<u>天野 敦子</u>	the second Research Coordination Meeting (RCM) for CRP K41024	2025.10.21
Impact of petit-spot magmatism on subduction zone seismicity and global geochemical cycles: International Ocean Drilling Programme (IODP3) Expedition 502	Katie Preece、Asuka Yamaguchi、Hiroko Kitajima、Natsumi Okutsu、 <u>三國 和音</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、The IODP3 Expedition 502 Science Team	Volcanic and Magmatic Studies Group (VMSG) Annual Meeting 2026	2026.01.05

From drill to thrill: uncovering the impact of Petit-Spot submarine magmatism on Subduction Zone Seismicity and Global Geochemical Cycle through IODP3 Expedition 502	Francesco Narduzzi、Paola Vannucchi、Asuka Yamaguchi、Hiroko Kitajima、Natsumi Okutsu、 <u>三國 和音</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、The IODP3 Expedition 502 Science Team、Riccardo Tribuzio、Elisa Petranich、Stefano Covelli、Federico Farina	The annual meeting of the Working Group on Mediterranean Ophiolites	2026.02.06
GSJ 地球化学標準試料の役割とこれからについて	<u>三國 和音</u>	2025 年度地球化学若手会「春の研究会」	2026.03.09
Drilling Targeting Petit-Spot Magmatism at the Japan Trench Subduction Zone: IODP3 Expedition 502	Matt J. Ikari、山口 飛鳥、北島 弘子、奥津 なつみ、 <u>三國 和音</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、The IODP3 Expedition 502 Science Team	ICDP-IODP3 Colloquium 2026	2026.03.09
地質情報研究部門 地球物理研究グループ			
Fault geometries of the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula earthquake from hypocenter clustering	佐脇 泰典、椎名 高裕、寒河江 皓大、佐藤 圭浩、堀川 晴央、 <u>宮川 歩夢</u> 、今西 和俊、内出 崇彦	米国地震学会 2025 年年次大会 (SSA2025)	2025.04.15
Subduction of Horst-and-Graben Structures and Their Impact on Plate Boundary Faults: Numerical and Drilling Perspectives	<u>宮川 歩夢</u> 、奥田 花也、濱田 洋平、中村 恭之、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>野田 簾</u> 、Regalla Christine、Kirkpatrick James、氏家 恒太郎、Conin Marianne、Fulton Patrick、小平 秀一、江口 暢久、前田 玲奈、奥津 なつみ、Toczko Sean、IODP Exp.405 乗船研究者一同	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
Drone magnetic survey for the landslide risk assessment: A case of Hatakura area, Yufu City, Oita Pref., Kyushu, Japan	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、 <u>阪口 圭一</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宮地 良典</u>	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	2025.05.26
地質と AI 地質調査って？AI って？	<u>宮川 歩夢</u>	地質標本館特別展「地質と AI」講演会	2025.07.19
地質と AI 地質調査って？AI って？	<u>宮川 歩夢</u>	地質標本館特別展「地質と AI」講演会	2025.07.21
Fault Geometries of the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula Earthquake from Hypocenter-Based Hierarchical Clustering of Point-Cloud Normal Vectors	佐脇 泰典、椎名 高裕、寒河江 皓大、佐藤 圭浩、堀川 晴央、 <u>宮川 歩夢</u> 、今西 和俊、内出 崇彦	AOGS2025	2025.07.27
ドローン磁気探査による蛇紋岩分布の抽出：赤石山地北部・三波川帯の例	<u>國谷 七海</u> 、森 宏、宿輪 隆太、安井 悠人、 <u>延原 香穂</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、常盤 哲也、小澤 和浩、 <u>山岡 健</u> 、永治 方敬、 <u>村上 大知</u>	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.13
ドローン磁気探査による蛇紋岩分布の抽出：赤石山地北部・三波川帯の例	<u>國谷 七海</u> 、森 宏、宿輪 隆太、安井 悠人、 <u>延原 香穂</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、常盤 哲也、小澤 和	日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)	2025.09.15

	浩、 <u>山岡 健</u> 、永治 方敬、 <u>村上 大知</u>		
機械学習による火山灰構成粒子自動識別機能の応用	下司 信夫、 <u>宮川 歩夢</u>	日本火山学会 2025 年度秋季大会	2025.10.01
Analysis of Beach Sand Grain Composition Using Deep Learning	永田 春樹、清野 聡子、下司 信夫、 <u>宮川 歩夢</u>	APAC 2025 (International Conference on Asian and Pacific Coasts)	2025.11.05
蛇紋岩体の磁気探査に関する予察的研究 一長野県白馬村地域の空中磁気異常の解析	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>田上 綾香</u>	公益社団法人 物理探査学会 第153 回(2025 年度秋季)学術講演会	2025.11.26
火山噴火推移評価 報告書作成支援：緊急・集中的な調査実施時の負担軽減&品質の担保	<u>宮川 歩夢</u> 、松本 恵子	中央省庁・独立行政法人様向け Microsoft 365 Copilot 活用セミナー (第二回)	2025.11.28

5.5 イベント

発表題目	関係者	イベント名／開催場所	開催日
SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2025	持丸 華子、井口 亮、武井 勇二郎、兼子 尚知、福田 和幸、藤原 智晴、瀬口 寛樹、朝川 暢子、清水 裕子、中村 由美、下川 浩一、川邊 禎久	SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2025, 2025 年 4 月 12 日、つくばセンター広場 及び つくばセンタービル co-en	2025.04.12
「地質の日」経済産業省特別企画「南海トラフ地震研究の今?地質を知り、地震に備える?」	宋倉 正展、澤井 祐紀、行谷 佑一、嶋田 侑真、北川 有一、板場 智史、 <u>中澤 努</u> 、都井 美穂、持丸 華子、 <u>小松原 純子</u> 、清水 徹、利光 誠一、 <u>中村 淳路</u> 、大坪 誠、 <u>野田 篤</u> 、斎藤 真、川畑 晶、百目鬼 洋平、山谷 忠大、松本 弾、谷川 晃一朗、伊尾木 圭衣、長江 敦子、川畑 史子	南海トラフ地震研究の今—地質を知り、地震に備える—, 2025 年 5 月 8 日-6 月 3 日、経済産業省本館 1 階ロビー	2025.05.08- 2025.06.03
地質標本館 イベント 「地球のかけらを覗いてみよう!きれいな砂の世界」	兼子 尚知、川邊 禎久、中村 由美、松本 恵子、 <u>池田 あやめ</u> 、持丸 華子、瀬口 寛樹、藤原 智晴、福田 和幸、朝川 暢子、清水 裕子、下川 浩一、土井 琢磨、 <u>牛丸 健太郎</u> 、太田 耕輔、新谷 直己、 <u>中西 諒</u> 、石橋 未来	地質標本館 イベント 「地球のかけらを覗いてみよう!きれいな砂の世界」, 2025 年 5 月 10 日、地質標本館	2025.05.10
2025 年度第 1 回 地質調査研修	利光 誠一、 <u>米岡 佳弥</u> 、斎藤 真	2025 年度第 1 回 地質調査研修, 2025 年 5 月 12 日-5 月 16 日	2025.05.12- 2025.05.16
日本地球惑星科学連合 2025 年大会の一般展示ブース出展	持丸 華子、清水 徹、大坪 誠、 <u>中村 淳路</u> 、児玉 信介、松本 恵子、 <u>小松原 純子</u> 、宝田 晋治、長江 敦子、柳澤 教雄、都井 美穂、佐藤 努、中川 圭子、瀬口 寛樹、常木 俊宏、山口 政史、比田 茜	日本地球惑星科学連合 2025 年大会の一般展示ブース出展, 2025 年 5 月 25 日-5 月 30 日	2025.05.25- 2025.05.30
産業技術総合研究所が公開するデジタルデータ	<u>内藤 一樹</u> 、宮崎 純一、斎藤 英二、大野 哲二、 <u>川畑 大作</u>	GIS コミュニティフォーラム, 2025 年 5 月 29 日-5 月 30 日、東京ミッドタウン	2025.05.29- 2025.05.30
信州大学理学部合同会社説明会	<u>山岡 健</u> 、松本 恵子	信州大学理学部合同会社説明会, 2025 年 5 月 31 日	2025.05.31- 2025.06.01
地質標本館イベント「地質標本館 一点解説」	雨澤 勇太、 <u>小野 誠太郎</u> 、池永 有弥、福田 和幸、瀬口 寛樹、藤原 智晴、武井 勇二郎	地質標本館 イベント 「地質標本館 一点解説」, 2025 年 6 月 14 日、地質標本館	2025.06.14
館長が案内するヘリテージストーン ー筑波山塊の花崗岩と地質図ー	<u>中澤 努</u> 、佐藤 努、瀬口 寛樹、藤原 智晴、福田 和幸、常木 俊宏、比田 茜、佐田 朋子、宮原 祐子、鈴木 浩子	館長が案内するヘリテージストーン ー筑波山塊の花崗岩と地質図ー, 2025 年 8 月 1 日、地質標本館	2025.08.01
地質標本館イベント「化石クリーニング体験教室 ー2025ー」	兼子 尚知、川邊 禎久、 <u>辻野 匠</u> 、中村 由美、利光 誠一、朝川 暢子、清水 裕子、藤原 智晴、福田	化石クリーニング体験教室 ー2025ー, 2025 年 8 月 22 日、地質標本館	2025.08.22

	和幸、下川 浩一、土井 琢磨、瀬口 寛樹、武井 勇二郎		
	坂野 靖行、左部 翔大、柳澤 教雄、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>山田 来樹</u> 、池永有弥、川邊 禎久、利光 誠一、 <u>辻野 匠</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>有元 純</u> 、 <u>中澤 努</u> 、兼子 尚知、下川 浩一、土井 琢磨、 <u>住田 達哉</u> 、瀬口 寛樹、藤原智晴、福田 和幸、朝川 暢子、清水裕子、武井 勇二郎	地球なんでも相談, 2025 年 8 月 23 日、地質標本館	2025.08.23
地質標本館イベント「地球なんでも相談」			
企業と博士人材の交流会（名古屋大学）	<u>中村 淳路</u>	企業と博士人材の交流会, 2025 年 8 月 26 日、名古屋大学	2025.08.26
全地連技術フォーラム 2025 山形	<u>米岡 佳弥</u> 、都井 美穂、川畑 史子、斎藤 眞	全地連技術フォーラム 2025 山形, 2025 年 9 月 11 日-9 月 12 日、山形テルサ	2025.09.11- 2025.09.12
	中尾 信典、清水 徹、植村 聖、持丸 華子、 <u>小松原 純子</u> 、利光 誠一、金木 俊也、 <u>水落 裕樹</u> 、太田耕輔、瀬口 寛樹、吉見 雅行、穴倉正展、中村 由美、 <u>大熊 茂雄</u> 、落唯史、丸山 正、吉岡 秀佳、井川 怜欧、 <u>宮地 良典</u> 、森川 徳敏、 <u>星住 英夫</u> 、高橋 幸士、 <u>遠山 知亜紀</u> 、山崎 誠子、 <u>石野 沙季</u> 、清水 恵、兼子 尚知、木尾 竜也、宮下 由香里、斎藤 眞、天谷 宇志、小野 昌彦、 <u>川畑 大作</u> 、川邊 禎久、長江敦子、村田 賢彦、原田 美樹、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>西岡 芳晴</u> 、 <u>藪田 桜子</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、山谷 忠大、佐藤 努、常木 俊宏、藤原 智晴、比田 茜、百目鬼 洋平、川畑 晶、石橋 未来、都井 美穂、竹田 幹郎、 <u>野田 篤</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、下舞 千春、山谷 祐介、東郷 洋子、土田 恭平、 <u>中島 礼</u> 、橋本 優里、 <u>中澤 努</u> 、岩崎 渉、竹村 謙信、山下 健一、川畑 史子、実松 健造、高橋 浩、風早康平、清水 日奈子	地質情報展 2025 くまもと, 2025 年 9 月 13 日-9 月 15 日、熊本城ホール	2025.09.13- 2025.09.15
地質情報展 2025 くまもと			
地質学会「地質業界説明会」でのリクルート活動	松本 恵子、 <u>野田 篤</u> 、草野 有紀、大坪 誠	地質業界説明会, 2025 年 9 月 15 日、熊本大学	2025.09.15
地質標本館イベント「絵の具になる鉱物」	福田 和幸、川邊 禎久、東郷 洋子、松本 恵子、 <u>池田 あやめ</u> 、兼子 尚知、中村 由美、朝川 暢子、瀬口 寛樹、藤原 智晴、下川 浩一、清水裕子、 <u>田上 綾香</u>	地質標本館イベント「絵の具になる鉱物」, 2025 年 12 月 6 日、地質標本館	2025.12.06
New windows into a Hadal Oceanic Trench and Japan's Earthquake	Michael Strasser、 <u>池原 研</u>	Drilling into ocean's past: Scientific Ocean Drilling on	2025.12.15

History: Discoveries from Ultra-Deep-
Water Scientific Coring and Drilling

D/V Chikyu in the Japan
Trench, 2025 年 12 月 15 日、フ
ランス大使館

東京イノベーション発信交流会 2026	<u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>藪田 桜子</u> 、 <u>川畑 史子</u> 、 <u>長江 敦子</u> 、 <u>藤原 智晴</u> 、 <u>朝川 暢子</u> 、 <u>中村 由美</u> 、 <u>清水 裕子</u> 、 <u>柳澤 教雄</u>	東京イノベーション発信交流会, 2026 年 1 月 16 日、東京都立産業技術研究センター本部 東京イノベーションハブ	2026.01.16
地質標本館イベント「地球なんでも相談」	<u>中澤 努</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>下川 浩一</u> 、 <u>武井 勇二郎</u> 、 <u>瀬口 寛樹</u> 、 <u>福田 和幸</u> 、 <u>藤原 智晴</u> 、 <u>朝川 暢子</u> 、 <u>清水 裕子</u> 、 <u>中村 由美</u> 、 <u>住田 達哉</u> 、 <u>川邊 禎久</u> 、 <u>坂野 靖行</u> 、 <u>左部 翔大</u> 、 <u>柳澤 教雄</u> 、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>池永 有弥</u> 、 <u>斎藤 眞</u> 、 <u>利光 誠一</u> 、 <u>辻野 匠</u>	「地球なんでも相談」, 2026 年 2 月 7 日、地質標本館	2026.02.07
地質調査総合センターオンライン説明会	<u>岩橋 くるみ</u> 、 <u>藤原 治</u> 、 <u>大川 裕之</u> 、 <u>森川 徳敏</u> 、 <u>宍倉 正展</u> 、 <u>前田 純伶</u> 、 <u>雨澤 勇太</u> 、 <u>宮越 昭暢</u> 、 <u>新谷 毅</u> 、 <u>東郷 洋子</u> 、 <u>戸崎 裕貴</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>眞弓 大介</u> 、 <u>森本 和也</u> 、 <u>相馬 宣和</u> 、 <u>森田 澄人</u> 、 <u>湊 翔平</u> 、 <u>横田 俊之</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>太田 充恒</u> 、 <u>今泉 博之</u> 、 <u>水落 裕樹</u>	地質調査総合センターオンライン説明会, 2026 年 2 月 24 日-2 月 25 日	2026.02.24- 2026.02.25
岩相記載実習	<u>入野 智久</u> 、 <u>池原 研</u>	J-DESC コアスクール コア解析基礎コース, 2026 年 3 月 20 日-3 月 21 日、高知コアセンター	2026.03.19- 2026.03.22
観察コアの概括・総括	<u>池原 研</u>	J-DESC コアスクールコア解析基礎コース, 2026 年 3 月 22 日-3 月 22 日、高知コアセンター	2026.03.19- 2026.03.22
地質標本館イベント「地質標本館ガイドツアー」	<u>中澤 努</u> 、 <u>川邊 禎久</u> 、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>武井 勇二郎</u> 、 <u>瀬口 寛樹</u> 、 <u>藤原 智晴</u> 、 <u>福田 和幸</u>	地質標本館ガイドツアー, 2026 年 3 月 20 日、地質標本館	2026.03.20

5.6 プレス発表

プレス発表件名	関係者	公開日
岩手県北上山地の詳細な地質を明らかにした地質図が刊行ー5 万分の1 地質図幅「門」ー	<u>武藤 俊</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>西岡 芳晴</u>	2025.04.04
埼玉県主要都市部の地下の軟弱層の分布を3次元で可視化ー都市域の地質地盤図「埼玉県南東部」を公開ー	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u>	2025.04.22
南極氷床の融解がさらなる融解を呼ぶー9000 年前に起きた南極氷床大規模融解の原因解析から、将来、南極で起こりうる連鎖的氷床融解を提唱ー	<u>板木 拓也</u>	2025.11.06
Dinoflagellate diversity of large benthic foraminifera in harsh shallow-water environments	<u>前田 歩</u> 、 <u>濱本 耕平</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	2025.06.06
白亜紀の日本列島に大規模カルデラ噴火が集中した理由を解明	<u>山岡 健</u> 、 <u>佐藤 大介</u> 、 <u>三國 和音</u> 、 <u>諸星 暁之</u>	2025.09.03
核DNAから探るサワガニの複雑な分布と進化史 “色”だけでは見抜けない集団構造を明らかに	<u>國島 大河</u> 、 <u>高田 賢人</u> 、 <u>西川 完途</u> 、 <u>儀武 滉太</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u>	2025.07.16
斜面崩壊が水環境に与えるインパクトー崩壊堆積物の形成が河川水質や微生物コミュニティの変化につながることを発見ー	<u>吉原 直志</u> 、 <u>飯島 真理子</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u>	2025.08.04
深海における海山間の生態系のつながりを明らかにー浮遊幼生の分散シミュレーションによる連結性の可視化ー	<u>齋藤 直輝</u> 、 <u>喜瀬 浩輝</u> 、 <u>Washburn Travis</u> 、 <u>池内 絵里</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>鴨志田 紘子</u> 、 <u>鈴木 淳</u>	2025.11.27
日本各地におけるタイヤ由来マイクロプラスチックによる汚染状況の解明	<u>天野 敦子</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>田中 厚資</u> 、 <u>鈴木 剛</u> 、 <u>仲山 慶</u>	2025.08.22
茨城県北部、棚倉断層帯沿いの新たな地質図が刊行	<u>中江 訓</u>	2026.01.26
通信光ファイバによる地盤モニタリング手法に関するプレスリリース	<u>湊 翔平</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>横田 俊之</u> 、 <u>児玉 匡史</u> 、 <u>神宮司 元治</u>	2025.10.21
小笠原に回遊するアオウミガメのプラスチック汚染の実態を解明	<u>藤谷 天蔵</u> 、 <u>衣奈 駿治</u> 、 <u>細谷 藤真</u> 、 <u>李 盛源</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>岩崎 望</u> 、 <u>中野 知香</u>	2025.12.25
ひとさじのイルメナイトと輝石の混合実験ー月の海に眠るイルメナイトの含有量をリモートセンシングで正確に知るためのデータ基盤を整備ー	<u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聡</u>	2026.02.24
火山地域の地中構造を高精細に可視化する「ドローン磁気探査」技術を確立	<u>大熊 茂雄</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>米倉 光</u> 、 <u>阪口 圭二</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>宣地 良典</u> 、 <u>松島 喜雄</u>	2026.02.26
宇宙から浅い海の世界を読み解く：ハイパースペクトルが明らかにした「クロロフィルaのサイン」	<u>山本 聡</u> 、 <u>水山 克</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>池田 あやめ</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>井口 亮</u>	2026.03.23

5.7 受賞

受賞	受賞者	受賞内容	受賞年月
Geophysical Research Letters top 10 % of most-viewed papers published by the journal in 2023	Amezawa, Y. Hiramatsu、 <u>宮川 歩</u> <u>夢</u> 、K. Imanishi、M. Otsubo	受賞論文： Long-Living Earthquake Swarm and Intermittent Seismicity in the Northeastern Tip of the Noto Peninsula, Japan. Geophysical Research Letters Volume 50, Issue 828, April 2023, e2022GL102670	2025.04.
2025 年度日本地質学会研究奨励賞	<u>米岡 佳弥</u>	対象論文： 米岡 佳弥, 坂田 健太郎, 本郷 美佐緒, 中里 裕臣, 中澤 努, 2024, 下総台地北西部の地下に 分布する中部更新統下総層群清 川層の層相・物性の側方変化. 地質学雑誌, 130, 223–238.	2025.09.

資料編

付 1 構成及び所在

地質情報研究部門 (Research Institute of Geology and Geoinformation)

研 究 部 門 長

| | |

| ↳ 副研究部門長 ↳ 事務スタッフ

|

└ 平野地質研究グループ (Quaternary Basin Research Group)

└ 層序構造地質研究グループ (Stratigraphy and Tectonics Research Group)

└ 地殻岩石研究グループ (Orogenic Processes Research Group)

└ シームレス地質情報研究グループ (Integrated Geo-information Research Group)

└ 情報地質研究グループ (Geoinformatics Research Group)

└ リモートセンシング研究グループ (Remote Sensing Research Group)

└ 海洋地質研究グループ (Marine Geology Research Group)

└ 地球変動史研究グループ (Paleogeodynamics Research Group)

└ 海洋環境地質研究グループ (Marine Geo-Environment Research Group)

└ 資源テクトニクス研究グループ (Tectonics and Resources Research Group)

└ 地球化学研究グループ (Geochemistry Group)

↳ 地球物理研究グループ (Geophysics Group)

所在地 〒 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 つくばセンター中央事業所 7 群

TEL/FAX 029-861-3540 (地質調査総合センター 総合受付)

mail igg-webmaster-ml@aist.go.jp

ホームページ <http://unit.aist.go.jp/igg/>

付 2 職員等

地質情報研究部門

野田 篤	研究部門長
宮地 良典	副研究部門長
太田 充恒	〃
中江 訓	部 門 付 (キャリアリサーチャー)
中島 礼	〃 (兼務)
岩男 弘毅	〃 (兼務)
小松原 純子	〃 (兼務)
富田 陽子	〃 (業務室事務担当)
竹内 誠	特定フェロー
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1 名
クレリカルスタッフ	1 名

平野地質研究グループ

納谷 友規	研究グループ長
田邊 晋	上級主任研究員
佐藤 善輝	主任研究員
中谷 是崇	研 究 員
羽田 裕貴	〃
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	2 名
リサーチアシスタント	1 名
産学官制度来所者	3 名

層序構造地質研究グループ

原 英俊	研究グループ長
伊藤 剛	上級主任研究員
辻野 匠	主任研究員
宇都宮 正志	〃
武藤 俊	〃 (兼務)
志村 侑亮	研 究 員
鈴木 敬介	〃
山田 来樹	〃
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1 名
リサーチアシスタント	2 名
技術研修	4 名
産学官制度来所者	6 名

地殻岩石研究グループ

工藤 崇	研究グループ長
山崎 徹	上級主任研究員
佐藤 大介	主任研究員
中村 佳博	〃
羽地 俊樹	〃
山岡 健	研 究 員
牛丸 健太郎	〃
その他の構成員	
リサーチアシスタント	1 名
産学官制度来所者	8 名
派遣	1 名

シームレス地質情報研究グループ

内野 隆之	研究グループ長
西岡 芳晴	キャリアリサーチャー
坂野 靖行	主任研究員
長森 英明	〃
川畑 大作	〃
阿部 朋弥	〃
村岡 やよい	研 究 員
片桐 星来	〃
吉川 敏之	研究グループ付 (兼務)
内藤 一樹	〃
宝田 晋治	〃
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	6 名
リサーチアシスタント	1 名
クレリカルスタッフ	1 名
産学官制度来所者	4 名

情報地質研究グループ

長 郁夫	研究グループ長
野々垣 進	上級主任研究員
米岡 佳弥	研 究 員
藪田 桜子	〃
田上 綾香	〃
中澤 努	研究グループ付 (兼務)
名和 一成	〃
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	2 名
産学官制度来所者	1 名

リモートセンシング研究グループ

山本 聡	研究グループ長
水落 裕樹	主任研究員 (兼務)
松岡 萌	研 究 員
池田 あやめ	〃
土田 聡	招聘研究員
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1 名
リサーチアシスタント	2 名
技術研修	1 名
SE	2 名
産学官制度来所者	2 名

海洋地質研究グループ

井上 卓彦	研究グループ長
三澤 文慶	主任研究員
有元 純	〃
石野 沙季	研 究 員
鈴木 克明	〃
中西 諒	〃
片山 肇	招聘研究員
池原 研	〃
その他の構成員	

テクニカルスタッフ 3 名
産学官制度来所者 4 名

地球変動史研究グループ

板木 拓也 研究グループ長
小田 啓邦 上級主任研究員
田村 亨 〃
佐藤 智之 主任研究員
清家 弘治 〃 (兼務)
杉崎 彩子 〃
飯塚 睦 研 究 員
見邨 和英 〃

その他の構成員

テクニカルスタッフ 6 名
リサーチアシスタント 4 名
技術研修 4 名
産学官制度来所者 8 名
国際制度来所者 2 名
派遣 1 名

海洋環境地質研究グループ

井口 亮 研究グループ長 (兼務)
鈴木 淳 上級主任研究員
長尾 正之 主任研究員
山岡 香子 〃 (兼務)
齋藤 直輝 研 究 員 (兼務)
喜瀬 浩輝 〃
田中 裕一郎 招聘研究員

その他の構成員

産総研特別研究員 1 名
テクニカルスタッフ 8 名
リサーチアシスタント 4 名
産学官制度来所者 8 名
国際制度来所者 1 名

資源テクノクス研究グループ

山下 幹也 研究グループ長
針金 由美子 上級主任研究員
下田 玄 主任研究員
佐藤 太一 〃
後藤 孝介 〃
高下 裕章 〃
小野 誠太郎 研 究 員

その他の構成員

テクニカルスタッフ 1 名
リサーチアシスタント 1 名
産学官制度来所者 2 名

地球化学研究グループ

天野 敦子 研究グループ長
間中 光雄 主任研究員
久保田 蘭 〃
遠山 知亜紀 〃
中村 淳路 〃
三國 和音 研 究 員

その他の構成員

テクニカルスタッフ 1 名

地球物理研究グループ

宮川 歩夢 研究グループ長
伊藤 忍 主任研究員 (~ 2025.9.30)
大谷 竜 主任研究員
住田 達哉 〃

その他の構成員

テクニカルスタッフ 2 名
リサーチアシスタント 1 名
技術研修 1 名
産学官制度来所者 7 名

2025 年度部門在籍者について、2026.3.31 現在を基本に作成しています。在籍期間が限られている場合は () 内に示しています。

地質情報研究部門 2025 年度年報

2026（令和 8 年）9 月 8 日発行

編集・発行 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報研究部門
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 つくばセンター中央事業所 7 群
TEL/FAX 029-861-3540（地質調査総合センター 総合受付） Email igg-webmaster-ml@aist.go.jp

© 2026 IGG/AIST 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。